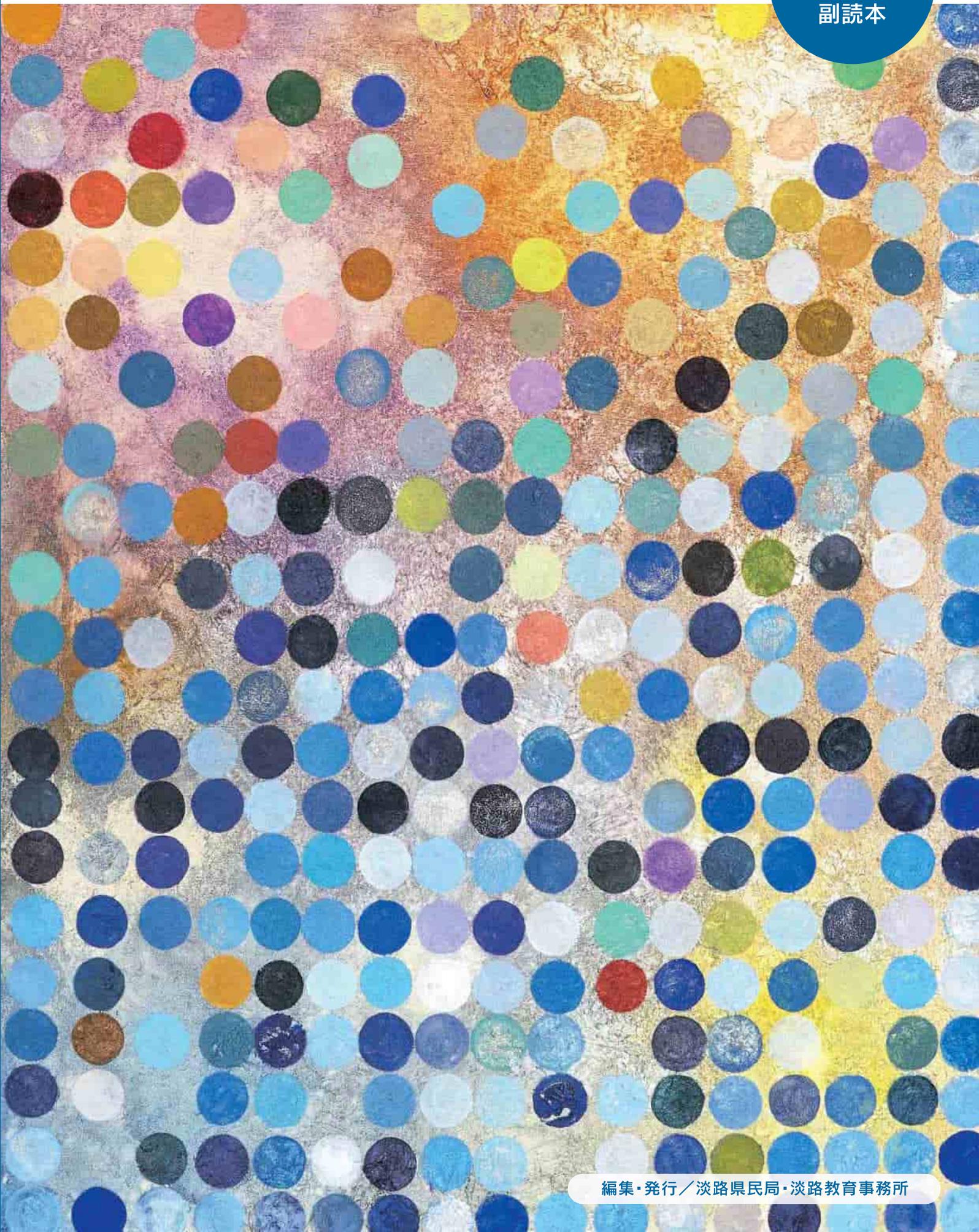
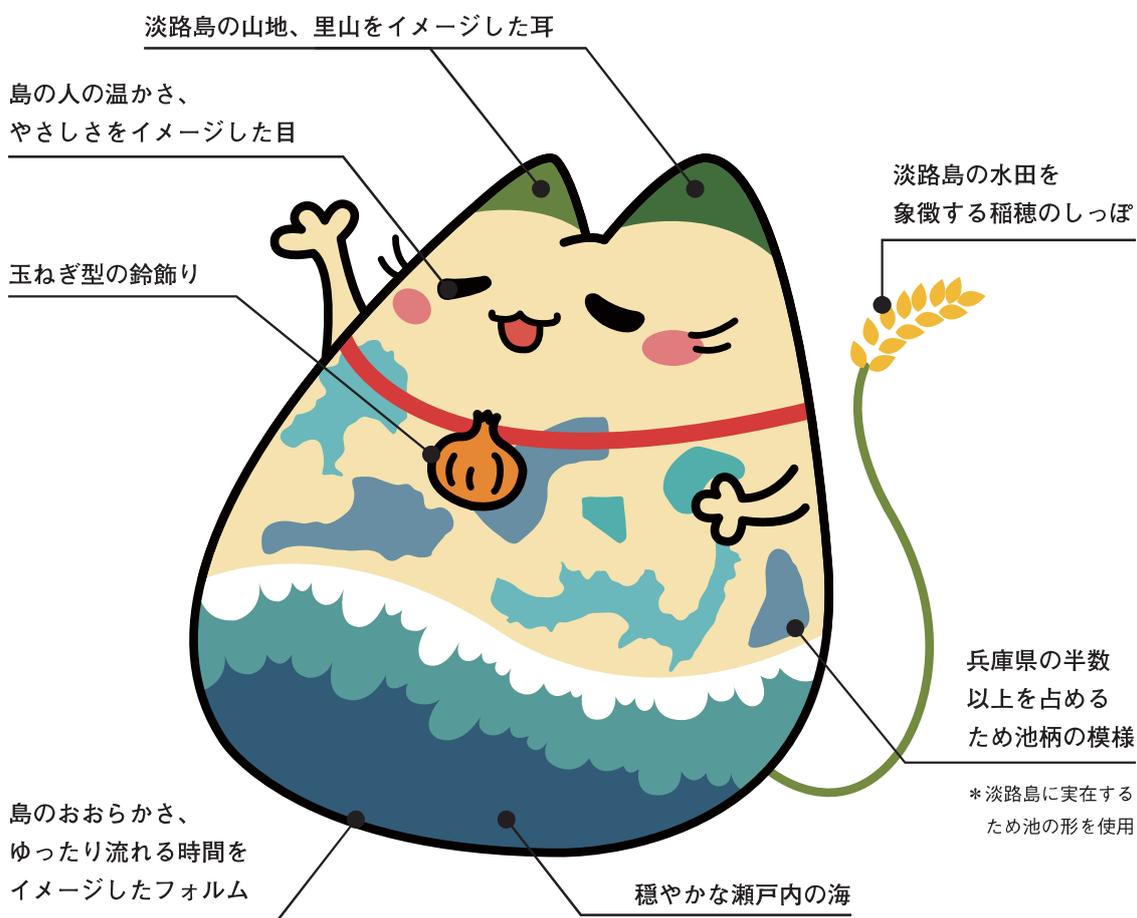


ふるさと淡路島

淡路
ふるさと学習
副読本



あわにゃん



— 「あわにゃん」 —

みなさんになじみ深く、また漁港の多い淡路島でよく見かけられる猫をベースにしました。淡路島の「あわ」と猫の鳴き声である「にゃん」とを組み合わせ、「あわにゃん」と名付けました。みなさん、「あわにゃん」をかわいがってくださいね。

「あわにゃん」作者：西口 雅洋

はじめに

兵庫県淡路県民局長

わたしたちの住む淡路島は、「国生みの島」「御食国^{みけつくに}」とも呼ばれ、興味深い歴史や豊かな自然環境・たくさんのおいしい食べものなど様々な地域資源に恵まれています。このたび小学生のみなさんが淡路島の良さを知ることによって、ふるさと淡路島を誇りに思い、さらにみなさんがこれからも暮らしていく淡路島の将来について考えるきっかけとなるよう、「淡路ふるさと学習副読本ーふるさと淡路島ー」を作成しました。

「淡路ふるさと学習副読本ーふるさと淡路島ー」には、自然や歴史、伝統文化など淡路島のすばらしさがいっぱいつまっています。

例えば、みなさんが楽しみにしているお祭り一つを取り上げても、その中には豊作や豊漁での祈りなど、意義や先人の思いがあります。この副読本では、日常の中での何気なく身近なことも学習できるようにしています。

未来を担うみなさんに、淡路島を今まで以上に好きになり、淡路島の良さを島外の人にも伝えていただきたいと思っています。

最後に、この副読本の作成にご尽力いただきました関係者のみなさまに感謝申し上げます。

知ろう! 学ぼう! 伝えよう!

淡路島の達人になろう

ふるさと淡路島検定

わたしが、【淡路ふるさと学習副読本】『ふるさと淡路島』のメインホストの「あゆにゃん」です。みなさんの住んでいる淡路島は、どんなところか知っていますか。まだまだ知らないこといっぱいかな。この「ふるさと淡路島」をしっかりと読んでください。そして、淡路島の達人を目指し、「ふるさと淡路島検定」に挑戦だニャー。

あゆにゃんです。
よろしくニャー。

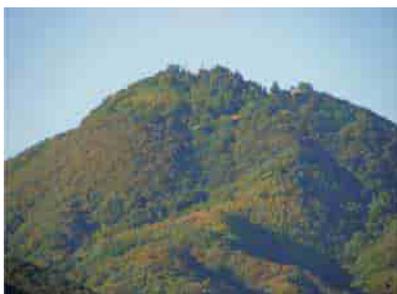


(答えの例) ため池

(1) わたしの体は、淡路島の特徴を7つあらわしています。淡路島の特徴となっている部分2つを○で囲み、その特徴を書きましょう。

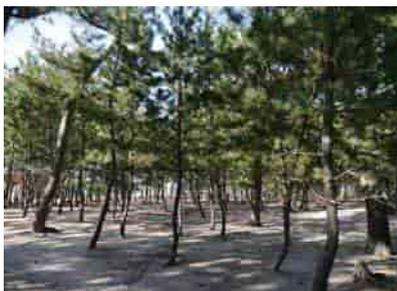
(1) 答え _____ と _____

(2) 洲本市にある標高448mのこの山は、「淡路富士」の愛称で親しまれ、また、山頂には独特の行事「お餅焼き」、「団子転がし」で有名な千光寺があります。国生み神話では、神様が淡路島を創ったときに、最初にできた山であるとされたことからこの名前がついたと言われています。この山の名前は何でしょう。



(2) 答え _____

(3) 三原川の河口北側に広がる砂浜で、瀬戸内海国立公園に指定され、「日本の白砂青松100選」や「日本の夕陽100選」にも選ばれています。幅約2.5kmにわたって5万本もの淡路黒松の林が広がり鳥類のすみかにもなっています。この写真はどこでしょう。



(3) 答え _____

- (4) 明石海峡大橋^{きょう}は1998年4月に開通しました。全長3,911mはつり橋としては世界最長(開通当初)です。大きな台風が来てもだいじょうぶなように風速80mにたえられるように設計され、海面からの高さは65mを確保^{かくほ}しています。なぜ海面から65mの高さが必要かを書きましょう。



(4) 答え _____

- (5) 古来より御食国^{みけつくに}と呼ばれていた淡路島は現在も食の宝庫^{ほうこ}として全国的にも有名です。淡路島バーガーは大ブレイクし、3年とらふぐやサクラマスなどのプロジェクトはまだまだ進行中ですが、2007年に淡路島の食材を使った食べ物のプロジェクトが立ち上がりました。その食材を3つ答えましょう。

(5) 答え _____ と _____ と _____



- (6) 歴史に彩^{れき}られた淡路島、古くから存在^{そんざい}する地名(①～⑤)が多く、そこに住んでいる人にしか読めないような漢字もあります。また、地名以外(⑥～⑨)にも淡路島に関係のある難しい漢字がたくさんあります。次の漢字のよみがなを書きましょう。

① 下司 ② 倭文 ③ 国衛 ④ 郡家 ⑤ 栢野

(6) 答え ① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____ ⑤ _____

- ⑥ 鱧(祇園祭や天神祭など、京都や大阪に運ばれ、食べられる海の幸。)
 ⑦ 伊弉諾神宮(古事記・日本書紀に記載される全国最古の神社。)
 ⑧ 上立神岩(沼島にあり、矛の先のような形で、「天の御柱」と言われている。)
 ⑨ 五斗長垣内遺跡(弥生時代に鉄器づくりが行われていた跡で、重要な遺跡)



⑥ _____ ⑦ _____ ⑧ _____ ⑨ _____

目次

はじめに 淡路県民局長

淡路島の達人になろう ふるさと淡路島検定

第1章 自然と地形

(1) 地勢	6
(2) 地層と化石	8
(3) 豊かな恵みをもたらす海	10
(4) 暮らしを支えてきた山々	12
(5) 沼島	14
(6) 動物・昆虫	16
(7) 植物	18
(8) 鳴門の渦潮	20
(9) 成ヶ島	22
(10) ため池	24
(11) 環境とその保全	26

第2章 伝統文化と暮らし

(1) 人形浄瑠璃	28
(2) 伝統芸能	32
(3) 祭り	34
(4) 昔の暮らし	38
(5) 民間信仰と風習	40
(6) 郷土料理	42
(7) 方言	44

第3章 産業と交通

(1) 食の宝庫	46
(2) ブランド牛のふるさと	48
(3) 淡路島の経済を支えてきた地場産業	50
(4) 先端をいく産業	52
(5) 交通手段の変遷	54
(6) 明石海峡大橋	56
(7) 観光の島	58

第4章 歴史と神話・伝承

(1) 歴史1 (縄文～古墳時代)	62
(2) 歴史2 (飛鳥～平安時代)	64
(3) 歴史3 (鎌倉～江戸時代)	66
(4) 歴史4 (明治～昭和初期)	70
(5) 歴史5 (太平洋戦争とその後の淡路島)	72
(6) 国生み神話	74
(7) 淡路島の民話と昔話	78
(8) 地名の由来	82

第5章 淡路島が生んだ人物

(1) 文化の向上に活躍した人々	84
(2) 産業・科学の分野で活躍した人々	87
(3) 芸能・スポーツの分野で活躍した人々	88
(4) 地域の発展に貢献した人々	93
(5) 高田屋嘉兵衛	97
(6) 永田秀次郎（青嵐）	99
(7) 樋口季一郎	100
(8) 井植歳男	101

第6章 景観と史跡

(1) 雄大で美しい自然景観	102
(2) 花の島	106
(3) 歴史遺産	108
(4) その他の観光名所・施設など	110
(5) COOL AWAJI ～淡路島のココがカッコいい!!～	112

第7章 阪神・淡路大震災と淡路の防災教育

(1) 震度7の地震が町を襲った！	114
(2) 大津波が町を襲った東日本大震災と南海トラフ大地震	116
(3) 淡路の防災教育	117

第8章 あわじ環境未来島構想へ

(1) あわじ環境未来島構想	118
(2) 再生可能エネルギーの島	120
(3) 農漁業生産で生きる島	124
(4) 都会にない価値観とくらしやすい淡路島	129
(5) これからの淡路島を考える	133

学校紹介 淡路島内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

1 洲本市内の公立小・中学校	135
2 南あわじ市内の公立小・中学校	138
3 淡路市内の公立小・中学校	142
4 淡路島内の高等学校・特別支援学校	146

資料編

1 淡路歴史年表	2
2 1961年（昭和36年）の学校配置図	6
3 2026年度（令和8年度）の学校配置図	7
4 守っていききたい自然景観	8
5 大切に残していこう史跡・名所	9
6 1889年（明治22年）の町村図	10
7 栄光の記録（令和4年度まで）	11
8 松帆銅鐸は大発見だらけ!!	
9 洲本市から発見された恐竜化石「ヤマトサウルス・イザナギイ」	
10 淡路島一周まんぶくすごろく めざせ！御食国王!!	

写真・協力者一覧、参考文献・引用文献一覧
作成にご協力いただいた方々
おわりに 淡路教育事務所長

1

自然と地形

みなさん、わたしたちが住む淡路島とはどんなところでしょうか。

「瀬戸内海国立公園をふくむ豊かな自然がある」「玉ねぎや淡路ビーフ、タイなどおいしい食べものがたくさんある」「動植物の宝庫として魅力にあふれている」「神戸や明石などの都会から近いところに位置している」「絶滅のおそれのある動植物がいる」など。

淡路島について、まだまだ知らないことがたくさんあります。それでは、わたしたちの住む自然豊かで魅力ある島の探検に出かけましょう。

(1) 地勢

下の写真は、淡路島を人工衛星^{えいせい}から見たものです。緑色の部分が山や森林、灰色の部分が建物や施設、道路など、主に人が生活をしているところです。あなたが住んでいるところを探してみましょう。



① 淡路島のすがた

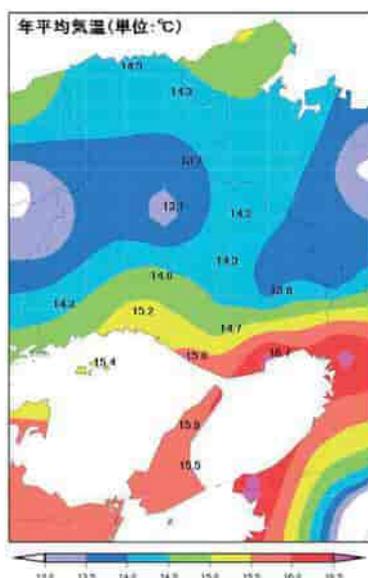
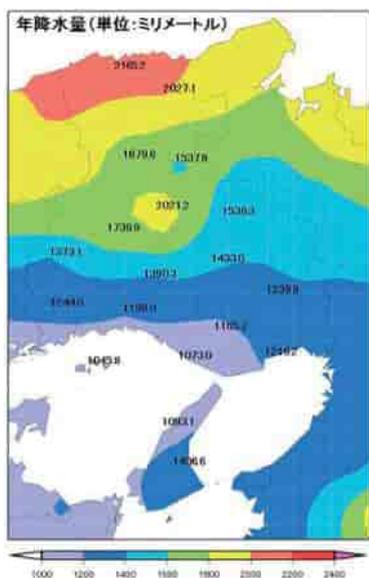
淡路島の面積は、およそ595km²、周囲約215kmの南北に細長い島です。大阪湾、紀伊水道、播磨灘に囲まれ、北部には津名丘陵、南部には諭鶴羽山地、中央部には三原平野が広がっています。

淡路島は、滋賀県の琵琶湖と形も大きさも似ているよ。琵琶湖の面積は、約674km²、周囲は、約235kmなんだニャー。



② 淡路島の気候

淡路島の気候は、冬でも温暖な瀬戸内気候^{せとうち}です。その特徴の一つとして、雨が少ない淡路島では、水不足に備え昔から多くのため池が作られてきました。兵庫県内にあるため池約21,752か所のうち約半分の9,513か所が淡路島にあります。(令和5年3月時点) また、年間の日照時間については、淡路島の3市は、全国846気象観測地点の中で上位にランクされています。



兵庫県の年間降水量と年間平均気温の平年値 (統計期間：1981～2010)
(神戸地方気象台HPから)

2020年 日照時間ランキング

順位	気象観測地点	日照時間 (時間)
1位	南鳥島 (東京都)	3103.2
37位	郡家 (淡路市)	2215.9
48位	南淡 (南あわじ市)	2200.6
150位	洲本 (洲本市)	2048.1
全国平均 (846観測地点)		1764.2

(気象庁「気象観測統計」より)

③ 子午線^{しごせん}が通る淡路島

日本では、昔から、干支^{えと}で方角を表していました。「子」は、「真北」、「午」は、「真南」を指し、それらを結ぶ線を子午線と呼んでいます。

東経135度を通る子午線を日本の標準時の基準としました。淡路市にも子午線が通っており、その場所にモニュメントが建てられています。



日本標準時東経135度
神戸淡路鳴門自動車道モニュメント (淡路市浦)

干支って聞いたことがあるよね。「あなたは何どし?」ってよく言うけれど、中国で考えられたものなんだ。ちなみに、干支は、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の12種類あり、あわせて十二支というんだニャー。



(2) 地層と化石

淡路島は、地質学的に大変貴重な場所で、有名な地層や県内でも有数の化石の産地があります。わたしたちが住む淡路島にはどのような地層や化石があるか観察してみましょう。

① いろいろな岩石が見られる淡路島

淡路島の岩石や化石などのようす



カキの化石地層
(淡路市野島)



淡路市
洲本市
南あわじ市

中央構造線※1

鞘型褶曲 (南あわじ市沼島)



砂岩 (淡路市岩屋)



海成粘土 (洲本市鳥飼)



花こう岩 (洲本市中川原)



砂岩・頁岩 (諭鶴羽山)



アンモナイト
がよく見つかる場所

岩石は、大きく3種類に分けることができます。マグマが冷えて固まってできた火成岩、土砂などが海底や湖の底で固まってできた堆積岩、そして、いろいろな岩石が高い圧力や熱をうけて変化してできた変成岩があり、淡路島では、この3種類の岩石を観察することができます。

ア. 火成岩 (花こう岩)



主に淡路島中部～北部

イ. 堆積岩 (和泉砂岩)



主に淡路島南部ほか

ウ. 変成岩 (結晶片岩)



沼島

問題

化石が見つかるのは、上のア～ウの岩石のどれでしょう。

※1 中央構造線：西南日本を、日本海側と太平洋側に分ける大断層

② いろいろな化石が見られる淡路島

堆積岩では、化石が見つかることがあります。大昔に生きていた貝や恐竜、植物などの生物が土砂と一緒に埋まって岩石になると、化石になることがあります。淡路島でもアンモナイトの化石をはじめいろいろな貝の化石、植物の化石、恐竜や翼竜の化石が見つっています。化石を調べることで、その地域の過去の様子や、その地層が堆積した時代を知ることができます。

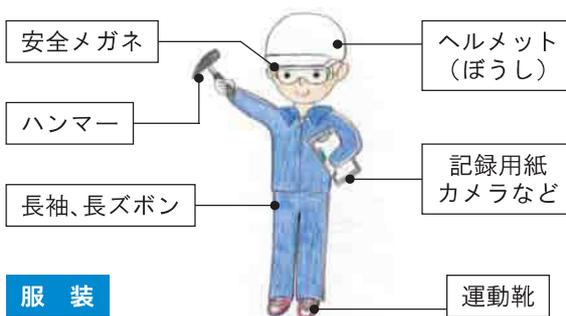
巻末資料9の「ヤマトサウルス・イザナギイ」も見てニャー♪



化石さがしにでかけてみよう。

化石を採集するときの注意

- ① 右の図の服装で採集しましょう。
- ② 足元に注意しましょう。
- ③ ハンマーの使用に注意しましょう。
- ④ 許可されたところで採集しましょう。
- ⑤ 記録をきちんととっておきましょう。



淡路島で見つかった化石



イラスト
谷本正浩 2004

ア アズダルコ科翼竜の一部 (南あわじ市)
7000 万年前

イ ハドロサウルスの一部 (洲本市)
7000 万年前



ウ ナウマンゾウの一部 (鳴門海峡)
30 数万年前



エ アンモナイト (洲本市)
7000 万年前



- 火成岩
- 堆積岩
- 変成岩

5.7 億年前

2.45 億年前

6500 万年前

古生代	中生代	新生代
-----	-----	-----

- ア
- イ
- エ
- ウ

(3) 豊かな恵みをもたらす海

淡路島は、紀伊水道、大阪湾、播磨灘の3つの海に囲まれ、魚介類や海藻など四季折々の海の幸に恵まれています。



① 潮の流れ

3つの海をむすぶ、明石海峡、鳴門海峡、紀淡海峡では、潮の満ち引きに伴って速い潮の流れ（最大時速20km）が生まれ、大きな渦もできます。また、明石海峡の両側には、潮の流れで削られた砂が堆積してできた浅瀬、鹿の瀬と沖の瀬があり、イカナゴなどの魚にとって絶好のすみかになっています。

② 「チヌの海」大阪湾

大阪湾は「チヌの海」と呼ばれていました。1980年（昭和55年）ごろにはチヌ（クロダイ）やマイワシなどをふくむ漁獲量は、13万5千トンもありましたが、近年では、その5分の1以下に減っています。淡路島の小中学校の校歌には「チヌ」や「チヌの海」が唱われている学校が何校かあります。

③ 季節（旬）の魚

魚には、それぞれおいしい時期「旬」があります。淡路島の代表的な魚を紹介します。

【春の魚】 マダイは、魚の王様とも呼ばれています。明石海峡と鳴門海峡の近くのマダイは、それぞれ「明石鯛」「鳴門鯛」と呼ばれ、高級品とされています。イカナゴの小さなものは、「新子」とも呼ばれ、「新子」のかまあげやくぎ煮は、春の風物詩です。



【夏の魚】 明石海峡の近くでとれるタコは、「明石だこ」と呼ばれ有名です。淡路島でとれるハモは、京都の料亭などで高級品として食べられており、特に梅雨の時期になるとよりおいしくなると言われています。



【秋の魚】 秋は、とても多くの種類の魚が水あげされます。刀のような形をしているタチウオは、一本釣りのものが人気があります。アオリイカは味がおいしく人気があります。イカが産卵するための木や枝を海中にたくさん沈め、アオリイカの水あげ量を増やす取組が行われています。



【冬の魚】 冬の鍋料理の食材として代表的なフグとカワハギですが、南あわじ市福良では、人気のある「3年とらふぐ」が養殖されています。



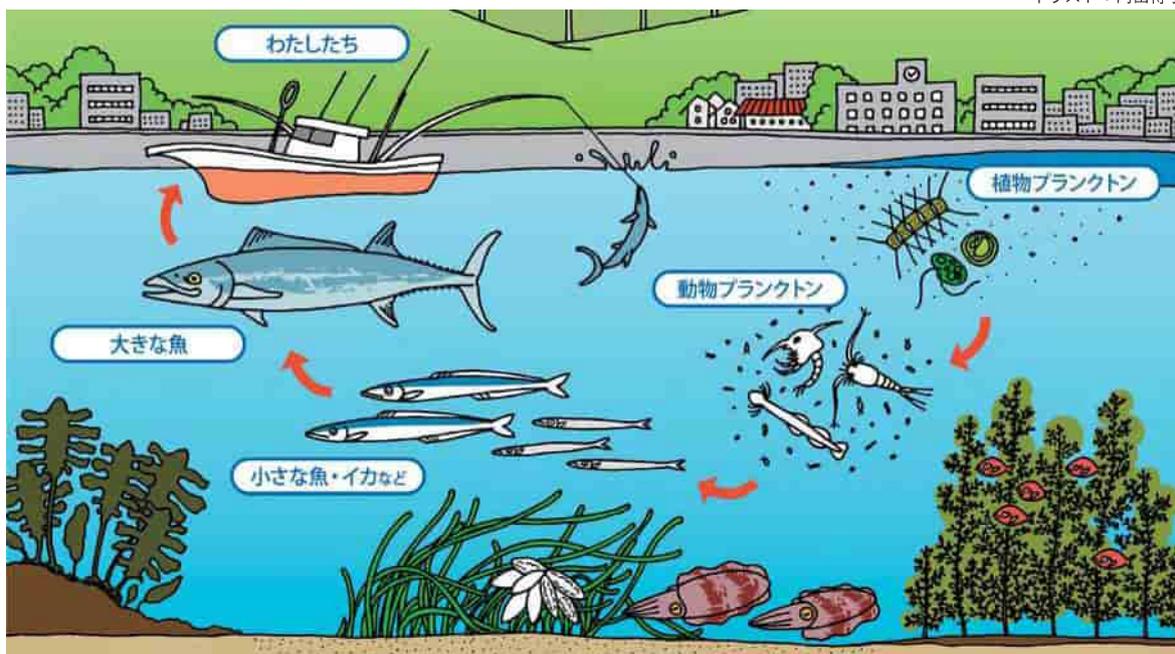
④ ^{しょくもつれんさ} 食物連鎖

生物は、お互いに“食べる・食べられる”の関係、いわゆる「食物連鎖」でつながっています。イラストには、淡路島の海の生物のつながりを描いています。

植物プランクトン※¹は、動物プランクトン※²に食べられ、それを小さな魚やイカが食べます。さらにそれらを大きな魚が食べ、その魚をわたしたちが食べています。

つまり、わたしたちヒトも食物連鎖の中の一員でわたしたちの生命はたくさんの生物によって支えられています。

イラスト：内田博子



⑤ ^{ぎよぎょう} 育てる漁業

漁師さんは、魚や海藻^{かいそう}を獲るだけでなく、フグ、ワカメ、ノリの養殖^{ようしょく}やマダイ、ヒラメ、クルマエビの稚魚^{ちぎよ}の放流も行っています。写真は、ノリの養殖、加工の様子です。



さいびょう 採苗（種付け）9月～10月

養殖中のノリ網 10月～12月



てきさいせん かりと 摘採船による刈取り 12月～1月



全自動加工



製品

※1 植物プランクトン：光合成を行い水中や水面^{ただよ}を漂って生活する生物のこと

※2 動物プランクトン：光合成を行わず、植物プランクトンを食べ、水中や水面を漂って生活する生物のこと

(4) くらしを支えてきた山々

淡路島は、北部に津名丘陵^{つなきゅうりょう}、中部には先山^{せんざん}、そして南部には諭鶴羽山地^{ゆづるはさんち}があり、これらの山々は、人々の生活と密接につながってきました。

① 地域の人々に愛されてきた山々

淡路島の山々は、豊かな森林を育み、命をつなぐ水を与えてくれるところ、薪^{まき}などの燃料を与えてくれるところなどとして地域の人々に大切に守られてきました。また、山頂付近には、神社やお寺があり、人々の心のよりどころにもなってきました。最近では、登山やキャンプなどの野外活動を楽しむ人も増えています。

● 諭鶴羽山（標高608m） 南あわじ市

淡路島の最高峰で、関西百名山にも選ばれ、山頂近くに諭鶴羽神社があります。国生み神話に出てくる神様が鶴の羽に乗って舞い降りたという神話から山の名前がつけられたといわれています。山頂からは、四国や紀伊半島、神戸、大阪方面まで見渡すことができます。

自然景観
行 事

アカガシ群落（兵庫県指定天然記念物）、一等三角点^{※1}、お餅焼き行事、毛付け参り、登山行事など

● 妙見山（標高522m）、常隆寺山（標高515m） 淡路市

淡路市の丘陵地帯にある山々で、常隆寺山の山頂付近を「伊勢の森」と呼び、妙見山には、妙見宮、常隆寺山には、常隆寺があります。頂上から、紀淡海峡、小豆島などが展望できます。

自然景観
行 事

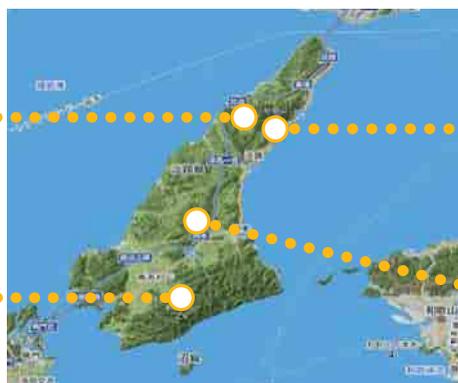
スタジイ、アカガシ群落（兵庫県指定天然記念物）、アジサイ、サルスベリ、秋の紅葉、登山行事など

● 先山（標高448m） 洲本市

「淡路富士」の愛称で親しまれ、山頂に千光寺^{せんこうじ}があります。国生み神話で神様が淡路島を創ったときに、最初にできた山であるとされることからこの名前がついたといわれています。

自然景観
行 事

山全体広葉樹林、お餅焼き行事、団子ころがし、登山行事など



妙見山



※1 一等三角点：地図を作成する時、測量の基準となる点のこと

② 森林のはたらきと人々の暮らし

淡路島の山は、広葉樹を中心とする自然林が多く、動物や植物などたくさんの生物が住んでいます。森林のはたらきと、人々の暮らしとの関係について調べてみましょう。

・水をたたえる森林

たくさんの樹木が生い茂る山は、植物の根に水をたくわえることでダムのようなはたらきをします。稲作や畑には、水がかかせません。そこで、田植えが無事終わると「毛付け参り」※1などの山に感謝する行事が行われてきました。

・燃料を供給してきた森林

電気やガスのなかった時代、山でとってきた薪まきは、大切な燃料でした。また、燃料として扱いやすい炭の生産も盛んに行われていました。山の中には、今でも炭焼きのかまあと窯跡をたくさん見つけることができます。

・いこいの場所として親しまれてきた森林

最近では、登山を楽しむ人が増えてきました。山は、いこいの場所としても利用され、ハイキングコースなども整備されています。



豊かに実った稲と諭鶴羽山



炭焼き体験の様子

淡路の山々は、昔から多くの人々の役に立ち、愛されてきたんだニャー。



※1 毛付け参り：田植えの終わる6月下旬頃より、三原平野各地から田植え終了の報告に諭鶴羽山へお参りする風習。地域によっては、「総参り」や「泥落とし」などとも呼ばれる

(5) 沼島



沼島は、南あわじ市の灘（土生港）から連絡船で約10分の位置にあります。瀬戸内海国立公園に指定されています。はるか昔神々がつくり出した最初の島、「淤能碁呂島」が沼島だといわれている伝説の島です。今もなお自然がそのままの姿を残し、「上立神岩」「平バエ」等の珍しい岩は、見る人をひきつけています。また、ウミウの渡来地として兵庫県の天然記念物に指定されています。

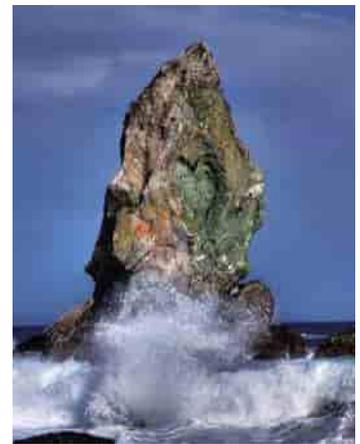
① 地形や位置について

灘の南方4.6kmの紀伊水道北西部に位置し、周囲9.53km、面積2.71km²で、空から見ると「まがたま」の形をした島です。淡路島と沼島の間には、中央構造線という断層が走っており、淡路島と沼島は、全く性質の違う地層でできています。

② 沼島の歴史

昔から、漁業が盛んで水軍としても力を持ち、歴史的にも重要な島として栄えてきました。鎌倉幕府を開いた源頼朝の重臣^{※1} 梶原景時のお墓があります。また、室町時代には、その力を恐れた足利將軍の命により、安宅氏の攻撃を受けました。

近代に入っても、「沼島千軒」と呼ばれ、大いに漁業でにぎわいました。沼島の人口は、1948年（昭和23年）には、2,792人（704世帯）でしたが、2024年（令和6年）には、362人（194世帯）となっています。



沼島のシンボル「上立神岩」

③ 貴重な自然景観（上立神岩、鞘型褶曲）

・上立神岩と下立神岩^{※2}

平バエ（平らな岩場）をはさんで、2つの巨岩がありました。特に、高さ約30mで、矛の先のような形をした上立神岩は「天の御柱」と言われています。



1億年前の地球のしわ

・鞘型褶曲^{※2}

1億年前の「地球のしわ」といわれるめずらしい岩石です。1994年（平成6年）に発見され、引き潮の時しか見ることはできません。地殻変動^{※3}によってできた、世界的にも貴重な資料です。

※1 重 臣：家来の中で、位の高い人

※2 下立神岩：今はくずれて土台のみになっています

※3 地殻変動：地球の内部の力によって起こる運動

絵島・成ヶ島・沼島・煙島の位置



(6) 動物・昆虫 こんちゅう

淡路島には、身近に見られるもの、様子や生活の仕方が特異なもの、島でしか見られない数少ない種類のものなど、多種多様な生物が生息しています。

① 鳥類

日本で見られる鳥類は、約500種類と言われ、そのうち約180種類を淡路島で見ることができます。環境の変化にともなって生態系のバランスがくずれ、生息数が減っていく種類がある一方で、増えている種類もあります。

みなさんの近くにもいるので見つけてみましょう。

シロチドリ

小倉百人一首で「淡路島通ふ千鳥の鳴く声に幾夜ねざめぬ須磨の関守」と、詠われたことで有名です。

淡路島のシンボルの鳥だよ。海辺で暮らしています。でも最近暮らしにくいよ。なぜだかわかる？



オオタカ

ため池が多い淡路島は、オオタカにとってえさが豊富にあるため、よい環境となっています。



羽を伸ばすと1mを超えるよ。
問題：降下するときには、どのくらいの速さが出ると
思いますか？

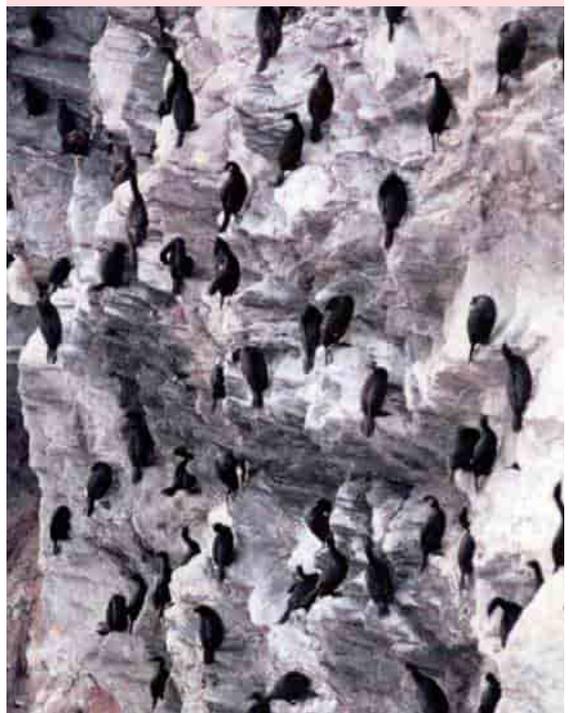
- ①時速40kmくらい ②時速100kmくらい



たくさんの種類の生き物が
いるね。問題に答えられた
かニャー？

ウミウ・ヒメウ

沼島の海岸は、ウミウ・ヒメウの飛来地として有名です。千に近い数がやってきて、がけに群れを作り集団で越冬します。



② 昆虫

淡路島には、1,800種あまりの昆虫がいるとされています。温暖な気候に生きる南方系の昆虫の宝庫とも言われています。



クチキコオロギ

一生を樹の上で過ごします。照葉樹^{しょうようじゆ}※1の原生林に生息することから、それらが多く残る淡路島は、クチキコオロギにとって貴重な良い環境であると言えます。

1930年、福良湾に浮かぶ煙島で、日本で初めて発見されました。

ヒメハルゼミ

照葉樹林の原生林に生息しています。一匹が鳴き出すと次々に鳴き出し、大合唱になる特徴があります。写真は、羽化したての様子です。



問題：合唱で有名な僕の鳴き声を当ててください。
①ギーオ、ギーオ ②ジー、ジー ③ミーン、ミーン

オジロサナエ

オニヤンマに似ていますが、体は、小さく飛び方も弱々しく見えます。清流にしか生息できません。



ぼくは、清流に住んでるよ。最近、清流が少なくなってきたな・・・。

③ 水辺の生き物

淡路島には、田んぼやため池など水辺は、いたるところにあります。人の手が入り、昔の環境とは、大きく変化してきているため、そこで生息する生き物にとって厳しい状況^{じゆうきやう}になりつつあります。



カスミサンショウウオ

環境省のレッドデータブックに掲載されています。低い山地のわき水のあるところなどに生息しています。

ニホンヒキガエルの蛙合戦^{かわずがっせん}

たくさんの蛙^{かえる}がいつせいに水辺に集まり、産らんを始める様子を蛙合戦と言います。



考えましょう

厳しい状況とは、どのような状況でしょうか？

また、この厳しい状況を改善するために、わたしたちにできることは、どのようなことでしょうか？

※1 照葉樹：冬でも葉を落とさないで、一年中緑色をしている常緑広葉樹

(7) 植物

淡路島に育つ植物も多種多様です。それらを語る上で、大切なのは、^{しょうようじゅりん}照葉樹林と^{かい}海^{ひん}浜植物です。

① 樹木

淡路島には、照葉樹林が多くあり、様々な生き物のすみかとなる上でも重要な役割を担っています。照葉樹は、冬でも葉を落とさないで、一年中緑色をしている^{じょうりよくこう}常緑広^{ようじゅ}葉樹と呼ばれる木です。葉は、厚みがあり、つやつやとしています。

ヒメシャラという落葉樹は、兵庫県では、^{ゆづる はさん}諭鶴羽山にしか自生していない樹木です。



ヒメシャラ（落葉樹）

『兵庫県版レッドリスト』※1にBランクで掲載されている貴重植物です。



バクチノキ（照葉樹）

『兵庫県版レッドリスト』※1にBランクで掲載されている貴重植物です。



スダジイ（照葉樹）

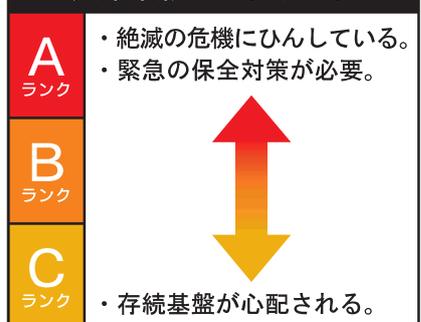
照葉樹の代表格であり、常陸寺山のスダジイの群生が有名です。

問題：

樹皮がなめらかでよくすべるので、南あわじ市灘地区では「○○スベリ」と呼ばれています。○○に入る言葉は、何でしょう。

ぼくの名前は、樹皮がはがれる様子を博打（かけごと）に負けて身ぐるみはがされることに例えてつけられたらしいよ。

兵庫県版レッドリスト



※1 兵庫県版レッドリスト：動植物について、絶滅の危険が大きいもの、自生している場所の保全が必要なものなどを状況によってランクに分けて掲載してあります。全国については、環境省の日本版レッドデータブックに掲載されています

② 海浜植物

淡路島では、近年、少なくなった海浜植物を見ることができる場所があります。海浜植物とは、海岸、特に砂浜に生息する植物を指します。見られなくなった主な理由は、護岸整備などで自然の砂浜が少なくなってきたためです。成ヶ島のハマボウは、兵庫県の絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゅ}として特に注目されています。写真のような海浜植物が自生しているところは、慶野松原^{けいのまつばら}や吹上浜^{ふきあげはま}など淡路島の中でも限られており、大変貴重な植物として位置づけられています。

問題

次の説明と合う海浜植物をA～Eの中から選んでみましょう。説明のない花は、よく見かける花です。調べてみましょう。

ハマボウ

高さは、3mほどになり、中心が赤褐色の黄色い花を咲かせます。花は、スクリュウのように見えます。

兵庫県版レッドリスト Aランク



ウンラン

高さは、10～25cmほどで、体に不似合いなくらい大きな黄白色の花を咲かせます。

兵庫県版レッドリスト Aランク



ナミキソウ

高さは、10～40cmほどで、夏に青紫色の花を咲かせます。葉の縁は、ぎざぎざになっています。

兵庫県版レッドリスト Bランク



ユウスゲ

夕方に開花し翌日の昼には、閉じるところからこの名がつきました。黄色の花を咲かせます。

兵庫県版レッドリスト Cランク





(8) 鳴門の渦潮

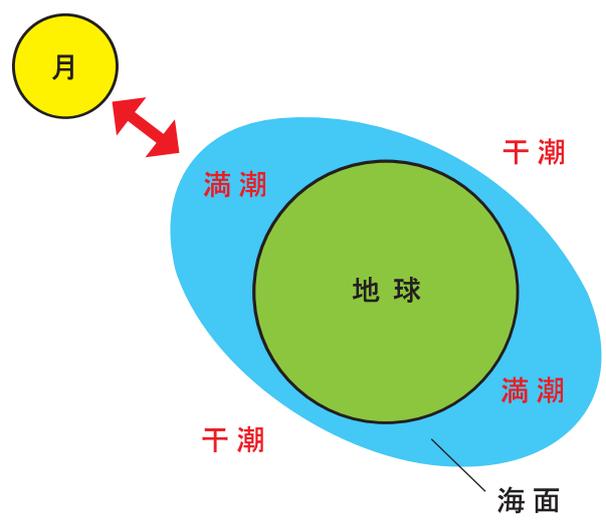
渦潮が見られるのは、淡路島と徳島県の間にある鳴門海峡です。

この海峡を流れる潮は、日本で一番速くイタリアのメッシーナ海峡・アメリカのセイモア海峡とならんで世界三大潮流の一つに数えられています。

なぜ、この場所で渦潮が発生するのか、その仕組みを説明します。四つの条件が重なって、世界一大きな渦が生まれます。



① 月の引力のはたらき

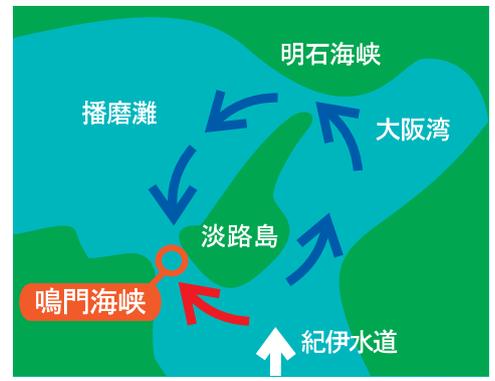


地球と月との間には、引力が働いています。地球の表面にある海水は、月の引力によって引っぱられ、左図のように海面の高いところや低いところができます。高いところは、満潮、低いところは、干潮といえます。満潮と干潮は、約6時間ごとに交互にやってきます。

② 海面の高低差と潮の流れ

満潮や干潮のときは、鳴門海峡では、海面の高さに差が生じます。瀬戸内海側が高く、太平洋側が低くなるときは、図のように瀬戸内海側から太平洋側に向かう潮流が生じます。

海面の高さの差が大きいほど流れは、速くなります。鳴門海峡をはさんで西側（瀬戸内海側）と東側（太平洋側）との海面の高さは、最大2mもの差ができるため、まるで滝のように潮が流れます。



太平洋からの潮が約6時間かかって淡路島を一周伝播するため、鳴門海峡で干満の大きな潮位差がうまれる

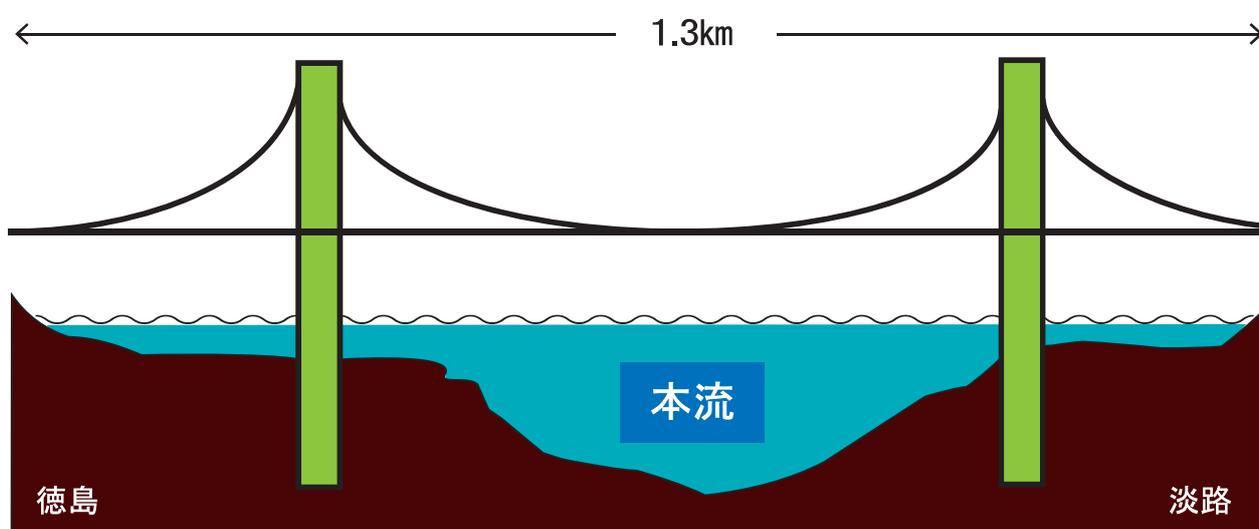
③ 鳴門海峡の地形

鳴門海峡は、幅が1.3kmと狭く、海底の形は、中央が谷のように深く周りは、お盆のように浅くなっています。

中央のせまく深いところへ勢いよく潮が流れこむため、より速い流れができます。潮の速さは、時速15~20kmにもなります。

④ 潮流の速さの差

中央部の大変速い潮流と、浅い部分でのゆるやかな潮流との境目で、渦が発生します。渦の直径は、最大30mにもなり世界一の渦潮です。この渦潮を世界遺産にしたいとの声も高まりつつあります。



海の中に吸い込まれそうな世界一の渦潮

(9) なるがしま 成ヶ島



洲本市由良の沖にある細長い島が成ヶ島です。かつては、宿泊施設などがありましたが、現在は無人島になっています。ここには、貴重な生物がたくさん生息しています。



① 位置、地形

成ヶ島は、大阪湾の入り口に位置し、洲本市由良の東側にある小さな島です。

地形は、北側の成山（標高52m）と南側の高崎を結ぶ約2.5kmの砂州^{さす}によって形成され、淡路橋立とも呼ばれています。内側は、由良湾に、外側は、大阪湾に面しています。島の中央部には、塩沼湿地^{えんしゅうしち}*1や干潟^{ひがた}があり、貴重な生物が生息しています。

② 歴史

古地図を見ると、成ヶ島と由良は、かつて陸続きだったことが分かります。由良湾は、海水の湖（ラグーン）だったといわれています。

江戸時代には、大型船を港に入れるために、北側を深く掘り開く大工事が行われました。1766年（明和2年）に完成したのが新川口です。その後、南側にも紀淡海峡につながる水路を開く

工事が行われ、1823年（文政6年）今川口^{いまかわぐち}ができました。また、幕末から明治にかけて、大阪を外国の攻撃から守る目的で、台場^{だいば}や砲台^{ほうだい}が数多く建設されました。成ヶ島にも高崎台場、高崎砲台が作られ、現在でもその遺構^{いこう}が残っています。



③ 貴重な生物

成ヶ島は、1950年（昭和25年）に瀬戸内海国立公園の一部に^{ふく}含まれる地域に指定されました。地形、自然景観、地質、植物群落ともに兵庫県版レッドリストに記載され、照葉樹林の森、池、干潟、岩礁、砂地など多様な自然環境が残されています。

また、ハマボウ、ハママツナ、ハクセンシオマネキなど貴重な生物が生息し、アカウミガメが産卵するなど自然が多く残る島です。



ハマボウ

ハママツナ（春）

ハママツナ（秋）

ハクセンシオマネキ

アカウミガメの卵

アカテガニ

④ 自然を守る活動

成ヶ島は、大阪湾に面しており、海流に乗ってたくさんのごみが砂浜に流れ着き、美しい景観を^{そこ}損ねています。

また、島の外に生息していた植物が生い茂り、今まで島に自生していた植物に影響を与えています。

由良地区では、小学生、中学生や「成ヶ島を美しくする会」が中心となって、清掃活動が行われています。流れ着いたゴミを集め、ナルトサワギクなど外来植物を^{くじょ}駆除し、美しい景観や固有の自然を守っています。



※1 塩沼湿地：満潮時には、海水につかり、干潮時には、干上がるような砂や泥の土地

(10) ため池

ため池は、お米や野菜作りに欠かせない「水」をためておくために、造られました。兵庫県内には、21,752か所のため池があり日本一です。そのうち淡路島には、約半分の9,513か所があります。(令和5年3月時点)



たき 滝 池 (淡路市)

① 円筒分水



水を正確に分ける仕組み



1932年(昭和7年)に作られた粗石モルタルづくりの上田池(南あわじ市)

② 苦労が多くあったため池づくり (洲本市、大城池の工事写真)

① 四人づき

② たたき板

③ くわ

④ もっこ

昔は大きな機械がなかったので、人の力で土を運び固めて、池を作りました。

- ① 四人づき：大人4人がそれぞれの取っ手を持って土を固める道具
- ② たたき板：一人で土を固める時に使う道具
- ③ くわ：農具の一種。田畑を掘りおこしたり、ならしたりする道具
- ④ もっこ：藁筵わらむしろの四隅に綱をつけて、土・石などを入れ、棒で運ぶ道具

つつみ 堤

堤は、池に水をためるためのいぼうで、土でできています。

しゅすいぐち 取水口

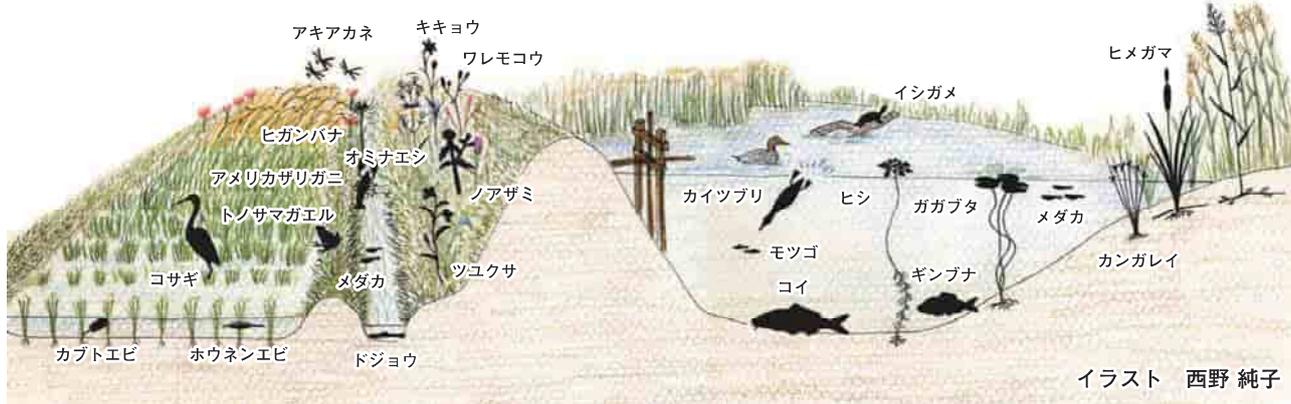
取水口は、池の水を使いたいときに田んぼへ送るためにあります。

こうずいぼけ 洪水吐

洪水吐は、大雨のときに、あふれた水がつつみの上をこえないように、安全に水を池の下へ流すやくめがあります。

③ ため池の生物

ため池は、水路や水田・林と一体となって水草、昆虫、魚、鳥などの生物にとって、大切なすみかとなっています。

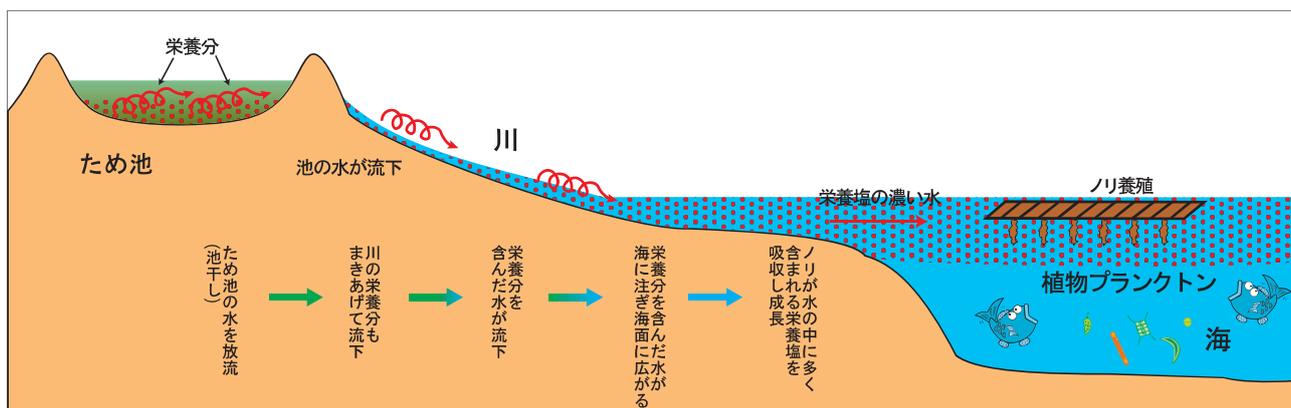


ため池には、その他にもたくさんの動物や植物がすんでいます。みんなで探しましょう。

<p>モウセンゴケ(毛氈苔)</p> <p>食虫植物。</p>	<p>ガガブタ</p>	<p>サギソウ(鷺草)</p> <p>花が「鷺」に似ていることから名がつけられた。兵庫県内では、数が少なくなっている。</p>	<p>ホウネンエビ(豊年蝦)</p> <p>体長は、およそ15ミリメートル。これが大発生する年は、豊年であるという言い伝えがある。</p>
--	--------------------	--	--

④ 海を元気にするかいぼり

かいぼりとは、ため池の水を抜いて、底にたまった栄養分を多く含んだ土（腐葉土^{ふようど}）を下流に流すことをいいます。流した水や土が海にとどき、海の栄養分が増えます。つまり、かいぼりは、ため池をきれいにするだけでなく、海も豊かにします。



クイズ ふりがえてみよう!?

- ア. 淡路島には、たくさんのだめ池があるのはなぜでしょうか？
- イ. ため池のつくりについて、説明しましょう。
- ウ. ため池の生物について、話し合ってみましょう。
- エ. かいぼりは、なぜ必要なのでしょう？



かいぼりのようす

(11) 環境とその保全

里山は、人が自然に手を加えて生まれた空間です。数十年前までは、薪たきぎを集めて燃料として使ったり、食料などを手に入れたりする場所でした。そのため里山は、手入れが行き届き、たくさんの生物と共生していました。

しかし、近年は、行き届いた手入れがされず、荒れ果てていく里山も見られます。

① 豊かな環境とその保全の取組

洲本市五色町にある「白巢しらすお城の森」は、白巢山（標高約330m）にある中世の山城、白巢城跡を中心とした森林公園として整備され、地域の子どものための教育の場としても利用されています。「水辺散策ゾーン」では、ため池や田を散策しながら自然とふれあうことができます。



「白巢お城の森」を守る地域の人々



「白砂青松」を守る中学生

南あわじ市松帆にある慶野松原けいのまつばらは、約2.5km続く白い砂浜に約5万本の淡路黒松が生い茂ります。海水浴場としても利用され、定期的に地域の人による清掃活動が行われるなど大切にされています。また、松越しの夕日が絶景で、たくさんの観光客が訪れています。



全島一斉清掃のチラシ

淡路島では、7月第1週の日曜日及び11月第2週の日曜日を「淡路全島一斉清掃の日」としています。各市の町内会や学校、団体等から2日合わせて約8万人の人々が参加し、清掃活動などを行っています。

② 拡大する放置竹林の管理

手入れが行き届かない里山では、竹林が他の植物や木々よりたくさん増えています。近年、淡路島でも大きな問題になっています。タケノコは、イノブタの好物で、竹林を管理しないとイノブタを増やすことにつながります。

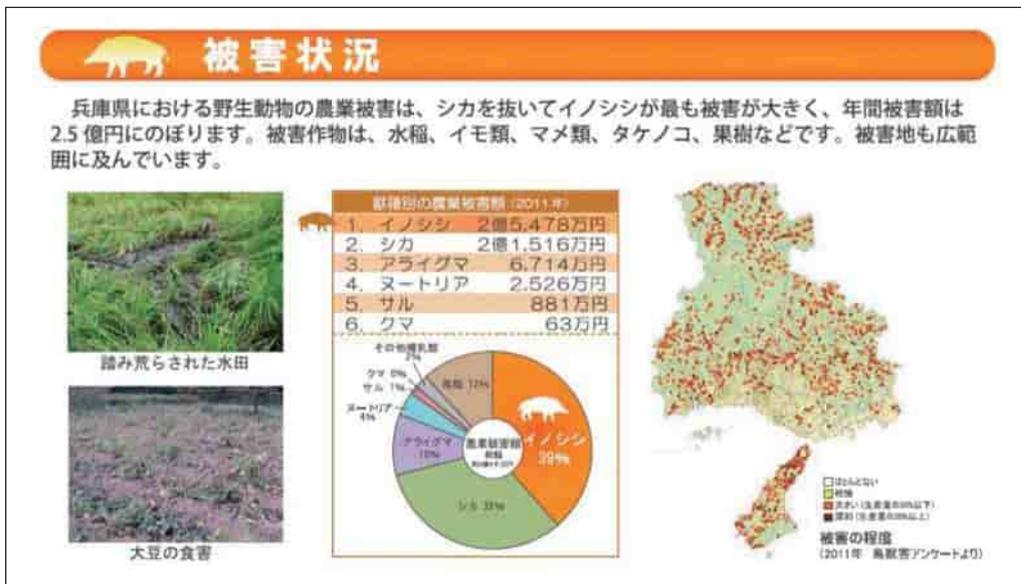


竹林におおわれた里山とイノシシ檻

③ 農業から見る野生動物

野生動物による農作物被害は、年々増加し、農家の生産意欲を失わせています。淡路島の南東部地域では、シカによる被害が、北部では、イノブタの被害が見られます。また、南あわじ市灘地区では、ニホンザルによるみかん農園への被害が見られます。

少しでも被害を少なくするため、防護柵ぼうごさくを設置したり、雑草の草刈りをしてすみかになる場所を作らないなど、地域の人が協力して野生動物への対策をしています。



野生動物による兵庫県の食物被害

④ 固有の生物を守る ～特定外来生物について～

何らかの理由で他地域から持ち込まれた外来生物が棲みつく^すと、元々いた動植物のすみかやえさが奪われたり、捕食されたりして絶滅する危険があります。今ある豊かな自然を守るためにも、外来種について知り、外来種を「飼育・栽培しない」「野に放たない」ようにしましょう。



2

伝統文化とくらし

「国生みの島」と言われる淡路島には、昔から受けつがれてきた多くの伝統芸能や言い伝えがあります。古の人々に思いをさせ、淡路島の文化とくらしを探ってみましょう。



(1) 人形浄瑠璃

淡路人形浄瑠璃は、世界に誇れる日本の伝統芸能です。500年の歴史を持つ淡路人形浄瑠璃は、国指定重要無形民俗文化財になっています。また、淡路島出身の人間国宝が二人もいます。ここでは、淡路人形浄瑠璃の歴史や人間国宝の鶴澤友路さんについて調べてみましょう。

① 歴史

・淡路人形芝居のおこり「道薫坊伝記（百太夫伝記）」

南あわじ市の市三條にある八幡神社には、「淡路人形発祥の地」の記念碑が建てられています。脇宮の大御堂の中には、戎様や百太夫・道薫坊が祀られています。室町時代末に、西宮の戎神社に仕えていた百太夫というくぐつ師（人形遣い）が市三條にきて人形操りを伝えたそうです。

・淡路人形の最盛期 全国に広がった淡路人形



昭和30年代奉納芝居鮎原天神「野掛け」

淡路人形は、江戸時代18世紀頃もっとも栄えました。淡路島に930人もの人形遣いがあり、40以上の人形座がありました。全国各地を回り、行く先々で「野掛け」という400～800人の客の入る芝居小屋を建てて公演し、人々を楽しませました。

・淡路人形の衰退と復興

明治の中ごろから、新しい芸能に人気をうばわれ、人形座は、減少していきました。特に、第二次世界大戦後は、人形座がなくなってしまいそうな深刻な危機にさらされました。

そのような時、伝統を守ろうとする人々の力で1964年（昭和39年）「淡路人形座」が生まれ、その後、淡路島内の市町が中心となって淡路人形協会が発足し、現在も地域の伝統を守る活動を続けています。



「淡路人形座バックステージツアー」より

② 人形浄瑠璃と文楽

文楽とは、人形浄瑠璃のことで、もとは人の名前であり、劇場の名称でした。淡路市飯屋出身の植村文楽軒が大阪に出て芝居小屋を開き、それがやがて「文楽座」となり、いつのまにか「文楽」という言葉が、人形浄瑠璃の代名詞にまでなりました。淡路人形芝居は、人形芝居という点では、文楽と変わりませんが、淡路島の頭（人形の頭部）は、文楽と比べてかなり大きく、ダイナミックに人形が動き、観客の人気を集めました。

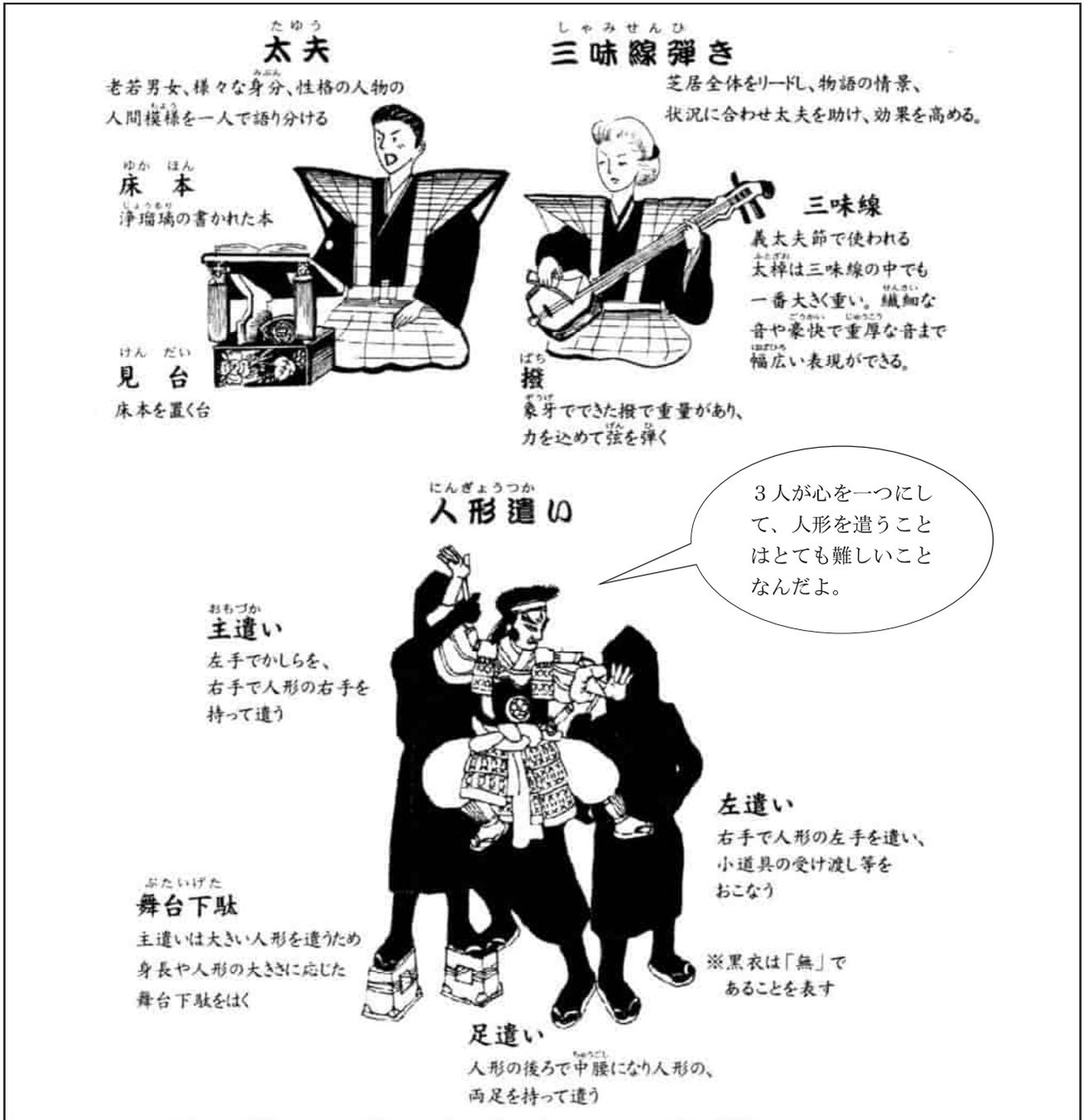
③ 淡路人形浄瑠璃

人形浄瑠璃は、江戸時代に生まれた芸能で、当時の人々の暮らしや生き方、人情を表現した舞台芸能です。

太夫、三味線、人形、この三つが一つになり、人形浄瑠璃は演じられます。

浄瑠璃は、登場人物のせりふ、会話の部分（詞・色）、物語の展開、情景、状況を

表現する部分（^{じあい}地合）からなっています。人形芝居では、浄瑠璃に合わせ、人間以上に美しく物語を描き演じます。



「淡路人形座バックステージツアー」より

④ 伝統文化の発信基地「淡路人形座」

2012年（平成24年）8月にオープンした新館「淡路人形座」は、人形芝居の公演や国内外への出張公演を行っています。淡路島が誇る伝統文化の発信基地として、淡路島でしか見ることのできない人形芝居に取り組み、日本の伝統芸能の魅力を海外へも伝え、高い評価を得ています。



淡路人形座

⑤ ^{けいしやう}継承する子どもたちと支える人々

淡路人形座の座員は、後継者を育成するために、南あわじ市内の高校、中学校、小学校、地区の子供会等で指導をしています。

淡路三原高校・三原中学校・南淡中学校のレベルは高く、国内外で公演を行っています。淡路三原高校郷土部は、文化庁長官賞や兵庫県文化賞を受賞しました。

淡路人形座の現在の座員のほとんどが、後継者団体で子どもの頃から太夫や三味線、人形に親しみ、魅力に取りつかれてプロの道を志した人たちです。



賀集福井子供会

⑥ 人間国宝 ^{つるさわともじ}鶴澤友路 (1913~2016)



鶴澤友路師匠

鶴澤友路(本名：宮崎君子)は、1913年(大正2年)、南あわじ市福良で生まれました。4歳で、芝居小屋の初舞台にたち、「母さんの名は～、お弓かかと申します・・・」と名作「傾けい城阿波の鳴門順礼歌せいあわ なるとじゅんれいうたの段」を大人顔負けで語ったと言われています。12歳で、「日本一の三味線弾きになる」と決心し、親元を離れ浄瑠璃の修行を始めました。大阪で厳しい修行

をしながら、人形芝居の座に加わって日本各地で公演を行い技をみがいていきました。芸名の「友路」は、尊敬する鶴澤友次郎つるさわともじろう師匠が自分の名前から「友」と淡路の「路」を合わせてつけてくれた名です。

友路師匠は、淡路人形座の座員の指導だけでなく、島内の学校でも浄瑠璃と三味線を教えてきました。国立劇場や文楽座での国内公演、19か国にも及ぶ海外公演、神戸フィルハーモニーと共演もしました。和洋の音楽合同公演にチャレンジしたり、外国人に浄瑠璃を教えたりと伝統芸能を守るだけでなく、幅広い活動をされました。

1998年(平成10年)に人間国宝に認定され、淡路島の誇りとして多くの人たちから祝福されました。「一生が勉強。」これが、友路師匠くちぐせの口癖でした。

(2) 伝統芸能

淡路島には、人形浄瑠璃以外にも各地で保存伝承されてきた伝統芸能がたくさんあります。どのような伝統芸能があり、誕生してきたのか見てみましょう。

① 「だんじり」の宮入り時に【だんじり唄】

だんじり唄は、だんじりが宮入りする時にほうのう奉納されます。だんじり唄は、人形浄瑠璃をもとに作られたもので、別名「浄瑠璃くずし」とも呼ばれ、物語の見せ場をうまく取り出し曲をつけ、創作したものです。また、伊勢音頭いせおんどからはじまった「祇園ばやし」や「木遣り唄」きやなどもだんじりの道中唄や奉納唄として淡路島各地で唄われています。



② 志士しし※1の霊れいを慰めるために【五尺おどり・大久保踊おどり】



五尺おどり



大久保踊（県指定重要無形民俗文化財）

五尺おどりや大久保踊は、淡路島最大の百姓一揆として有名な1782年（天明2年）の縄騒動なわそうどう※2で処刑された広田宮村の才蔵らの霊ひろたみやむら さいぞうを慰めるために奉納されています。

③ 雨乞いの願い・感謝の気持ちを込め【阿万の風流大踊小踊あまご】

阿万の風流大踊小踊は、雨乞いの願いとその願いがかなえられた後の願解きがんとして、感謝の意味と五穀豊穡ごこくほうじょう※3や郷土繁栄の祈りを込めて奉納されるようになりました。

1967年（昭和42年）に兵庫県指定文化財、1972年（昭和47年）に国選択無形文化財、2011年（平成23年）に国指定重要無形文化財に指定され、2022年（令和4年）にはユネスコ無形文化遺産に登録されています。



※1 志士：高い志を持った人。国家・社会のために献身しようとする人

※2 縄騒動：1782年、広田宮村などで起きた百姓一揆（P69参照）

※3 五穀豊穡：穀物が豊かに実ること

④ 五穀豊穡や豊漁の祈願と、感謝の気持ちを込め【石屋神社エビス舞・すわり相撲など】

石屋神社エビス舞は、その年の豊漁を祈願し行われます。昔は、人形を使って行っていたのですが、現在では、人がその代わりをしています。



また、石上神社（淡路市舟木）の秋季例祭では、拝殿前でむしろを敷き、五穀豊穡を神に感謝し「すわり相撲」を行っています。氏子の2人が東「満作」、西「豊年」に分かれて、すわったまま相撲をとり、交互に6回ずつ勝ち抜く神事です。

⑤ 為政者※1に対する抵抗として【机おどり・机くずし】



机くずしは、天明年間（1781年～1789年）、天災と悪税に苦しむ農民が為政者に対して、せめてもの抵抗として踊られました。これは、「机おどり」を崩したもので武器を持たない農民が素手で立ち向かって行くさまを表現した踊りです。

⑥ 祖先の霊の供養のために【洲本民謡おまあや・沼島の盆おどりなど】



洲本民謡おまあや

明治時代にかけて洲本の盆おどりの主流となります。「おまあや」とは、「おまえさん」という意味です。



沼島の盆おどり

「兵庫くどき」が音頭の源流です。



傘おどり

南あわじ市（阿那賀地区）で传承されています。



扇おどり

南あわじ市（丸山地区）で行われ、郷土の自然を愛する心を伝えています。

淡路島には、ここで紹介したもののほかにもたくさんの伝統芸能・文化があり、各地で大切に守られているんだよ。自分の身の回りにどんなものがあるか調べてみるニャー。



※1 為政者：政権を担当している者

(3) 祭り

淡路島では、年中どこかで祭りが行われています。みなさんの住んでいる地域では、どんな祭りが行われているのかなど、淡路島各地の魅力あふれる祭りを調べてみましょう。

① 祭りにこめられた人々の願い

古代から、祭りには、さまざまな願いがこめられていました。春には、種をまき作物の豊作を祈り、秋には、収穫を神に感謝する行事となっています。また、「家族が病気をせず健康でいられるように」「災いから逃れられるように」との願いをこめたものや漁の安全と大漁を願って行われるものもあります。

② 淡路島のだんじり

だんじりは、地域の宝物として誇りを持って大切にされています。

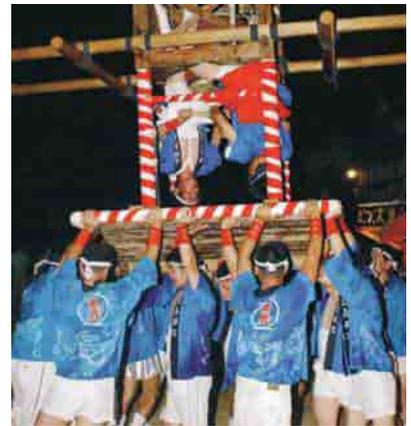
淡路島では、「五重ふとんだんじり」が一番多い形です。ついで、赤・白・黒など三色の薄い屋根のだんじりがありますが、これにはあまり飾りがつけられていません。また、飾りのない唐破風^{からはふ}*1つきのように一重屋根で軽そうなものもあります。これらは、「つかいだんじり」といって前後左右へ回すなどの芸をしてみせます。



五重ふとんだんじり



ひきだんじり



つかいだんじり

③ 淡路島の獅子舞

獅子頭を頭にかぶって舞う獅子舞は、二人が獅子を使い、二人ほどの茂助^{もすけ}*2がおもしろおかしく獅子を踊らせ、神社の例祭で奉納します。五穀豊穰の祈^き禱^{とう}や悪魔払いとして古くより伝えられています。



伊勢の森神社 獅子舞

※1 唐破風：そり曲がった曲線状の破風（屋根についている合掌形の装飾板）

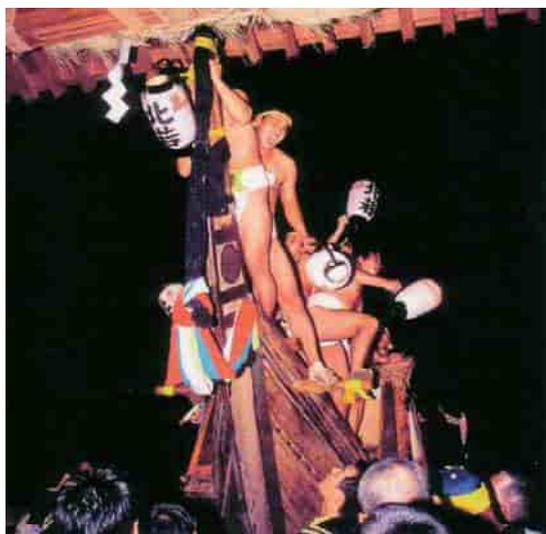
※2 茂助：獅子をなだめたり、あおったりする役で滑稽や曲芸を演じたりする

④ 鳥飼八幡宮の秋祭り（洲本市）

秋祭りは、200年の伝統があり、二基の舟だんじりが神社から浜の社までの4kmを練り歩き、神社に戻ってきます。境内に続く石段を登る宮入りや太鼓の総ねり、氏子たちが作った大綱を浜と陸に分かれて引き合い、豊作・大漁を占う大綱引きなどがにぎやかに行われます。



大綱引き



舟だんじり 宮入

⑤ 安住寺の蛇供養（南あわじ市）

稲わらで作られた長さ約12mの大蛇を人々に巻きつけながら、五穀豊穡と無病息災を願う珍しい祭りです。

この祭りは、約500年前から南あわじ市しとおりの安住寺地区で続く伝統行事で、巻きつかれた人は、ご利益があると伝えられています。

最後には、大蛇は、むく 椋の木に巻きつけられ、一年の平穩を祈ります。



蛇供養

⑥ 下司の大名行列（淡路市）

江戸時代中期に始まったこの大名行列は、徳島藩蜂須賀公の参勤交代時の宿入りの礼法所作れいほうしよさ*1をまねたもので、地元では、「ヨイヤナの行列」として親しまれています。



下司の大名行列



※1 礼法所作：礼の作法、ふるまい

⑦ 淡路島の祭り紹介



淡路島祭り（洲本市本町）



高田屋嘉兵衛祭り（洲本市五色町都志）



巖島神社 弁天祭り（洲本市本町）



由良湊神社 ねり子祭り（洲本市由良）



淡路巡遷弁財天（回り弁天）



伊弉諾神宮春祭り（淡路市多賀）



石屋神社 秋祭り（淡路市岩屋）



久留麻神社 春祭り（淡路市久留麻）



ぎ おんじんじや
 祇園神社 湯立て祭り (淡路市野島江崎)



伊勢の森神社 にしじんし 梯獅子 (淡路市中田)



大鏡餅運び (南あわじ市北阿万)



沼島八幡神社春祭り (南あわじ市沼島)



春日神社「的射の儀」
 (南あわじ市津井)



賀集八幡神社春祭り
 (南あわじ市賀集)



ことしろぬし
 事代主神社のエビス市
 (南あわじ市市)

淡路島の祭り

- 1月 蛇祭り(安住寺)
 大鏡餅(葉王寺)
 粥占祭(伊弉諾神宮)
 湯立て祭り(開鏡山観音寺)
- 2月 ねり子祭り(由良湊神社)
- 3月 浜芝居(石屋神社)
- 4月 梯獅子(伊勢の森神社)
 伊弉諾神宮春季例祭
 的射の儀(津井春日神社)
 春祭り(4~5月島内全地域)

- 5月 沼島春祭り(沼島八幡神社)
 花祭り(国分寺)
- 6月 愛染祭り(高雄山観音寺)
- 7月 夏祭りつかいだんじり(長林寺)
 夏越祭り(由良湊神社)
- 8月 淡路島祭り(洲本市)
 高田屋嘉兵衛祭り(都志)

- 9月 水かけ祭り(仮屋事代主神社)
 風流踊り(阿万亀岡八幡神社)
 石屋神社秋祭り(石屋神社)
- 10月 秋祭り舟だんじり(鳥飼八幡宮)
 室津八幡神社秋祭り
 (室津八幡神社)
- 11月 弁天祭り(洲本巖島神社)
 御崎祭り(福良八幡神社)
- 12月 回り弁天(島内真言宗寺院巡遷)
 えびす祭(えびす神社)

(4) 昔の暮らし

淡路島では、昔から農業や漁業などがさかんで、地域の人々が協力して生活をしていました。今のように豊かな生活ではない中でも、工夫して楽しみを見つけ、意欲的に仕事に取り組んでいました。

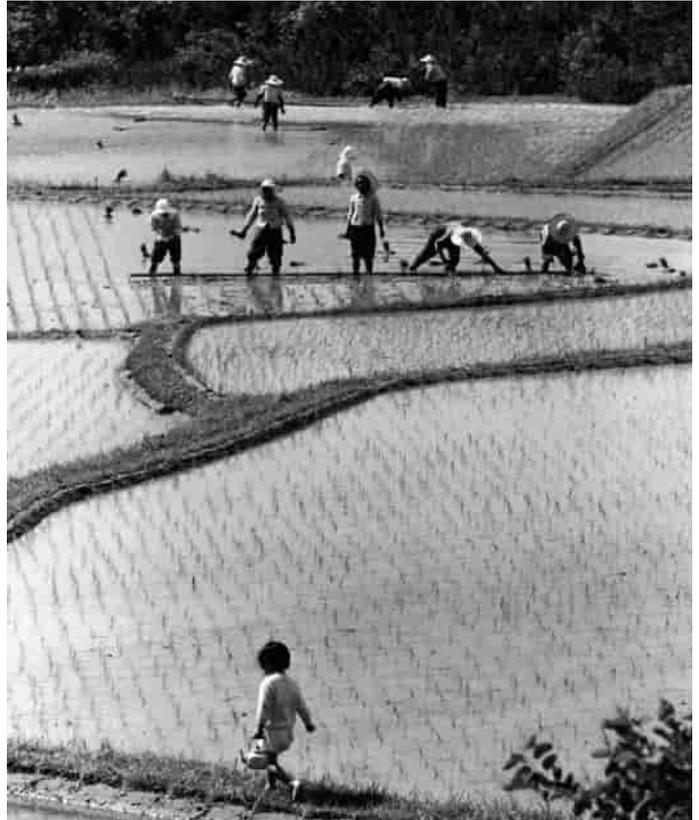
① 助け合う生活の中で

テレビや冷蔵庫、洗濯機、掃除機などの電気製品や自動車などがなかった頃の淡路島では、人々は様々な工夫をしたり隣近所が助け合ったりしながら暮らしていました。

農作業は、人の力と牛や馬の力でいい、田植えや稲刈りなど一度にたくさんの人手がいる時は、地域の中で助け合って作業をしていました。

淡路島の漁船に動力（エンジン）が付き始めたのは、大正期（1912-1926）で、それまでは、風力と人力で漁をしていました。

地曳網じびきあみなど人手がたくさんいる時や船を浜へ上げる時などは、助け合いながら作業をしていました。



田植え



地曳網



子守り

また、子どもたちも大切な労働力であり、「子守り」「井戸の水くみ」「苗とり」など、できる限りの手伝いをしていました。農繁期には、学校も早めに終わり家での手伝いをすることもありました。魚屋さんや呉服屋さんが売りに来るなど、集落の中で人々が生活できるような小さなまとまりのある地域が各地に作られていました。

② 生活の中の楽しみ



野掛け人形芝居

テレビが普及し始める1960年代までの楽しみは、ラジオや共同井戸でのおしゃべりでした。特に夏の夕暮れは、道端に出した「床几^{しょうぎ}*1」の上に近所の人が集まり、おしゃべりをしたり将棋をさしたりして夕涼みをしながら過ごしました。

共同井戸や「床几」は、地域の人々の憩いの場、語らいの場となり、情報交換の場としても活用されました。

また、季節ごとの家の祭りごとや神社の祭りも大きな楽しみでした。時には、人形芝居が野掛舞台で行われることもあり、重箱に料理をつめて見物に行ったりしました。

③ 子どもたちの遊び

今のようにスマートフォンやゲーム機のなかった時代には、子どもたちは、自分たちで工夫して遊ぶことが多く、「こま回し」「竹馬」「缶けり」「チャンバラ」「フラフープ」などで遊びました。

また、紙芝居がやってきた時には、子どもたちは、飴やお菓子を食べながら紙芝居を楽しみました。

街には、キャンデー売りが来ることもあり、それを買うことも一つの楽しみでした。

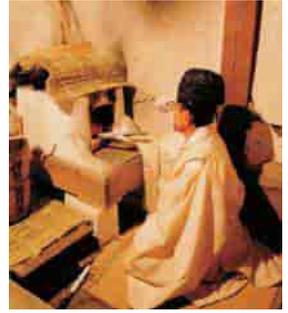


紙芝居

※1 床几：涼み台のこと

(5) 民間信仰と風習

日本国内では、その土地によって、全く違った珍しい生活習慣や習わし、しきたりがあります。淡路にも他の地域ではみられない独特の風習がいくつかあります。どのようなものがあるか探ってみましょう。



① 作物の豊凶を占う「粥占祭」

淡路市の伊弉諾神宮^{いざなぎじんぐう}では、毎年1月15日に粥占祭^{かいうらさい}という伝統行事が行われています。まず、早稲^{わせ}、中稲^{なか}、晩稲^{おくて}^{*1}それぞれの米の作柄^{さくがら}を示す三本の竹筒に米を入れて釜に沈め、午前2時から三度、桃の枝の薪^{たきぎ}で炊き上げます。本祭りで竹筒を釜から出し、流れ出るお粥の形で、今年は、どの作柄が豊作かを占います。



粥占祭

この占いは、今から1200～1300年前に始まったといわれ、現在でも農家の人たちは、作付けの参考にしています。この行事は、洲本市^{いづくしま}の巖島神社でも行われています。

② 江戸時代から広まった「社日さん」(社日信仰)

淡路島では、神社^{しゃにち}の境内^{けいだい}や田畑^{あぜ}の畦、山中などいろいろな場所^{しゃにちひ}に「社日碑」や「社日さん」と呼ばれる五角形の石柱が建てられています。「社」は、土の神様、「社日」は、それを「祭る日」という意味で、春には、豊作を祈り、秋には、収穫に感謝するために、土地の神様を祭ってきました。



淡路市久留麻の社日碑

社日信仰は、中国から伝わり、1789年(寛政元年^{かんせい})に、阿波徳島藩主^{あわ}が五穀^{はんしゅ}の豊作を祈って、広めたと言われています。社日碑は、現在269基あります。

一度、自分の家の近くにある社日碑を探してみましょう。



賀集福井の社日碑



社日祭のようす

※1 早稲、中稲、晩稲：稲の品種で、収穫の時期が早い順に早稲、中稲、晩稲という

③ 三十五日の「団子ころがし」

淡路島では、「団子ころがし」という風習があります。これは、人が亡くなってから三十五日の法事^{※1}の時に遺族が近くの山に登り、谷を背にして立ち、団子やおむすびを谷底に向かって投げるといふものです。この時には、決して谷を向いてはいけなると言われています。

この風習には、亡くなった人が三途^{さんず}の川を渡り、あの世へ行く時に餓鬼^{がき}が現れて、行く手を邪魔するので、団子を投げて、餓鬼がそれに気をとられている間に「極楽浄土へ行けるように」という意味があります。この「団子ころがし」は、先山をはじめ、淡路島各地の高い山で見られます。

④ 送り火

お盆の送り火の行事としては、京都の五山の送り火が有名ですが、淡路島にも伝統的な送り火があります。



・洲本市下内膳^{しもないぜん}の火踊り

盛光寺^{せいこうじ}の檀家^{だんか}^{※2}の間で、古くから続けられてきた盆の送り火です。住民達がサンマ^{※3}と呼ばれる小高い丘の上で、太鼓や鉦^{しやう}（金属製の打楽器）の音頭にあわせて、火をつけた松明^{たいまつ}を振り廻し^{まわ}、亡くなった人の霊を送ります。

・栢野^{かやの}の柴燈^{さいとう}（洲本市五色町鮎原）

毎年、8月16日に薬師堂^{やくしどう}で行われる送り盆の行事です。10mほどの松の柱に柴木などを巻きつけた大松明に、昼間太陽の光から採った種火をつけ先祖の霊に祈りを捧げ^{ささ}、仏を送ります。



※1 法事：亡くなった人の冥福を祈るために、お葬式から数えて区切となる日に定期的に行われる仏教の儀式
 ※2 檀家：寺院に属し、これに布施（お金などをおさめる）する家
 ※3 サンマ：共同埋葬地のこと

(6) 郷土料理

淡路島は、古くから食物が豊富で天皇・貴族へ食糧を献上していたことから「御食国」^{みけつくに}とも呼ばれていました。先人の知恵を受け継ぎ、今に伝わる郷土料理を紹介します。

郷土料理のこと、みなさんは、どのくらい知っているかニャー???



① ちょぼ汁



淡路島の代表的な郷土料理で「だんご汁」とも呼ばれています。赤ちゃんを生んだお母さんの体力を回復させたり、母乳の出をよくしたりするはたらきがあります。赤ちゃんの口元がおちょぼ口のように美しく育ってほしいという願いからこの名がつけました。

(43ページのレツクッキングを参照)

② たこめし

淡路島の北の方では、夏に「干しだこ」をよく作っていました。たこめしは、「干しだこ」を軽くあぶり、小さく切ってご飯で炊き込んだものです。色がほのかに赤くなるので、お祝いのお膳にもものせられることがあります。湯だこや生だこでも作られます。



③ こけら寿司

淡路島では、夏にとれる魚「べら」や「とらはぜ」を保存食にして食べていました。こけら寿司は、祭りや正月のときにその「べら」をみじん切りにし、酢飯の上に置いて型抜きした押し寿司です。甘辛く煮たエビを使ったものは、「えびそぼろ」といいます。

④ つぼ汁

お葬式や法事の時の料理として、南あわじ市の南部でふるまわれます。きくらげ、小芋、かんぴょうを煮て、味噌と砂糖で甘く味つけがされています。つぼ椀^{わん}とよばれるお椀に入れて出されたため、この名がつけました。





⑤小あじのほおかむり

淡路島でよくとれるあじを使ったお寿司です。俵型にぎったすし飯に、酢でしめたあじをほおかむりのようにかぶせるのでこの名がつけました。あじの他にいわしでも作られます。祭りや農作業の合間によく食べられました。

⑥いびつもち（葉餅）

5月の節句には、全国で柏餅がよく食べられています。しかし、淡路島では、柏の葉が手に入りにくいので、あんこの入った餅を「さるとりいばら」の葉に包んで蒸しました。名前の由来は、「葉の形がいびつだから（ゆがんでいる）」とされています。



⑦いぎす

お盆に作られる料理で、「仏様のごちそう」と言われています。いぎすと呼ばれる海藻を使い、ぬかの汁を入れて固めて作ります。ごま味噌やからし酢味噌をつけていただきます。

レッククッキング

ちょぼ汁（4人分）

- ① ささげ200gを400ccの水に一晩つけます。
- ② ①を煮立たせます。
- ③ だんご粉200gに水200ccを少しずつ加えながら耳たぶくらいのかたさに練ります。その後、小さく丸めます。
- ④ ずいき（里芋の茎を乾燥させたもの）を熱湯に入れてゆで、冷ましておきます。
- ⑤ だし汁（こんぶといりこだし）600cc（一人分約150cc）の中にささげとずいきを入れて煮立たせ、ささげがやわらかくなるまで煮ます。
- ⑥ 味噌を入れ、味をととのえます。
- ⑦ だんごを入れ、浮き上がってから、2～3分で火を止めて完成です。



ずいき

ささげ

(7) 方言

昔から、淡路島でも独特の言葉を使っていました。それが淡路弁です。淡路弁も関西弁の仲間に入ります。しかし、関西弁というだけでは、説明のつかないような言葉がたくさんあります。淡路弁をさらに細かく分けてみると、「河内・大和系」(北部)、「泉州・和歌山系」(中部)、「徳島系」(南部)の三つに分けることができます。



① 淡路弁の特徴

淡路弁の一番の特徴は、言葉の「簡略化」です。親しいもの同士が話をするので、より簡単な方が相手にも伝わりやすいと考えられています。そこから淡路では、敬語を使わないほうが親密で打ち解けたものとして敬語が少なくなっています。さらに、意味さえ分かれば、なるべく発音を簡単にしようとした結果、拗音ようおん(ゃ、ゅ、ょ)や促音そくおん(っ)が多くなっています。

② 淡路弁の紹介

『だあ〜』(意 味) ~でしょう。

(使い方) 淡路弁→「昨日、テレビ見たけ?おもしろかっただあ〜。」

共通語→「昨日、テレビ見た?おもしろかったです。」

『せんどぶり』(意 味) 久しぶり

(使い方) 淡路弁→「おお!!〇〇君、せんどぶりやん。」

共通語→「おお!!〇〇君、久しぶりだね。」

『まく』(意 味) こぼす

(使い方) 淡路弁→「誰が、水まいたん?」

共通語→「誰が、水をこぼしたの?」

『〜ばー』(意 味) ばかり

(使い方) 淡路弁→「うそばー、言うて。」

共通語→「うそばかり、言って。」

『わがでに』(意 味) 自分で

(使い方) 淡路弁→「わがでに、けがしてもうた。」

共通語→「自分で、けがをしてしまった。」

③ 淡路弁アンケート

島外出身で淡路島に住んでいる人、淡路島出身で島外に住んでいる人・淡路島に住んだことがある人へのアンケートを実施した結果です。



☆意味が分からなかった淡路弁エピソード ベスト3

第1位 たつ（閉める）

例) 「すまんけど、戸をたつといてくれっけ」

それを聞いた方は、理解できずその場で立ち続けたそうです。

第2位 かく（かつぐ・持ち上げて運ぶ）

例) 荷物を入れるときに「ちょっとそこかいて」と言われたので、
「どこが、かゆいの」と聞き直したそうです。

第3位 いぬ（帰る）

例) 「もう、いぬから」と言われ、「犬？どこですか？」と答えた。

☆便利だと思う淡路弁・簡潔な表現だと思う淡路弁 ベスト3

第1位 べっちゃない（大丈夫）

(理由) 沖縄の「なんくるないさー」みたいで癒される。

第2位 おがる（怒鳴る）(理由) 怒鳴るよりやわらかい表現。おもしろい表現。

第3位 なへえ？（どうして？）(理由) かわいい。怒られてもほっとする。

方言は、その土地の歴史やそこに暮らす人々の喜びや悲しみなどが詰まったふるさとの文化遺産であり、大切にしなければなりません。一方で、観光地として変化している淡路島の次世代を切り開いていくみなさんには、共通語との違いを知り、時と場に応じて使い分けることも求められます。

④ 淡路弁クイズ

次の淡路弁には、どんな意味があるのかを考えてください。

答えは、あなたの周りにいる淡路弁の達人に教えてもらってください。

- | | | | |
|---------|---------|------------|-----------|
| ①『べんこ』 | ②『めんどい』 | ③『へんだらだすい』 | ④『おいや』 |
| ⑤『いぐちぐ』 | ⑥『おじみそ』 | ⑦『げっとこ』 | ⑧『せわしい』 |
| ⑨『めげる』 | ⑩『ちみきる』 | ⑪『わせる』 | ⑫『いんでくら〜』 |
| ⑬『ようけ』 | ⑭『せばい』 | ⑮『いらう』 | ⑯『こんこ』 |

※時代とともに使われなくなってしまう方言もたくさんあります。

3

産業と交通

海と山、豊かな自然に囲まれた淡路島。ここには、島特有の産業と交通の今・昔があります。その中の一部に触れてみましょう。

(1) 食の宝庫

みけつくに
御食国と呼ばれた淡路島。現在も食の宝庫として、その名は全国的にも有名です。その代表の一部を紹介します。日本全国に向け、淡路島の自慢の品々です。

① タマネギ（玉葱）……………格別の甘さ、淡路島の農作物の代表選手

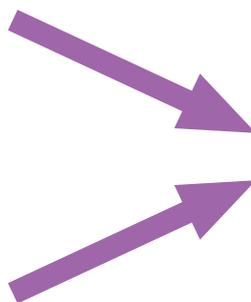


— JAあわじ島のお話 —

淡路島のタマネギは、近畿だけでなく全国でも有名です。贈り物としても喜ばれています。

おいしさの秘密は、生産者の方々が土作りからこだわり、出荷まで一生懸命育てていることにあります。

② ハモ（鱧）……………夏の風物詩



ハモすき

— 沼島の漁師さんのお話 —

京都の祇園祭^{※1}、大阪の天神祭^{※2}には、欠かせない夏の風物詩です。

淡路島のハモのおいしさは、誰からも認められており、漁師さんの折り紙つきです。

※1 ぎおん 祇園祭：京都の三大祭りの一つ。9世紀から続くお祭りで、毎年多くの人々が訪れる
※2 天神祭：全国の天満宮で行われるお祭り。大阪の天満宮は、有名です

③ レタス



乳用牛や肉用牛の飼育が盛んな淡路島では、たい肥^{※1}も豊富です。栄養豊かな土と温暖な気候、農家の人の愛情がたっぷりのレタスです。おいしさも納得します。

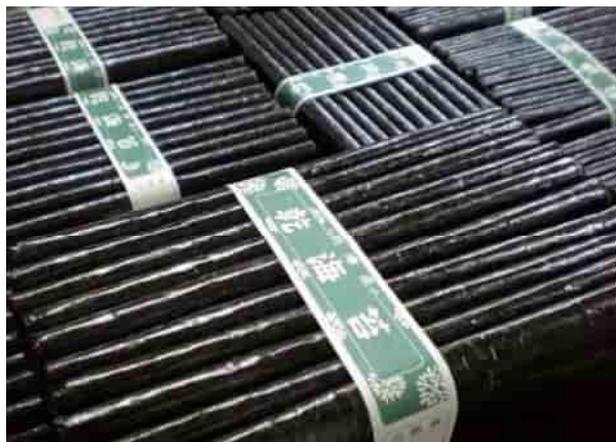
⑤ 淡路ビーフ



淡路ビーフについては、48ページの「ブランド牛のふるさと」を見てください。おどろきの事実が発見できます。

ここでは、ほんの一部しか紹介できないのが残念です。他にもおいしいものがたくさんあります。

④ ノリ（海苔）



淡路島のノリは、瀬戸内海の豊かな海水が育てます。栄養の元は、淡路島にあります。生ノリは、巻きずしなどに使います。味付けノリも評判です。

⑥ ウニ（雲丹）



素もぐりで獲ったウニの卵巣をていねいにかきだして食べます。高級食材として、淡路島のウニは、出荷され喜ばれます。

淡路島一周まんぷくすごろくーめざせ！御食国王！！ーへGO！ [資料編へ]

※1 たい肥：牛のふんを乾燥、発酵させたもの

(2) ブランド牛のふるさと

淡路島には、おいしい食べ物がたくさんあり、日本一あまいと言われている玉ねぎをはじめ、淡路ビーフや淡路島牛乳などが有名です。

特に、淡路島で生まれ育てられた子牛は、各地に出荷されており、「ブランド牛のふるさと」と呼ばれています。

① 淡路牛の歴史

淡路島では、昔、牛を飼育し、田畑を耕す農耕牛、輸送の役牛として用いてきました。しかし、明治以降、牛肉を食べる文化が広がってきてからは、肉用牛への転換が図られました。

そこで、当時おいしいと評価の高かった「但馬牛」との繁殖を試み、昭和初期には、より肉質や体格のよい「淡路和牛」の原型が誕生しました。

② 淡路ビーフのおいしさ



淡路ビーフ

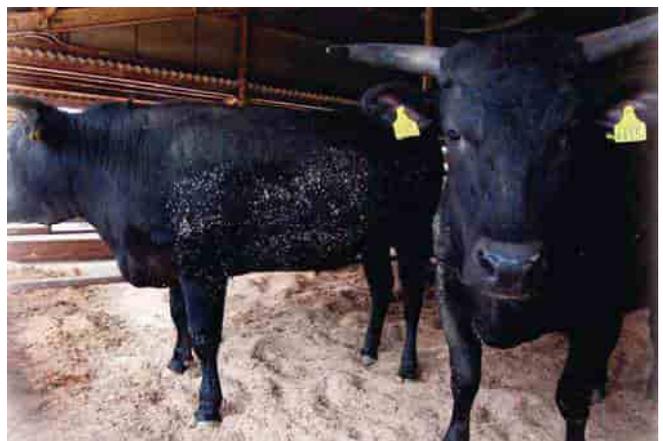
淡路ビーフは、筋繊維が細くてやわらかく、肥育^{※1}すると脂肪が細かく入り込み、筋肉の鮮紅色と脂肪の白色が交雑する「サシ」がはいり、最高級の「霜降り肉」となっています。

熱を加えるとサシが溶け、やわらかく舌ざわりが良く、筋肉のうま味と脂肪の香りが微妙にとけあい、まろやかな和牛独特のおいしさをひきだします。

③ 神戸牛、松阪牛などのブランド牛へ

瀬戸内気候の温暖な淡路島は、肉牛が育つ環境に恵まれ、長年の経験を生かした牛飼いの名人たちにより愛情と精魂こめて育てられます。

このことにより、淡路島は、良質の子牛の産地となっています。



淡路牛

※1 肥育：飼料を与えて、牛を肥やし食用にするための飼育法

「神戸牛」「但馬牛」「松阪牛」などのブランド牛となる^{もとうし}素牛^{※1}生産地として、子牛を各地に出荷しています。

1986年（昭和61年）、淡路島で最高級の黒毛和牛「淡路ビーフ」が誕生しました。淡路島で生まれ、淡路島で肥育され、品種評価基準により選定された「淡路ビーフ」も神戸牛などに並ぶ一級品ブランドの一つになりました。

淡路島独自の飼育管理を行い、より品質の高い肉質を保持し、流通経路を短縮し、消費者の方々に少しでも安価で提供できる工夫をしています。

このことにより、価格が手頃な美味しい淡路島の特産品として有名になってきています。

④「淡路島牛丼プロジェクト」

2008年（平成20年）10月、淡路島でとれた食材を使って、おいしい牛丼を作ろうと「淡路島牛丼プロジェクト」が誕生しました。

「淡路牛」と、栄養豊富な土壌とこだわりの栽培方法により高い糖度の「淡路島玉ねぎ」、糖度・香り共に高い「淡路米」を使って淡路島自慢の牛丼を作り、淡路島の食材の素晴らしさを全国に発信しようという新たなご当地グルメプロジェクトです。

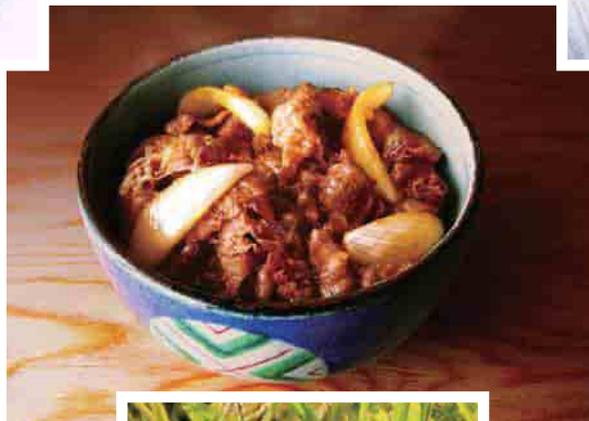
淡路島のファンや観光客を増やし、地域おこしの一つとなりました。



牛肉



玉ねぎ



米

※1 素牛：肥育牛や繁殖牛として飼養される前の、生後6か月から12か月の子牛

(3) 淡路島の経済を支えてきた地場産業

淡路島では、豊かな自然・穏やかな気候・環境・立地条件などを生かしてさまざまな地場産業が栄えてきました。

① 線香

線香の歴史

線香・お香は、仏教の伝来とともに、インド・中国から日本に伝わりました。「595年に淡路島に香木が漂着し、島民がその木を燃やすと良い香りが辺り一面に広がりました。その香木は朝廷に献上されました。」と、日本書紀に記されています。

淡路島は、日本有数の線香の産地です。淡路島の線香作りは、1850年（嘉永3年）に、江井浦の田中辰造が大阪の堺から製法技術を導入して、七軒の船主達が始めました。当時、江井浦は、廻船問屋^{かいせん}として栄えた港町でしたが、冬場は西浦の季節風で港が閉ざされ、人々の生活は、苦しいものでした。この冬の間の生活を支えるものとし



線香工場のように



盆切り※1

て、また、江井浦の気候条件が線香作りに適していたこと、原材料や製品の輸送に便利な良い港が整っていたこと、労働力が得やすかったことなどから発展しました。

② 淡路瓦



ました。江戸中期から民家にも瓦の使用が許されてから、急速に発展しました。

近年では、さまざまな住宅に合う淡路瓦も作られ、屋根材だけでなく外壁材として使われたり、モニュメントやインテリア・雑貨などの新しい使い道が考えられたりしています。

瓦づくりは、飛鳥時代^{あすか}（588年）に百濟^{くだら}から瓦の技術者が渡来し伝えられたことに始まります。淡路島では、藤原京（700年）のころに始まったと言われています。質の良い粘土に恵まれ、重い瓦を大阪・奈良・京都に安く運ぶための港があったことから、津井・松帆・阿万（南あわじ市）などでさかんになりました。

※1 盆切り：そうめん状に押し出される線香を盆板^おで受け、竹ヘラで切り取る作業

③ 手のべそうめん

淡路島の手のべそうめんは、風味とコシがあり、品質が良いとされています。

そうめんの生産は、江戸時代、福良（南あわじ市）の漁師の渡七平わたしちへいが伊勢参りの帰り道、大和三輪の里（現奈良県桜井市）でそうめん作りに出会い、その後、二年間三



輪の里にとどまりその製法を学び、持ち帰ったことが始まりだと伝えられています。福良の町の気候がそうめん造りに適していたことや関西や四国を結ぶ交通の要所でもあったことで、漁業の副業として発展しました。空気が乾燥する冬の間だけ行われ、二日かかりで約2mの長さにのばされます。

1915年（大正4年）のサンフランシスコ万博で金賞を受賞し、淡路島の手のべそうめんは、各地で注目を集めました。現在、淡路島で「おのころ系」「御陵系りょういと」「淡じ系」の三種類が生産されています。

④ 紡績ぼうせき

江戸時代、洲本城の城下町だった洲本は、淡路島の産業・文化の中心地として栄えました。その洲本に1893年（明治26年）淡路紡績株式会社ができ、その後、鐘淵紡績株式会社かねがふちが買収しました。太平洋戦争では、大きな打撃を受けましたが、戦後、復興を遂げ、1950年（昭和25年）には、従業員数4200人を超えるまでに成長し、昭和60年代初頭まで淡路島最大の企業でした。



1986年（昭和61年）に紡績操業を停止しましたが、その後、工場跡地には、ショッピングセンターやバスセンター、兵庫県立淡路医療センター、洲本市文化体育館、洲本市立図書館などが設けられ、多くの市民が活動する公共の場として再生・活用されています。

(4) 先端をいく産業

淡路島にも、時代の先端をいく企業、工場が存在します。例えば、スチームクリーナー、電池、釣り糸、医薬品、精密加工などの開発、生産に取り組んでいます。また、昔から農水産業がさかんな淡路島では、新しい形の産業が展開されています。

① 技術開発企業 —世界の空へ、宇宙に羽ばたく精密技術—

ミツ精機株式会社では、ジェットエンジン部品、人工衛星用の部品を作っています。航空機・宇宙機器部品は、いかに重量を軽くするかが最も問われます。また、航空機のエンジンケースは、エンジン燃焼時には1200～1300℃にも達します。高温でも使える耐熱鋼を高精度高精密加工で仕上げています。



同社のエンジン部品を使用した飛行機

(ニット編機部品の機械加工・アッセンブリー※1)



ニット丸編み機

ファッションの世界では目まぐるしく流行が変化し、進化をとげています。木綿・化学繊維、そして、これまで^{ひやくてき}にない新素材。素材が発達すれば編機の発展を促すサイクルが飛躍的に早まり「もっと斬新^{ざんしん}で新しい生地ができないか」というファッション業界からのニーズを受け、新機種にも取り組み、技術開発に余念がありません。

(職人の力)

「いかに優れたテクノロジーでも、そこに息を吹き込むのは、人間の力と感性」とこの会社では、考えています。0.05gという超軽量精密部品から、1tに及ぶ重量級の部品加工に至るまで、さまざまな分野で業界無比を誇る生産技術力を可能にしています。これは、「最新鋭の工作機械」と「きたえぬ^{まも}かれた職人が持つ技と感性」が可能にしているのです。

② 光学レンズなどの製造・販売会社(あらゆるシーンで眼を^{まも}護る、高品質の光学技術)

山本光学株式会社は、1911年(明治44年)の創業以来「眼を護る」眼鏡製品を開発してきました。戦前は、ガラス素材から出発し、その後、安全性の高い高機能の新しい

※1 アッセンブリー：組立て作業

マーケットニーズに応える製品を開発してきました。今では、産業・医療・スポーツ等の分野で、多様なアイウェア、レンズを世界に送り出しています。

淡路島では、ランニング・ゴルフ・フィッシング用サングラス、スキーゴーグルを作っています。



サングラス



ゴーグル

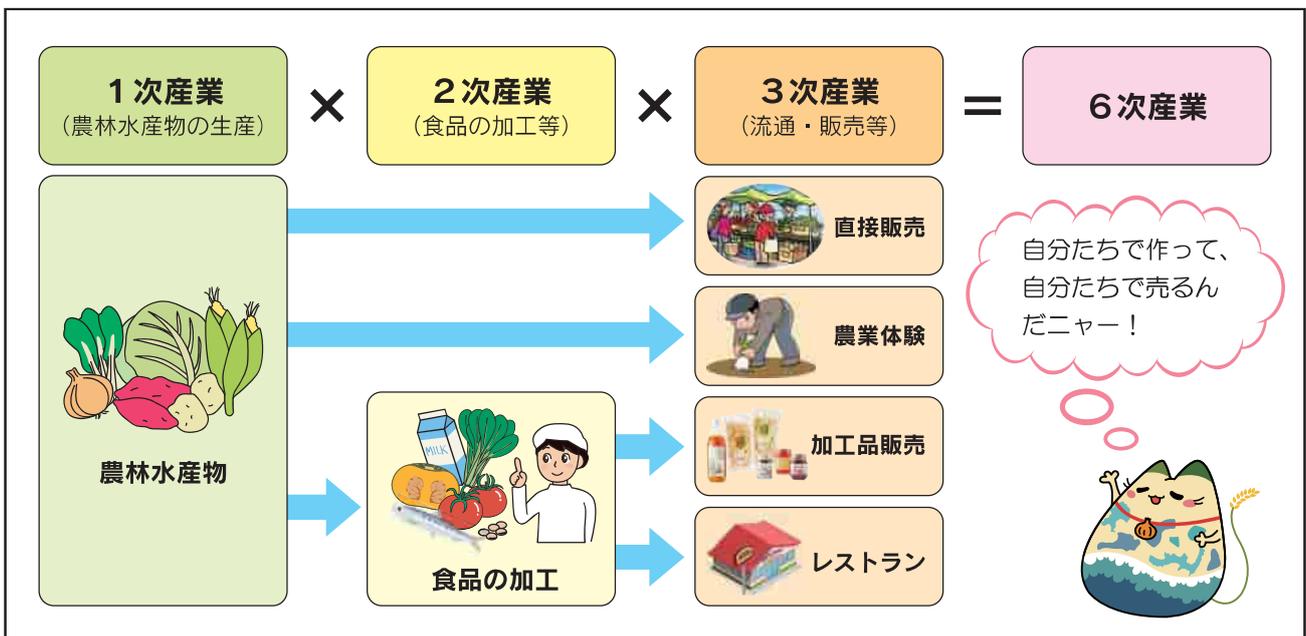
（かくされた秘密）

スポーツとは、身体活動で汗もかきます。サングラスは、ずれ落ちないのでしょうか。山本光学では、人間の頭の形を調べ、サングラス製造に生かしています。

「ズレないように」、「必要以上にしめつけないように」、頭全体を包み込み、最適のフィット感を実現します。人の頭の形は、人それぞれです。しかし、日本人と外国人とでは、それぞれ特徴があります。その特徴を考慮し、サングラス作りに生かしています。小顔向け、女性向け、子ども向けなどもあり、それぞれの必要性に合わせ、利用できるように努力しています。

③ 6次産業

淡路島は、山や海の幸に恵まれた食材の宝庫です。昔から第1次産業がさかんで、生産だけに専念するスタイルでした。しかし、今、新しい取組が始まっています。農林漁業者が自ら生産した農林水産物について生産する（1次）だけでなく、加工（2次）、流通・販売（3次）への取組拡大や地域資源を活用した新産業を生み出そうとする取組です。6次産業とは、1次×2次×3次＝6次から生まれた造語です。



(5) 交通手段の変遷^{へんせん}

車社会の到来と国道の整備やフェリーボート事業の展開、そして、大鳴門橋・明石海峡大橋の開通と時代とともに島民の交通手段も変化してきました。

① 淡路島の鉄道（洲本～福良間）

淡路島民待望の鉄道は、1922年（大正11年）に洲本・三原^{いち}郡市間で営業運転を開始し、1925年（大正14年）に福良まで全線開通しました。「淡路島に電車が走っていた」と言われても、知る人は少なくなってきました。

1948年（昭和23年）に洲本と福良間で、電車の運行が開始されました。子どもたちにも愛された電車でした。

1966年（昭和41年）に自動車^{自動車}が交通機関の主役となり、惜しまれながら、廃止されました。



駅のホーム（1965年（昭和40年ごろ））

② 客船とフェリーボート

島の人々にとって、船は、かけがえない交通手段でした。

今からは、考えられないほど、昔の客船は、のんびりしていました。淡路島の西浦海岸と明石とをむすぶ八幡丸という船がありました。八幡丸が室津や富島の港に着くと、回船（客を八幡丸から陸に運ぶなかつぎ船）でお客をおろし、いかりをおろして一時停泊し、客待ちをしました。ときには、時間におくれた客が陸から大声で「オーイ」と声をかけると、待ってそのお客も乗せました。多くの観光客が船で淡路島を訪れ、夏のシーズンには、港は、たくさんの人でにぎわいました。



育波港での八幡丸と回船（1955年（昭和30年ごろ））



岩屋の船着き場へむかう観光客（1968年（昭和43年））

しかし、自動車が増えるにしたがい、国道28号線のつなぎとして、明石－岩屋間の明石フェリーと福良－鳴門間の鳴門フェリーが1954年（昭和29年）に開通しました。スピードが重要な役割を果たす時代となり、「田舎へ墓参りと思って公団^{※1}フェリーの明石港に行ってみたら、2時間も3時間も乗船できないほど・・・」と、それを解消するため新しくフェリー会社も設立されました。

明石海峡大橋が完成するまでは、淡路島と船は、切っても切れない関係でした。しかし、大橋開通にともない、航路は、次々と廃止されていきました。本州と淡路島を結ぶ航路は、現在は、岩屋－明石間の一航路を残すのみとなっています。



神戸長田港と浦港にフェリーボートが就航



岩屋－明石間の航路の船

③ 高速バス

大橋が開通し、高速バスで神戸方面に行くことも多くなりました。所要時間も短くなり、便利になりました。高速バスで島外へ通勤・通学している人もたくさんいます。

船を使っていたころは、天気が悪くなると「欠航になったら困る。」と心配していましたが、高速バスが走り出してからは、その心配もほとんどなくなりました。

※1 公団：政府、地方自治体、公社などが出資して設立する公共法人（特殊法人）を言うが、2001年（平成13年）までにすべての公団は独立行政法人等へ変わった

(6) 明石海峡大橋

明石海峡大橋は、神戸市垂水区東舞子町と淡路市岩屋とを結ぶ、明石海峡を横断してかけられ、開通当初は世界最長のつり橋でした。



- ・建設費：約5,000億円 ・全長：3,911mで中央支間長（1,991m）は世界一
[開通当初]
- ・主塔の高さ：海面上298.3m 国内第4位
 - 1位 東京スカイツリー（634.0m）
 - 2位 東京タワー（332.6m）
 - 3位 あべのハルカス（300.0m）
- ・愛称：パールブリッジ



明石海峡大橋

明石海峡大橋ができるまで

- ・1945年（昭和20年）12月9日
播淡連絡汽船「せきれい丸」が明石海峡で沈没し、死者304名の惨事となる。これ以降、橋をかけようという運動が盛り上がった。
- ・1955年（昭和30年）5月11日
瀬戸内海を航行する宇高連絡船「紫雲丸」が沈没し、修学旅行中の児童など死者168名の惨事となる。この事故をけいきに本州四国連絡橋建設の願いを一気に高めた。
- ・1986年（昭和61年）4月 起工式。
- ・1988年（昭和63年）5月 現地工事に着手。
- ・1995年（平成7年）1月17日
兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）が発生。全長が約1mのびる。
- ・1998年（平成10年）4月5日 開通。
- ・2024年（令和6年）12月9日 通行台数が3億台を達成。



明石海峡は、海峡のはばが約4 km、最大水深は約110m、その上、潮の流れも速く、橋をかけるのに困難なことが多くありました。橋を建設するために、たくさんの新しい技術の開発を行い建設されました。また、大型船舶が行き交う所なので、海面からの高さ65mを確保し、大きな台風が来てもだいじょうぶなように風速80mにたえられるように設計されています。

①橋がかかったことで

- 季節風や濃霧などの影響をほとんど受けることなく、本州にも短時間で行き来できるようになりました。
- 四国産の農水産物を安定的に関西方面へ出荷できるようになりました。
- 水道管が設けられ、水不足になやまされることがなくなりました。
- 電気と電話のケーブルもあり、エネルギーや情報も行き来しています。
- 明石海峡大橋開通以前は、多くのフェリーが就航していましたが、乗客の減少により^{てったい}撤退せざるをえなくなりました。



本州からの水道管

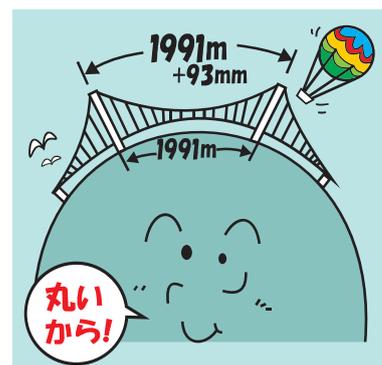


ケーブルには1,084組のランプが取り付けられ、季節や日時に応じて変わります。

②すごいぞ！明石海峡大橋



- 本州と淡路島を結ぶ大事な橋なので、日頃から点検・補修をして、200年間は、持たせる管理をしています。
- 工事にたずさわった人は、のべ210万人で、死亡事故はゼロです。
- 1本のケーブルには、直径約5mmのピアノ線が36,380本使われており、ケーブル2本をつなぐと、地球7周半にもなります。
- 2つの塔の間は、塔の上が根元より93mm長くなっています。それは、地球が丸いからで、塔は、地球の面に垂直に立っており、違いが出ています。
- 船がぶつかっても大丈夫なように、塔の基礎部分に^{かんしょう}緩衝工^{こう}というクッションが取り付けられています。



(7) 観光の島

淡路島では豊かな自然環境と心温まるおもてなしやほっとする時間と空間を味わうことができます。観光で訪れ、その後、リピーターとして淡路島を毎年訪れる人もたくさんいます。

① 淡路島の「お・も・て・な・し」を楽しもう

島外から訪れる人を、温かく心をこめてお迎えする料理や宿舎、温泉がたくさんあります。



3年とらふぐ



淡路ビーフ



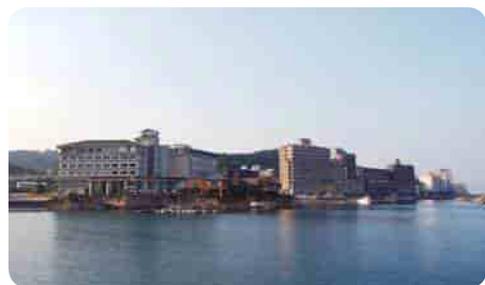
お造り



お土産



民 宿



ホテル



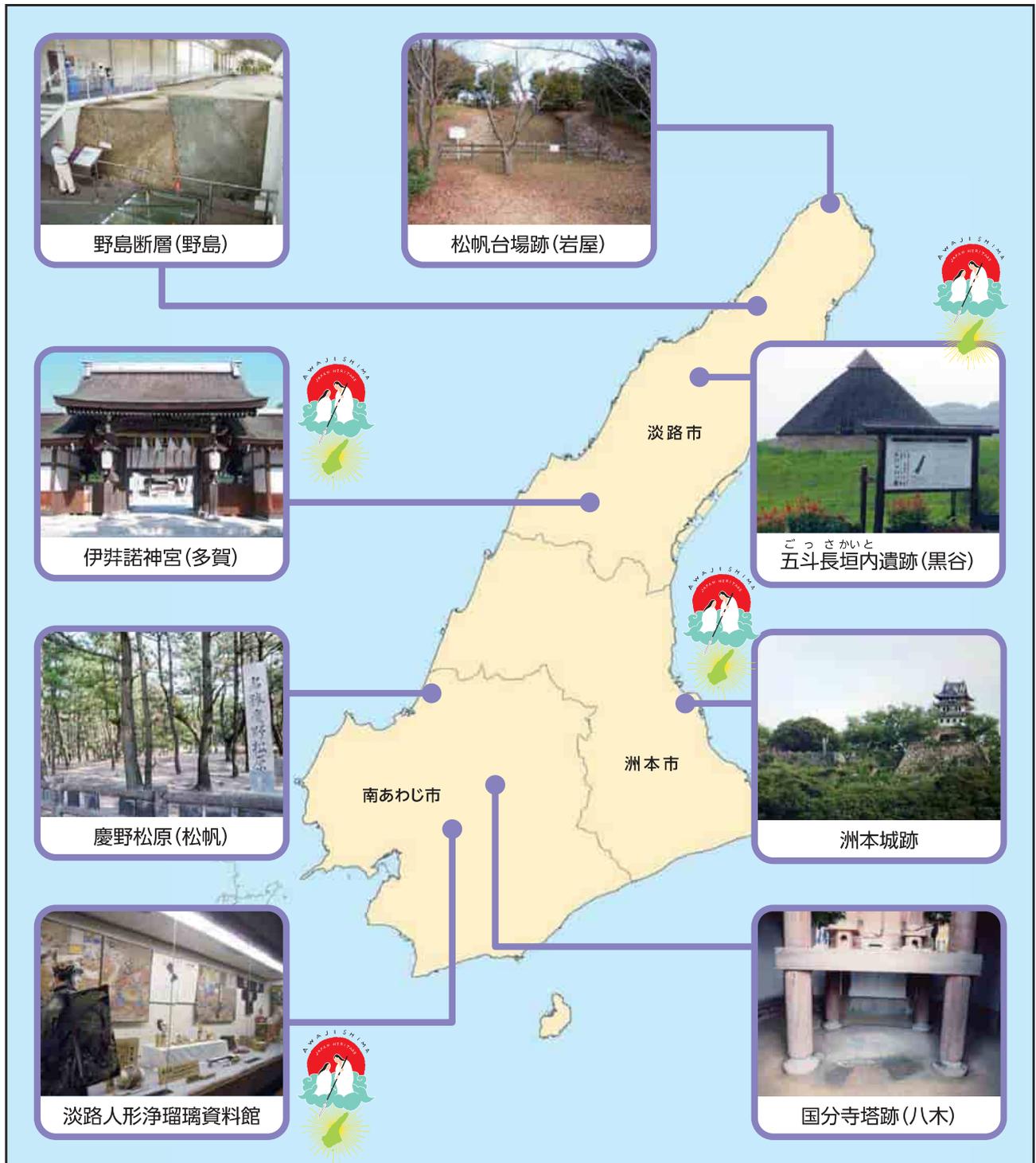
足 湯 (温泉)

淡路島に来た人は心も体も
ぼっかぼかになれるんだニャー。



② 多くの史跡がいっぱい

淡路島の南北は、約53km、東西約22km、一日で全てを訪れるのは大変ですが歴史の重みをじっくり感じるところがたくさんありますので、訪れてみましょう。



産業と交通

淡路七福神(淡路三市にあり、どのお寺からでもスタートできます。)

- ・恵比寿神えびすじん：万福寺まんぷくじ (南あわじ市賀集)
- ・大黒天だいこくてん：八淨寺はちじょうじ (淡路市佐野)
- ・毘沙門天びしゃもんでん：覺住寺かくじゅうじ (南あわじ市神代)
- ・福祿寿ふくろくじゅ：長林寺ちやうりんじ (洲本市都志万歳)
- ・弁財天べんざいてん：智禪寺ちぜんじ (淡路市草香)
- ・寿老人じゅろうじん：宝生寺ほうしょうじ (淡路市里)
- ・布袋尊ぼていそん：護国寺ごこくじ (南あわじ市賀集)

③ 美しい風景

淡路島には、多くの美しい風景があります。日ごろ何気なく見ている景色が島外から来た人の心を揺さぶります。これも淡路島の自慢の一つです。



灘黒岩水仙郷



成ヶ島 (淡路橋立)



広田梅林



淡路市生田の棚田

④ 五感を使って体験

淡路島では、いろいろな体験もできます。物づくりから体を使った体験までできます。



線香づくり



香水づくり



淡路瓦づくり



絵付け



そば打ち



乗馬



そうめん体験



サイクリング



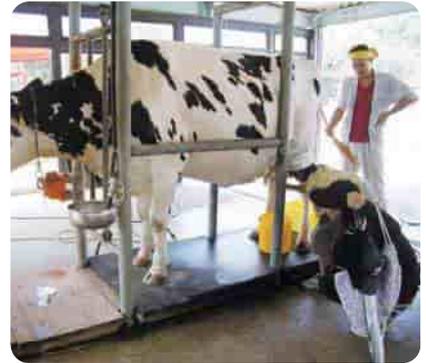
パラグライダー



海水浴



ブルーベリー狩り



乳搾り



アスレチック



イルカとのふれあい



魚釣り

⑤ 旅行プランを作ってみよう

淡路島観光大使になって、1泊2日の旅行プランを作成しよう。淡路島のすばらしさを島外の人に知ってもらおうプランを作ろう。

訪れる場所・食事・宿泊・時間のことを考え、P58～P61を参考に、楽しいプランを作りましょう。

4

歴史と神話・伝承

国生みの島と言われる淡路島には、縄文時代から現在にいたる歴史があり、たくさんの神話や伝承が残されています。その歴史や神話・伝承などをひもといていきましょう。

(1) 歴史 1 (縄文～古墳時代)

まずは、縄文時代から古墳時代の淡路島の様子です。これまでの発掘調査などから、たくさんの遺跡が見つかっています。特に、五斗長垣内遺跡は、国の史跡に指定された重要な遺跡です。

① 縄文時代の遺跡

淡路市の北部にある佃遺跡は、縄文時代の村の跡です。遺跡からは、竪穴住居跡や丸木舟の一部が発見されています。その他にもイルカやタイの骨、たくさんのドングリを保存していた穴やイノシシやシカの骨なども発見されていて、当時の人々がどのようなものを食べ、生活していたかが分かる貴重な遺跡です。



縄文時代の暮らし（想像図）

② 弥生時代の遺跡

弥生時代は、米づくりによって大きく社会が変わった時代です。洲本市の下内膳遺跡や下加茂遺跡からは、水田跡が見つかり、木製の農具なども見つかっています。南あわじ市の志知川沖田南遺跡からも、弥生時代後期の水田跡や当時の人々の足あとが百あまり発見されました。足あとの中には、父と母と五歳ぐらいの子どもの足あとと思われるものがあり、親子三人が家に帰る姿を想像させます。このころ、稲を作る人たちが風水害や害虫などからまぬがれることを願い、豊作を神に祈ってお祭りをする際に使われたと思われるのが銅鐸です。淡路島でも銅鐸や銅剣などがたくさん見つかっています。



志知川沖田南遺跡



銅鐸（松帆慶野から出土）

詳しくは、巻末資料8「松帆銅鐸は大発見だらけ!!」を見るんだニャー。





③ 弥生時代の鉄器製造集落

てつきせいぞうしゅうらく
五斗長垣内遺跡は、弥生

時代後期（1～2世紀ごろ）に鉄器づくりをしていた村のあとです。弥生時代は、「鉄器の時代」とよばれ、日本列島で鉄器が本格的に使われ始めます。しかし、国内で鉄そのものを作り出す技術はなく、鉄素材（原材料）は、中国大陸や朝鮮半島から手に入れなければならないとても貴重なものでした。そのような大切な鉄器を五斗長垣内遺跡では、長年にわたって作っていたことが分かり、その作り方も具体的に知ることができる重要な遺跡です。鍛冶作業をしていた建物は、遺跡全体に広がり、百数十年にわたって鉄器生産が行われたと考えられています。



五斗長垣内遺跡



「ふいご」で火を大きくしています



炉跡

鍛冶作業を行った建物跡の床面には、高温で焼けた炉の跡がたくさん発見されています。



板状鉄斧

朝鮮半島で作られたとみられる貴重な大型の鉄のおのです。



鉄製品

炉跡の周辺から、100点を超える鉄製品が見つかりました。多くは、鉄やじりなどです。

④ 古墳時代の遺跡

南あわじ市の伊弉沖ノ島は、海にかかわりの深い人たちの古墳が十数基見つかった小さな島です。日本書紀や万葉集には、海人族とよばれる海を舞台に活躍した人たちの記述があります。沖ノ島古墳群からは、鉄製の釣り針や土製のおもり、うき、イダコつぼなどとともに、細長い棒状の石器が数本出土しました。このことから、海人族と深いかかわりのある古墳ではないかと言われています。



伊弉沖ノ島古墳

歴史と神話・伝承

(2) 歴史2 (飛鳥～平安時代)

飛鳥時代から奈良時代にかけて、日本にも立派な都ができ、天皇を中心とした国づくりがすすめられました。また、平安時代の中頃からは、武士が力を伸ばしてきます。そのころの淡路島は、どのような様子だったのでしょうか。

① 南海道の要所、「淡路国」

現在は47都道府県ですが、奈良時代、地方は、いくつもの「国」に分けられていました。淡路島におかれた「淡路国」は、畿内(都周辺の地域)から阿波(徳島)に通じる「南海道」の中でも重要な国でした。奈良時代から交通が発達し、紀淡海峡を渡って由良～大野～神本～福良へと続く道が情報および軍事用道路として整備されました。

淡路国を治める国府(国を治める役所)は、現在の南あわじ市の市・榎列のあたりにあったと考えられています。また、仏教の力で国を治めようとした聖武天皇は、奈良に東大寺を建てるだけでなく、国ごとに国分寺を建てさせました。淡路国の国分寺は、南あわじ市の八木に建てられました。残念ながら建物は当時のものではなく、礎石(土台となる石)は、昔のものが残っています。



淡路国分寺

② 淳仁天皇陵は語る

南あわじ市賀集に「天王の森」と呼ばれる古墳のような森があります。これが「淳仁天皇陵」です。淳仁天皇は、764年(天平宝字8年)に、僧の道鏡と藤原仲麻呂(恵美押勝)らの権力争いに巻き込まれ、わずか5年で天皇の位を奪われて、母親とともに淡路島に流されました。

淡路島で自由を奪われていた淳仁天皇は、脱出を試みましたが、失敗して捕らえられ、失意のうちに亡くなりました。その後も長い間、天皇とは認められず、御陵についてもいろいろな説※1がありますが、明治になってこの場所が淳仁天皇陵と認定されました。



淳仁天皇陵

※1 いろいろな説：天皇が閉じこめられていたとされる「野辺の宮」(市十一ヶ所)や、大炊神社(志知中島)、高島陵(淡路市下河合)など、淡路には淳仁天皇にまつわる伝説地が他にもいくつか残っている

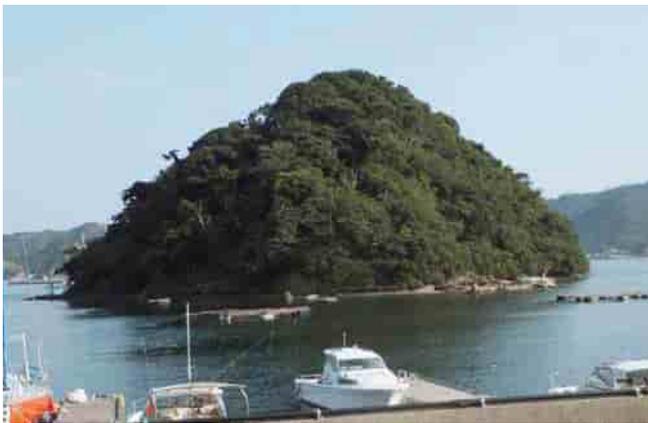
③ 源平の合戦ゆかりの地

平安時代の終わり頃、源氏と平氏の合戦は、瀬戸内海を舞台に戦われました。淡路島では、福良鶴島城（今の休暇村のあたり）の合戦が「平家物語」に登場します。加茂冠者義嗣と淡路冠者義久の兄弟が平氏に対抗して鶴島城にたてこもりましたが、やがて平教経が船で押し寄せ、落城したと伝えられています。他にも源平の合戦にまつわる史跡や伝承が淡路島各地に残っています。



鶴島城跡

・煙島の平敦盛の首塚



煙島

1184年（寿永3年）一ノ谷の戦いで敗れた平氏一門は、四国の屋島へ落ち延びる途中、福良の煙島に立ち寄りしました。この時に、平経盛のもとに戦で討たれた息子、平敦盛の首が届けられました。悲しんだ経盛は、この島で敦盛の首を火葬しました。この時に、島から煙がもうもうと上ったことから、島の名前が「煙島」になったと伝えられています。

・お局塚

南あわじ市伊加利の山中に平清盛のおい平通盛の妻小宰相局の墓があります。彼女は、最愛の夫、通盛が一ノ谷の戦いで討ち死にした時に、悲しみのあまり19歳の若さで鳴門の海に身を投げました。その亡きがらが流れ着いた土地（南あわじ市阿那賀）の人々は、その運命を哀れみ、源氏に見つからないように、海から少し離れたこの地に彼女の亡きがらを吊ったと言われています。



お局塚

(3) 歴史3 (鎌倉～江戸時代)

源平の合戦を経て、天皇や貴族を中心とした時代から、武士が日本の政治を行う時代へ大きく変わっていきます。平氏をほろぼした源頼朝は、鎌倉幕府を開きました。

① 頼朝死す…鎌倉幕府は、大激震！～梶原景時のお墓が沼島に～

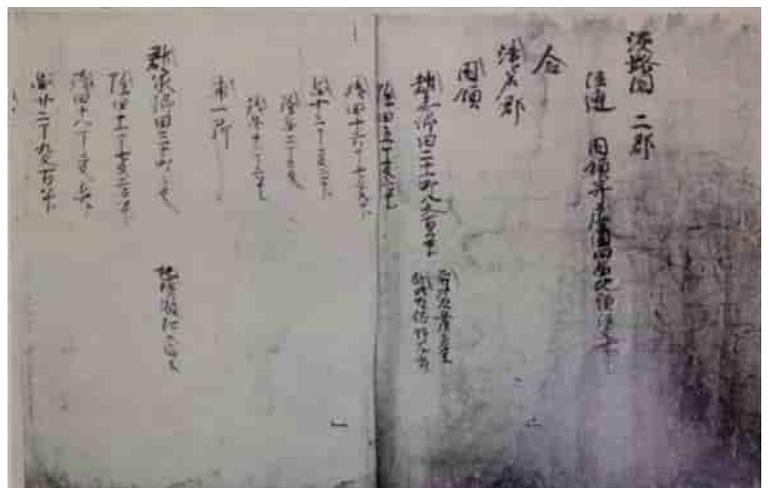
鎌倉で武士の政治を始めた源頼朝は、満51歳の若さで亡くなります。この頼朝の死によって、大きく運命が変わったのが頼朝の側近の梶原景時です。頼朝の妻・政子の実家である北条氏をはじめ有力な御家人たちは、梶原氏を鎌倉から追放します。景時は、京都に上る途上、静岡市内において襲撃され、討ちとられてしまいます。逃げのびた一族は、源平の合戦以来、配下にあった沼島水軍の本拠地・沼島に居を構え、景時の霊をまつりました。



梶原五輪塔（南あわじ市沼島）

② 執権・北条氏を討て！～承久の乱と淡路島～

源氏が3代で滅んだあと、京都の朝廷は、幕府をたおして、政権を取りもどそうと挙兵しました。淡路島の守護と武士たちの多くは、朝廷側に味方しました。しかし、北条氏率いる幕府の大軍の前に、あっけなく敗北し、淡路の武士たちの多くは、領地を没収され、追放されます。その後、関東から新たに守護や地頭※1が任命され、淡



淡路国大田文

路島に入ってきます。この時、淡路島の田畑の面積や地頭の名前等を調査した帳簿が作られ、幕府に提出されます。これを「淡路国大田文」といい、淡路島のすべての村や田畑の様子が記されています。鎌倉時代の「大田文」で、完全な形で現存しているのは、この「淡路国大田文」だけで、全国的にも貴重な資料となっています。

※1 守護や地頭：鎌倉幕府によっておかれた役職で、「守護」は、国ごとに、「地頭」は、村ごとにおかれました幕府の家来である「御家人」が任命されました

③ これが武士の館だ！～養宜館～ 南北朝の内乱と淡路島

1333年（元弘3年）、鎌倉幕府が滅び、南北朝の争いが始まります。淡路島の武士の多くは、後醍醐天皇を中心とする南朝側に味方します。一方、足利尊氏は、有力な武将である細川氏を淡路島へ攻め込ませます。細川氏は、南朝側についての淡路島の武士たちを次々と撃破して、守護大名に成長していきます。細川氏は、南あわじ市八木の「養宜館」を本拠に淡路全島を支配します。養宜館跡には、今も土塁が残され、当時の武士の館をしのぶことができます。



養宜館の碑（南あわじ市八木）

④ 淡路島の戦国時代

当時は、有力武士が各地に城を構え、中でも、和歌山県出身の安宅氏は、室町幕府の2代将軍足利義詮の命により、沼島の水軍を押さえるために淡路島に攻め入りました。

安宅氏は、次第に勢力を拡大させ、戦国時代には、淡路水軍を率い、淡路島各地に城を構えるようになります。



安宅氏の主な城は、「安宅八家衆」の城と呼ばれています。「炬口城」（洲本市炬口）や「白楽城」（洲本市五色町鮎原）は、土塁や堀割など当時の遺構がそのまま残る、貴重な山城です。

⑤ 信長の天下統一への道

天下統一に「王手」をかけた織田信長は、中国地方の王者・毛利氏との決戦に備えて、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）を大将に進撃を開始します。秀吉は、瀬戸内海の制海権を持つ毛利水軍を押さえるため、淡路島への攻撃を始めます。1581年（天正9年）、秀吉は、安宅氏や沼島の梶原氏など敵対する淡路島の武士をすべて攻め滅ぼしました。ところが信長は、「本能寺の変」*1で、亡くなってしまいます。

秀吉軍の火攻めに完敗

白楽城の竹の皮合戦（上の地図参照）

秀吉軍が攻めてきた時に城主の安宅冬秀は、城の登り口に竹の皮をしきつめ、攻めにくくしました。それに対し秀吉軍は、火攻めにする作戦をたてました。火は竹の皮をつたって山すそから燃え上がり、城一面が焼き尽くされてしまい、落城しました。

この時代に、黒田官兵衛が志知城（南あわじ市志知）へやってきたという説もあるそうだニャー。



*1 「本能寺の変」：信長が、家臣の明智光秀に攻められ、京都の本能寺で自害したとされる事件

⑥ 秀吉の天下統一と朝鮮出兵 ～「高麗陣討死衆の碑」～

秀吉は、毛利氏と講和して明智光秀を破り、信長の後継者となって天下統一を果たします。天下を統一した秀吉は、次に大軍を朝鮮へ攻め込ませました。淡路からも秀吉の家臣たちが水軍を率いて従軍しました。漁村からは、多くの若者が水手^{かこ}※1として動員されていきました。しかし、秀吉の水軍は、李舜臣^{りしゆんしん}※2率いる朝鮮水軍に完敗し、多数の戦死者が出ました。南あわじ市松帆江尻の江善寺^{せんじ}にある「高麗陣討死衆の碑」は、このあたりから動員され、戦死した水手30名の霊をなぐさめる供養塔^{くようとう}で、県の重要文化財となっています。



高麗陣討死衆の碑

⑦ 洲本城の歴史散歩 洲本・三熊山（標高135m）



洲本城（上の城）

三熊山に城を築いたのは、淡路水軍として活躍した安宅氏^{あたぎし}です。大阪湾をのぞむ洲本城は、由良城・炬口城^{ゆらじょう たけのくちじょう}とならんで、淡路水軍の根拠地になりました。ところが1581年（天正9年）、秀吉の淡路攻撃によって、安宅氏は、滅亡します。その後、天下統一をめざす秀吉は、淡路全島を支配し、洲本城に仙石秀久^{せんごくひでひさ}を配置しました。

1585年（天正13年）、秀吉は、四国を平定すると仙石秀久を讃岐（香川県）の高松に移し、脇坂安治を洲本城に入れます。新しく城主となった脇坂安治は、洲本城を大規模な城郭に築きかえました。今に残る洲本城の豪壮な遺構^{ごうそう いこう}は、この時に築かれました。その後、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、江戸幕府を開き、天下の実権をにぎります。家康は、1609年（慶長14年）、脇坂安治を伊予（愛媛県）の大洲城^{おおすじょう}に移し、その翌年、淡路一国を姫路城主の池田輝政^{いけだてるまさ}の三男、忠雄^{ただかつ}に与えました。忠雄は、洲本城を使わず、由良の成山^{なるやま}に城を設けて、本拠^{ほんきよ}としました。

※1 水手：船を操る人^{あやつ}

※2 李舜臣：朝鮮の将軍。朝鮮水軍を率い、秀吉の水軍に大きな打撃を与えた

⑧ 徳島藩の支配下に ～由良引け～

1615年(元和元年)、「大坂の陣」^{こう}※1の功により、徳島城主・蜂須賀氏は、淡路6万石を加俸^{かほう}され、淡路島は、徳島藩の支配下に入ります。蜂須賀氏は、淡路支配の本拠^{ほんきよ}として、由良城を重視し、筆頭家老^{いのだ}の稲田氏を由良城代に入れましたが、1631年(寛永8年)、幕府の許可を得て、洲本へ移転します。由良城のもつ軍事的な役割が減少し、淡路の統治という政治



洲本城跡(下の城)

的な面が強くなってきたためと考えられます。由良から洲本へは、武家屋敷や町家・寺院など町ぐるみの引っ越しで、前後5年近い歳月を要し、「由良引け」とよばれました。

⑨ 淡路でもおこった百姓一揆 ～縄騒動～

淡路では、年貢^{ねんぐ}とは別の、とてもきびしい供出^{てんめい}にたえかねた洲本周辺の3か村の百姓が1782年(天明2年)5月3日の夜、大庄屋^{おおしょうや}へ押しかけ、5月13日の夜には、広田周辺の6か村の百姓が、5月19日の夜には9か村の百姓が大庄屋へ押しかける騒ぎとなりました。この動きに驚いた藩側は、責任者である洲本の役人を罰し、縄の供出をやめさせる一方で、一揆の中心人物を探し、広田宮村^{みやむら}の才蔵^{さいぞう}と山添村^{やまぞえむら}の清左衛門^{せいざ えもん}を捕らえて処刑しました。村人たちは、この二人の石碑や石地蔵^{いせい}を建て、その霊を慰め^{なぐさ}ました。明治以後、二人は、「天明の志士」とあおがれ、記念碑が建てられました。



天明志士記念碑
大宮寺(南あわじ市広田)

⑩ ペリー来航で大さわぎ ～松帆台場(砲台)～

ペリー来航を機に幕府は、開国し、貿易を強いられます。激動^{げきどう}の幕末^{ばくまつ}の始まりです。幕府や諸藩は、外国艦船^{かんせん}に対する海防^{かいぼう}の強化に迫られます。幕府は、江戸品川^{しながわ}に「お台場」を築造^{ちくぞう}します。徳島藩では、淡路の由良・洲本・岩屋に「台場」を築造し、武士だけではなく、島内の百姓の若者を訓練して警備につかせました。

※1 大坂の陣：江戸幕府が豊臣氏を滅ぼした戦い。大坂冬の陣と夏の陣からなる

(4) 歴史4 (明治～昭和初期)

江戸時代、淡路島は、徳島藩の支配下であり、筆頭家老の稲田氏が派遣され、代々城代家老を務めました。淡路島が明治維新を経て、どのように兵庫県に編入されるようになったかを、見てみましょう。

① 庚午事変について

・原因

江戸時代の終わりに徳島本藩は、公武合体派^{※1}から倒幕に転じていきます。一方、徳島藩洲本城代家老稲田氏は、初めから尊王派であり倒幕をかかげて戊辰戦争^{※2}では有栖川宮総督の東征軍に参加しました。その後、明治維新後の身分制度や禄制改革^{※3}により徳島本藩の家臣は、士族^{※4}とされましたが、稲田氏の家臣が陪臣(家来の家来)であるため卒族^{※4}とされたことに稲田氏の家臣は納得できず、自分たちの士族編入を徳島本藩に訴えました。

しかし、叶わなかったため、今度は、洲本を中心に淡路島を徳島本藩から独立させ、稲田氏を藩主とする稲田藩(洲本藩)を設立することを目指すようになり、明治新政府にも独立を働きかけていくようになりました。

・結果

1870年(明治3年)5月13日、稲田側の行動に怒った徳島本藩の一部過激派藩士らが、洲本城下の稲田邸や下屋敷の益習館(稲田氏の学問所)とその家臣らの屋敷を襲撃しました。これに対し、稲田側は一切無抵抗でいたため、多くの死傷者が出ました。監禁された者も300人余り、焼き払われた屋敷が25棟ありました。この事件は、庚午の年^{※5}におこったので庚午事変と呼ばれています。



庚午事変で亡くなった人々の碑

※1 公武合体：幕府と朝廷の結びつきを強くした

※2 戊辰戦争：江戸幕府を終了し、幕府から天皇中心へと決定する戦いで、鳥羽伏見の戦いから始まり、箱館(函館)戦争(五稜郭の戦い)までの一連の戦いを言います

※3 禄制改革：明治政府になって、仕官している者に対し、その生活の資として給与された金銭・物資の量が変わった

※4 士族と卒族：明治維新後、新政府が与えた身分で、士族の方が卒族より上の身分である

※5 庚午の年：干支の組合せで年をあらわしました

・影響

事変後、徳島本藩側に対する新政府の処罰は厳しく、首謀者10名を斬罪ざんざいとしましたが、藩主のはからいで切腹に改められました。そのほか流刑27名など処罰者は100名を超えました。藩知事や参事らも謹慎処分を受け、藩自体の取りつぶしは、なかったものの、淡路島の北部は、1871年（明治4年）5月に兵庫県に編入されたのです。



お登勢の像

一方、稲田側は、当主邦植くにたね以下家臣全員が北海道開拓のため静内郡しずないへ移住を命ぜられました。この静内移住開拓については、船山馨ふなやまおるの小説「お登勢とせ」に生き生きと描かれています。

② 徳島藩みょうどうけんから名東県を経て兵庫県へ

1870年（明治3年）の庚午事変、1871年（明治4年）の廃藩置県はいはんちけん※1と過ぎて、5月に三原郡は徳島県になりました。そして、1871年（明治4年）の11月に徳島県が廃止され、

国・郡		～1871年	1871年 5月～ (廃藩置県)	1871年 11月～	1876年 ～現在
淡路国	津名郡	徳島藩	兵庫県 (津名郡43村浦)	名東県	兵庫県
	三原郡		徳島県		

兵庫県から淡路国津名郡を編入し、名東県ができました。1876年（明治9年）に、淡路島が兵庫県に合併されて、名東県は、なくなりました。



③ 小学校の歴史（どのように学校ができたか）

・洲本学問所から日進小学校へ

淡路島の中で、小学校は、どのようにできたのでしょうか。淡路島で一番古い小学校を見てみましょう。1798年（寛政10年）、徳島藩主蜂須賀治昭はちすかはるあきが洲本の藩士や子弟の教育のために作ったのが洲本学問所です。洲本学問所は、1873年（明治6年）5月に第12大区（行政区画の一つ）一番小学校として開校し、6月には、日進小学校となりました。さらに、1913年（大正2年）に洲本第二尋常小学校となり、1920年（大正9年）、洲本第二高等尋常小学校となりました。この小学校が、今の洲本市立洲本第二小学校です。

みなさんの小学校もどのようにできたかを調べてみましょう。

※1 廃藩置県：藩を廃止して、新たに県を置くこと

(5) 歴史5 (太平洋戦争とその後の淡路島)

日清・日露戦争、第一次世界大戦をへて、日本は、欧米列強の仲間入りを果たします。世界的な不景気の中、日本は、中国への侵出政策を進め、アメリカ・イギリスとの対立が深刻化していきます。そして、ついに太平洋戦争に突入します。

① 大阪湾・京阪神を守る由良要塞

明治政府は、日清戦争を機に和歌山県加太から由良にかけて要塞(砲台)を建設しました。京阪神を防衛する大きな使命をにない、陸軍要塞としては、東京湾要塞に次ぐ重要な地点と位置づけられました。由良には、要塞司令部が置かれ、生石山砲台をはじめ、関連施設が建設されました。

昭和に入り、戦場の主役は、戦艦から航空機となり、要塞の役割は、次第に薄れていきます。日本の敗戦後、アメリカ軍の命令により、由良要塞の施設は爆破されましたが、砲台跡は今も見ることができます。

由良の町には、陸軍が使用した軍道跡や軍橋も残り、今も人々の生活に役立っています。



射撃練習

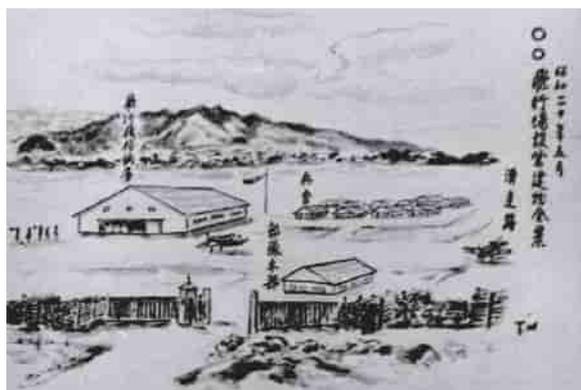


由良要塞跡

② 淡路島にも陸軍の飛行場が！～「〇〇飛行場」～(南あわじ市榎列・松帆)

太平洋戦争の形勢がきびしくなる中、陸軍は、南あわじ市旧榎列村と旧松帆村にまたがる農地を収容して戦闘機の基地を建設することを決定します。連日1,000名をこえる兵士や地元の人々が滑走路や格納庫の建設に動員されました。しかし、この頃には、すでに日本本土は、アメリカ軍に制空権をうばわれていました。

1945年(昭和20年)3月には、「B29爆撃機」による東京大空襲があり、横浜・名古屋・大阪・神戸…と日本の都市は、空襲されていきました。「〇〇飛行場」は、全く役に立たず、逆に飛行場があることで、アメリカ軍の攻撃目標にもなっていました。戦後、「〇〇飛行場」は、地元の人々の力で、滑走路のコンクリートを掘り起こし、もとの田にかえっていきました。



当時、飛行場建設は、極秘とされ「〇〇飛行場」とよばれました。

③ 戦争の悲劇は繰り返さない！～宝塚海軍予科練習生慰霊碑～

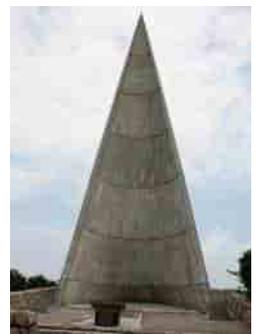
1945年（昭和20年）8月2日、宝塚海軍航空隊予科練習生※1の百余名が鳴門の撫養港から阿那賀港に向かっ、鳴門海峡を航行していた時に、戦闘機の襲撃をうけ、82名が戦死しました。犠牲になったのは、北海道から鹿児島県出身の予科練習生たちで、14歳から19歳の少年たちでした。地元の人々は、少年兵たちのいたましい姿が目に焼き付いて忘れることができませんでした。人々は、遺体を埋葬し墓標をたてました。1965年（昭和40年）、有志の協力によって、公園墓地が作られ、「桜ヶ丘」と名付けられました。



宝塚海軍予科練習生慰霊碑

④ 戦没者への慰霊 ～若人の広場公園～（南あわじ市阿万大見山）

「若人の広場」は、鳴門海峡を臨む雄大な景観の中に、西洋の古城を思わせる石畳と石壁に囲まれた立派な施設で、1967年（昭和42年）に完成しました。施設内には、学徒出陣や特攻隊、戦時下の国民生活の様子を示す貴重な資料が展示されていました。阪神・淡路大震災で被災し、閉館していましたが、2015年（平成27年）に公園として再び開園しました。



「若人の広場公園」記念塔

⑤ 戦後の移り変わり

戦後、淡路島は、「花とミルクとオレンジの島」をキャッチフレーズに、着実に発展してきました。

主なできごとをあげてみます。

- 1961年（昭和36年）町村合併が完了し、新たに「1市10町」が誕生。
- 1985年（昭和60年）「大鳴門橋」が開通し、「くにうみの祭典」を開催する。
- 1995年（平成7年）野島断層を震源地に「阪神・淡路大震災」がおこる。
- 1998年（平成10年）「明石海峡大橋」が開通し、本州とつながる。
- 2000年（平成12年）ジャパンプローラ（淡路花博）を開催する。
- 2005年（平成17年）～2006年（平成18年）

「南あわじ市」「淡路市」「洲本市」の3市が誕生する。

そして、今、「あわじ環境未来島構想」の実現に向けて、新たな島づくりに取り組んでいます。

※1 予科練習生：海軍の飛行機に乗るための訓練生

※2 「戦没学徒記念館」：管理棟として再整備され、学徒遺品のパネル展示スペースなどがある



(6) 国生み神話

「古事記」、「日本書紀」の冒頭に登場する国生み神話の舞台。それは、淡路島です。

① 日本のはじめと淡路島



むかしむかし、そのまたむかし、日本の形が、まだできていないときに、高天原には、天御中主神を中心に多くの神様がいらつしやいました。
高天原の神様たちは、伊弉諾神と伊弉冉神の二柱の神様に、「下の方が、どろどろしているので、住みやすいように固めてきてほしい。」と言いました。そして、「天の沼矛」を授けました。



さつそく、伊弉諾神と伊弉冉神の二柱の神様は、天の浮橋に立ちました。
「この天の沼矛で、下の方をかき混ぜてみよう。」と伊弉諾神が言いました。
そして、天の沼矛で、コオロコオロとかき混ぜ、引き上げたところ、矛の先から、ポトツ、ポトツ、ポトツと、したたり落ちたしずくが固まり、島になりました。
この島を、「おのころ島」と名付けました。



ある日、伊弉諾神が「私たちが結婚をして、たくさんの島を生もうと思っただが。」と言いました。

しばらくして、立派な島が生まれました。伊弉諾神と伊弉冉神が、夫婦になって、日本で最初に生まれた「淡道之穂之狭別嶋」、それが「淡路島」です。稲穂のよく育つ、豊かな島になりました。



多くの島と、神様を生むという、国生みの大きな仕事が終わりましたので、伊弉諾神は、最初につくった立派な島「淡路島」の多賀の地で、お休みになることにしました。これが、日本の国のはじまりのお話です。

② 海人族の伝えた物語「島生み神話」



淡路島は、昔から豊かな自然にめぐまれ、海人族は、海の幸や山の幸、湧き水を朝廷に献上していました。その海人族の重要な仕事に「塩づくり」がありました。

土器に海水を入れて煮詰めるのですが、海水を煮詰めていくと沸騰してふきこぼれそうになります。沸騰した海水の中に棒（沼矛）※1を差し入れるとふきこぼれがおさまリ、少しずつ塩の固まりができていきます。この塩のできていく様子が「おのころ島神話」に取り入れられたと考えられています。



古墳時代 土器による塩づくり

③ 『おのころ島』はどこでしょう

日本最古の書物「古事記」※2や「日本書紀」※3に伝わる「国生み神話」では、淡路島は、日本で一番最初に生まれた島とされています。そして、二神（伊弉諾尊・伊弉冉尊）が最初に下り立った『おのころ島』は、淡路島だという伝説が各地に伝わっています。

・岩屋の絵島（淡路市岩屋）



絵島は、国生み神話に伝わる「おのころ島」だとされる場所の一つです。絵島のすぐ南、恵比須神社社殿奥の洞窟の岩楠神社には、伊弉諾・伊弉冉、そしてこの二神より生まれた蛭子を祀っています。

・おのころ島神社（南あわじ市榎列）



南あわじ市榎列には、赤い大鳥居が目を引くおのころ島神社があります。近くには、国生み神話に関連する葦原国や天の浮橋、せきれい石、塩砂などがあります。



おのころ島神社の赤い大鳥居

・勾玉の形をした沼島（南あわじ市沼島）



上立神岩は、「矛先」のような形をした沼島のシンボルの岩です。高さ30mで国生み神話の「天の御柱」ともいわれています。この島に伊弉諾と伊弉冉が降り立ち、結婚したと伝えられています。

※1 沼 矛：矛は槍のような武器。沼は玉という意味があり、玉でかざられた立派な矛

※2 古 事 記：712年に成立した現存する日本最古の歴史書。日本の神話・天皇の話が書かれている

※3 日本書紀：720年に成立したわが国最初の編年体の歴史書・最古の正史。舎人親王らが完成



④ 伊弉諾神宮 (淡路市多賀)

淡路の一宮として古くから信仰されている「伊弉諾神宮」(淡路市多賀)には、伊弉諾大神と伊弉冉大神の2柱の神様が祀られています。

「伊弉諾神宮」は、古事記・日本書紀に記載される全国最古の神社です。

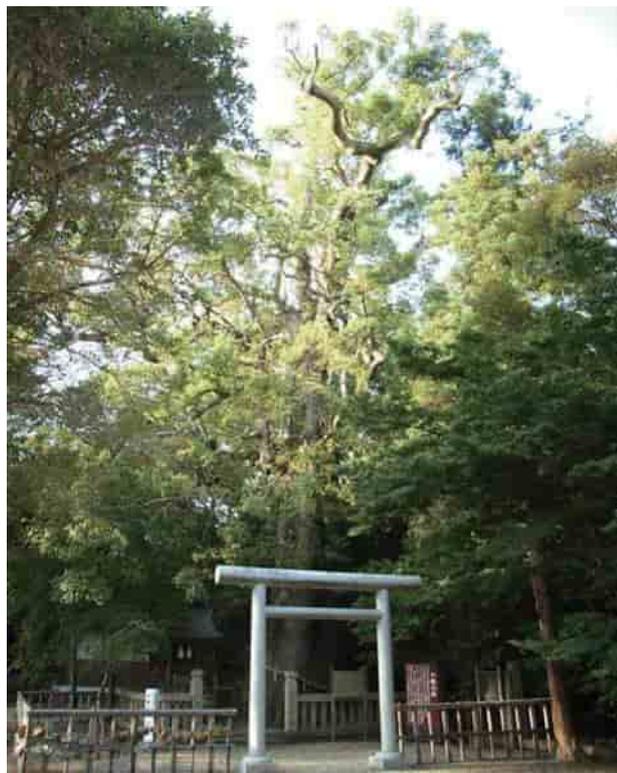
1954年(昭和29年)には、「神宮」に昇格しました。

古事記、日本書紀には、国生みに始まるすべての神功※1

を果たされた伊弉諾大神が、国家統一を天照皇大神に託し、最初にお生みになられた淡路島の多賀の地に、幽宮※2を建て、余生を過ごされたと記されています。



伊弉諾神宮



夫婦大楠

境内には、夫婦大楠があります。二株の木が成長するにつれて合体し、一株に育った奇樹で、伊弉諾・伊弉冉の二神が宿る御神木※3として、信仰されています。夫婦円満、安産子授、縁結びなどの御利益があると信仰されています。



夫婦大楠の樹齡	約900年
根廻り	約13m
樹高	約30m

(兵庫県指定天然記念物)

※1 神功：神としての立派な仕事

※2 幽宮：イザナギノミコトが最後に住まわれた宮。隠居したところ

※3 御神木：樹齢数百年以上の巨木で、神のようにあがめられている木

(7) 淡路島の民話と昔話

淡路島には、いろいろな地域で昔から語り継がれてきた民話や昔話がたくさんあります。わたしたちが生活している地域の民話や昔話を読んでみましょう。

① しばえもん（洲本市の昔話）

むかし むかし すもとの みくまやまに「しばえもん」という たぬきが すんでいました。つきよの ばんになると およめさんの「おます」と いっしょに ポンポコポン、ポンポコポンと はらつづみを うっていました。「ああ、また しばえもんが はらつづみをうっているでえ！」
「あしたは、なんか ええことが ありそうやなあ」と、いつも まちの ひとびとは はなしていました。

Long, long ago, there lived a raccoon-dog named "Shibaemon" on Mt. Mikuma in the town of Sumoto. On beautiful moonlit nights, he and his wife, Omasu, drummed their tummies together. "Pon-poco-pon, pon-poco-pon"
The people in the town were talking,
"Oh, the Shibaemons are drumming again!"
"Perhaps something good will happen tomorrow."

あるひ、しばえもんたちは、「おおさかでは ごつついええしばいを しとるそうや」「にほんいち おもしろいでえ」という うわさを ききました。しばいが だいすきな ふたりは みたくてみたくて たまりません。そこで、おさむらいさんと そのにようぼうに ドロンとばけて おおさかいきの ふねに のりこみました。

ふたりは おおさかについて、すっかり いいきぶんになりました。「そうや、おとのさんに ばけたるか」と、しばえもんは くらやしきの かどを まがりました。やがて、とのさまぎょうれつが やってきました。おますは、しばえもんが ばけたのだとおもい、おもわずとびだして「じょうず、じょうず」とほめたてました。
「ふれいものめ！！」ほんとうの おとのさまでした。
「おます にげろ！」ふたりは いそいで にげました。

—ああ こわかった、でも たぬきだと ばれなくて よかった—
「さあ しばいけんぶつに いこう」
おおさかの しばいごやは たいへんな ひとで にぎわっていました。ふたりは、このはで おかねをつくって しばいを みにいきました。
「ああ おもしろかった またあしたも いこな」しばいごやのひとは きどせんの なかに、まいにち このはが まざっているのに きがつかしました。



「なんともふしぎなことや」

「もしかしたら たぬきが ばけて みにきてるのかも しれへん」

つぎのひ しばいをみおえた ふたりが しばいごやの でぐちまで きたとき おおきな
いぬに きづきました。

「ウー わん わん」

「わぁ ばれてしもた」

しばえもんは びっくりした ひょうしに おおきなしっぽを ぼろんと だしてしまいま
した。

「やあ たぬきだ」 「たぬきが ばけて しばいを みよった」

「にがすな にがすな」 「わん わん」

「ごめん ごめん」 「もう だましたり しないよ」

「あわじに かえるから ごめんなさーい」



すもとのまちに しばえもんたちの はらつづみが きこえます。

「はらつづみ ひさしぶりやな」 「どこかに いったんかな」

「どうやら おおさかに しばいを みにいってたらしいで」

「よっぽど たのしかってんな」 「ええおとや」

「このおとを きくと みんなしあわせになるなあ」

のちに すもとのひとは、だいすきな しばえもんの ほこらを たてて おまつりしました。

つきよのばんには ほら、しばえもんの はらつづみが きこえますよ。

"I hear they've been to Osaka to go to a play."

"I'm sure they had a great time there."

"Oh! What a wonderful drumming sound!!"

"That sound makes everyone happy, doesn't it?"

Later the people in Sumoto dedicated a small shrine for their favorite
raccoon-dogs, the Shibaemons.

Listen! On moonlit nights you may hear the shibaemons drumming their tummies!

出典：「しばえもん」(淡国書房) 作・野口早苗/ 英訳・若竹富士子

淡路島に伝わる民話 (1)

- ・ おおいのしし 大猪と狩人忠太(先山)
- ・ しらすじょう 白巢城竹の皮合戦(鮎原)
- ・ 天が恵んでくれたお金(志筑)
- ・ おあひのし 安乎の海坊主(安乎)
- ・ 三熊山の柴右衛門(洲本)
- ・ だいもくいし 題目石「夜泣き石」(多賀)

② 回り弁財天（淡路市の民話）

佐野の川原之里(今の北浜)に、城喜代じょうきよという目の見えない法師(坊さん)が住んでいました。ある日、城喜代が、好きなピワをひいていますと、高野山にいる叔父おじさんの旭昌きよくしやうの使いの者がやって来ました。「旭昌さんがぜひ、高野山へ来てほしいと申しております。」「そうですか。まいりましょう。」城喜代は、急いで、旅の用意をととのえると、使いの者に、ともなわられて高野山へ……高野山へ登った城喜代は、なつかしい叔父さんの手をにぎりながら、涙をながしました。「城喜代！よくきた。よくきた。大変じゃったろう。」「お久しぶりでございます。」「まあ、ゆっくりしていきなさい。」「はい、ありがとうございます。」

叔父の旭昌は、昔、佐野の浄福寺の住職から身をおこして、修行をつみ、高野山に登って、有名になった名僧で、清巖寺せいがんじ（今の金剛峰寺こんごうぶじ）というお寺にありました。旭昌が名僧といわれるのは、さとりをひらいた、すばらしい坊さんだったからです。城喜代は、高野山で、毎日毎日、旭昌に教えられ、自分でも、いっしょうけんめい信仰の道はげに励みしました。

ある夜の事です。城喜代が、石に腰をおろして、信仰のことを考えながら、ピワをかきならしておりました。すると、むこうに、きらりと光るものを感じられます。「あれ？なんだろう」その光は、だんだん近づいてくるようです。城喜代は、ピワをかきならずのも忘れて、ぼうぜんとなってしまうました。「あ！女の人だ。」目もくらむような光の中で、美しい女の人が、目の前に立っていました。そして、その女の人が口を開いたのです。

「そなたが、淡路から来たという城喜代か。わたしは、そなたのむくな（純粋な）心にとれた。そなたとともに、淡路へ行くことにしよう……」

そういって、その女の方は、消えてしまいました。夢だったのです。目の見えない城喜代に、女の方の姿がみえようはずがありません。しかし、城喜代は、なにか、今までになかったすばらしい力が心の底からみなぎってくるような感じをうけました。

翌日、叔父の旭昌に呼ばれて、「おまえは、よく修行に励んだ。感心じゃ。そろそろ淡路へ帰るがよい。」「ありがとうございます。」「ところで、山を下りるにあたって、わたしが一番大切にしている弁財天の軸をつかわそう。これは、本朝（日本のこと）の三秘品の一つじゃ。わしの遺品いひんと思って大切にしてくれ。」

城喜代は、弁財天の軸をわたされたとき、「あっ！」と驚いてしまいました。昨夜、夢に出てきた美しい女の人とそっくりだったのです。

城喜代は、叔父さんに別れをつげ、涙をながしながら、高野山を下り、淡路へ帰ってきました。そして弁財天の軸を床の間にかけて、毎日、祈りつづけました。

ところが、一と月たった頃、一族の者が疫病えきびょうになって死にそうになったので、占ってもらいますと、卜者ぼくしゃ（占いをする人）が言うには、

「弁財天のありがたい軸を俗家（一般の家）に置いておくからだ。すぐ宮を建て、そこでまつれば、病は治る。」と。

そこで、城喜代は、里の人たちに相談して、五熊いつくまという地に宮を建て、弁財天の軸をおまつりしました。そして、城喜代が中心になり、里の人たちが集まって、お祭をしました。

城喜代が死んでから、お祭りはたえてしまったが、脇坂安治わきざかやすはるという殿様がこの話を聞き、妙音講みょうおんこうとして、各村々をまわってこの祭をつづけさせました。これが、今もつづいている淡路の「回り弁財天」のおこりです。

出典：郷土の民話（淡路編）兵庫県学校厚生会

③ 敦盛の首塚（南あわじ市の民話）

南淡町福良湾口近くに滋賀県の琵琶湖の竹島を思わせる姿のよい島があります。その島の周囲は四百メートル、島中が岩でできていますが、樹木がうっそうとおいしげり、あたかも原始林を思わせるようです。この島は竹島、別の名を煙島と呼ばれています。

この島は陸地から二百メートルほどはなれていて、東面に鳥居があり、急な石段を百数段登ると、二十アールほどの平地があって、正面に市杵島神社いちきしまがあります。周囲はたくさんの木が茂り、深山にいるような気がいたします。

この本殿の左手の林の中に北に面した石のかかるたがあります。これが、無官むかんの大夫平敦盛たゆう たいらのあつもりの首塚であります。

さて、話かわって、寿永三年二月、平家の一門が、一の谷（神戸市須磨）で、源氏の大將源範頼みなもとりのりより よしつね、義経の率いる源氏と戦って敗れ、平家の一門は船で海上に逃げました。逃げる平氏を追って、源氏の荒武者熊谷二郎直実くまがいじろうなゑさねが海岸までくると、ちょうど逃げおくれた平氏の大將らしい騎馬武者が味方の船においつこうと海に馬を乗り入れていました。

直実は、「やあやあ、そこ行くは平氏のおん大將とみうけたり。敵にうしろをみせるはひきょうなり。返せ返せ。」と、右手に高く鉄扇をかかげて、大声に呼ばわりました。すると、その武者、馬首をめぐらせてもどってきます。

浜辺に上がると、太刀で二、三、合い切り結びましたが、面倒なりと直実が組みついて馬から落とし、組みしいて、短刀を抜き、首にあてようとして、よく顔を見ると、十六、七才の美しい少年です。直実は、こんな少年の首をうったとて手柄にならん。こんなことなら呼びもどすではなかったと後悔してたすけてやろうと思って手をゆるめかけているところへ、源氏の騎馬武者が、パカパカとやってきて、「やあやあ、直実、おくしたか。」と、よばれました。

しかたなく直実は、心を鬼にして、この若者の首をおとしました。

この若者が、平敦盛で、よろいの箆えびらに青葉の笛をさしていました。

昨夜、平氏の陣中から聞えてきた笛の音は、この若者がふいたのかと思えば、手柄どころか、ただ悲しさ一ぱい……。

そこで、この首を父の平経盛たいらのつねもりのもとに送りとどけました。

さて、一の谷の沖からおちた平家一門は、安徳天皇を奉じて四国の屋島へいく途中、約一週間、この福良に舟をただよわせ、味方の舟がちりぢりになったので、それを待ち合わせました。その時、おさない天子を長く海上にただよわせたてまつるのはもったいないと考え、しばらくの間でもと、この福良湾中に舟をつなぎ、天子を竹島にお上げ申しました。お休みになられた所は、島の北方に南面してもうけられました。その時、敦盛の首がここにほうむられたとか。

出典：郷土の民話（淡路編）兵庫県学校厚生会

淡路島に伝わる民話（2）

- ・伊勢森のはしご獅子じし（中田）
- ・下司くだしの馬子唄まごうた（塩田）
- ・六角井戸だいじゃと大蛇しとおり（倭文・松帆）
- ・お局塚つぼづか（伊加利）
- ・灰縄はいなわと一揆（広田）

(8) 地名の由来

地名というのは、生活上の必要から他の土地と区別するためにつけられています。地名のもつ意味を探り出せば、その土地のかつての自然や歴史、そこで生活した人々の足跡などを知ることができます。淡路島の地名は、どのようにつけられたかを見てみましょう。

① 淡路島の由来

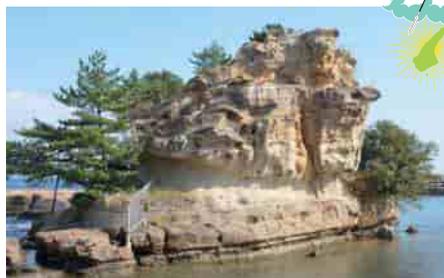
「淡路島」の由来は、阿波への路みちという説と、粟を産する地からつけられた説があります。『古事記』『日本書紀』で最初にできた国が淡路島とあり、「淡」の字は、現代で言うところの「貴」や「尊」に近い意味であり、「路」や「道」は、現代で言うところの「地」であったと考えられ、最初に国として完成することができた尊い土地という意味で「淡路（淡道）」と名づけられたという説もあります。



② 淡路市の地名

・岩屋（いわや）

淡路島の北端にあり、明石海峡に臨む淡路市岩屋は、古くから海陸交通の要所であり、豊かな歴史や文化の地です。古くは、「石屋」と記して「いわや（いはや）」と読みました。「いわや」の由来については、古墳の石室がんくつにちなむという説と、海浜がんくつに岩窟が多数あり人々がそこに住んでいたことからきたという説があります。



絵島

・郡家（ぐんげ）

郡家という地名は、古代の津名郡家に由来します。淡路の国の中に津名郡と三原郡があり、それぞれの郡の役所として、税を取り農業を進めていました。この役所が郡ぐん衙が、郡府ぐんふとか郡家と呼ばれました。

③ 洲本市の地名

・加茂（かも）

最も古い資料は、平城宮跡から出土した木簡で、「淡路国津名郡賀茂里かものさと」と書かれ、奈良時代からあったことがわかります。また、洲本市上加茂の丘陵には、『延喜式えんぎしき』^{*1}に記されている賀茂神社があります。



賀茂神社

※1 延喜式：平安時代の年中儀式や制度をまとめた本

神社の由緒書きに「欽明天皇の時代に日本全国が大暴風に襲われ、田畑が壊滅した。そのとき賀茂の神を奉齋（神仏をていねいに祀る）せよとの神託（神のお告げ）が下り、全国六十余州に一か所ずつ祭ることになった。淡路島ではここが神の地に選ばれ、淡路島の守護神として鎮座（神霊がとどまっている）した」と伝えられています。洲本市の上加茂、下加茂の地名は、賀茂神社に由来しています。

・鳥飼（とりかい）

「とりかい」という地名の起源は、古代の鳥養部からきたことが通説となっています。鳥養部は、645年（大化元年）の大化の改新以前に、朝廷の需要に応じるために種々の鳥類の飼育に従事した部（集団）です。五色町鳥飼では、どんな鳥を飼育していたのか不明ですが、鷹橋、鴻巣、鴻谷等の地名が残っているので鷹や鴻（大きな鳥）等を捕らえて飼いならしていたのかもしれませんが。

④ 南あわじ市の地名

・倭文（しとおり）

古代織物の一種に梶木や麻などの横糸を赤青の原色に染め、筋や格子を織り出した「倭文」や「倭文織」がありました。これらは、特殊な織物の技術をもつ者で構成された「倭文部」によって生産されました。倭文は、このような倭文部の所在地でした。



倭文織

・國衙（こくが）

朝廷が国司という役人を地方を治めるために送りました。その国司がいる役所が國衙と言われ、郡という役所が集めた税を取りまとめ、淡路国全体を統括していました。平安時代以降、国司自身が領有する土地が國衙領とか単に國衙、または国領とも呼ばれるようになりました。神代國衙の地は、国領であったので、國衙領からきていると思われます。鎌倉時代になると、幕府が派遣した地頭と領家（領主）が争うようになりました。そこで領家は、土地を分割して領家方と地頭方に分け、相互の支配権を確認し、以後干渉や侵略をしないことを約束する解決策をとります。これが下地中分で、神代國衙の「城家」という地名は、「領家（領主）方」の領家に変化したものであり、「地頭方」という地名は、地頭の取り分である地頭方からきたものです。



調べてみよう

自分たちが住んでいる所の地名の由来についても、調べてみよう。

5

淡路島が生んだ人物

淡路島には、すぐれた先人や現在活躍している方がたくさんいます。淡路島が生んだ人物の足跡をたどってみましょう。

(1) 文化の向上に活躍した人々

世の中の進歩、学問、芸術などの面で力をつくされた方々を紹介します。

名前（生まれた年～亡くなった年）、出身地（旧町名など）

きちざんみんちよう

吉山明兆（1352～1431）洲本市物部

室町時代の画僧^{※1}。臨濟宗の東福寺に入り、大道一以に仕えました。周囲からは、禅僧としての出世を望まれましたが画を好む明兆は、これを断り、独習で画法を学び、「五百羅漢」「聖一國師像」などを描き、多くは重要文化財に指定されています。

はっとりらんせつ

服部嵐雪（1654～1707）南あわじ市榎列（三原町）

松尾芭蕉に入門。芭蕉が信頼した蕉門十哲の一人で「うめ一輪一輪ほどのあたたかさ」が有名です。また、「なつはらひ 目の行かたや 淡路島」と詠んでいます。出生地については、江戸湯島説もあります。

うえむらぶんらくけん

植村文楽軒（1751～1810）淡路市仮屋（東浦町）

人形浄瑠璃・文楽座の創始者。30歳ごろ大阪に出て、道具屋をしながら浄瑠璃のけいこ場を創設しました。40歳代前半には、神津橋浜側に文楽座の前身にあたる芝居小屋を開き、人形浄瑠璃を活気づけ、その名を文楽に残しました。

かしゅうみんべい

賀集珉平（1796～1872）南あわじ市北阿万（南淡町）

陶工。少年時代から勉強好きで、漢学・和歌・俳句・茶道・香道・邦楽・医薬と幅広く学びました。京焼の尾形周平に影響を受け、淡路の国を豊かにしようと上品で美しい京焼風の陶器の製造に励みました。淡路焼・珉平焼と呼ばれ、藩の特産品として重宝されました。

※1 画僧：絵画制作を専門とする僧侶

すずき しげたね

鈴木重胤（1812～1863）淡路市仁井（北淡町）

国学者。日本の古い書物や歴史の本である「古事記」「日本書紀」について研究しました。本居宣長の『古事記伝』に並ぶといわれる『日本書紀伝』を執筆中に暗殺され、未完成に終わりました。

た なかしやうへい

田中正平（1862～1945）南あわじ市賀集（南淡町）

物理学者、音響学、鉄道技師。森鷗外などと共にドイツのベルリン大学に留学し、音響学と電磁気学について研究しました。世界初の『純正調オルガン』*1を発明し、当時のドイツ皇帝から「今世紀最大の発明の一つ」とたたえられました。帰国後は、技師として鉄道整備に力を注ぐだけでなく、約3000もの邦楽曲*2を五線譜に書きとりました。

いわ の ほうめい

岩野泡鳴（1873～1920）洲本市海岸通

た やま かたい しむらほうげつ

小説家・詩人。田山花袋、島村抱月に次ぐ自然主義文学者として活躍しました。詩集『夕潮』の中で「ああ 島々は多けれど われにゆかりの淡路島」と、うたっています。

い だか きざん

井高帰山（1881～1967）淡路市生穂（津名町）

陶芸家。志筑にできた津名郡立陶器学校の一回生として学び、卒業後、出石陶器試験所で出石焼の指導者となりました。イギリスのエリザベス女王の戴冠式に日本の代表として壺を送りました。

いわ き つつじ

岩木躑躅（1881～1971）淡路市生穂（津名町）

きよし

俳人。正岡子規の弟子高浜虚子の一番弟子として活躍しました。島内には5つの句碑が残っており、彼をしのいで『つつじ会』という句会が今も続いています。

おおうちひやうえ

大内兵衛（1888～1980）南あわじ市松帆（西淡町）

経済学者。大蔵省を経て東京大学で財政学*3を担当。ドイツに留学してマルクス経済学*4を研究しました。

※1 純正調オルガン：1オクターブに普通の白鍵7と黒鍵13があり、澄んだ美しい協和音が得られる

※2 邦楽：日本の伝統音楽。三味線、こと、つづみなどで演奏する

※3 財政学：国や都道府県、市町村などが仕事をするためのお金のやりくりを研究する学問

※4 マルクス経済学：マルクスとエンゲルスとによって形成された経済学

おくだ じゃくそう
奥田雀草（1899～1988）淡路市遠田（一宮町）

俳画家。津名郡の多くの小学校に勤めた後、神戸で俳誌「高原」を主宰しました。俳句を現代語表現で再生し、なじみやすいものにしました。



奥田雀草の句碑

たけもとこまのすけ いち
竹本駒之助（1935～ ）南あわじ市市（三原町）

義太夫節^{ぎだゆう}※¹ 浄瑠璃の人間国宝。幼少より義太夫節に親しみ14歳で大阪の竹本春駒に入門し、竹本駒之助の名を許されました。1999年に重要無形文化財^{※²}に認定されました。現在、日本の最高技術を持った女流義太夫語りと評価されています。

たじまゆきひこ
田島征彦（1940～ ）大阪府堺市

絵本作家。代表作は「じごくのそうべい」シリーズ、「とべバツタ」等。淡路島に移住し「せきれい丸」等、淡路島を舞台にした絵本を多数発表しています。

みなと
湊かなえ（1973～ ）尾道市因島

小説家。「告白」「望郷、海の星」「母性」の作者で、「高校入試」「夜行観覧車」「花の鎖」の作品がテレビでドラマ化されました。現在、淡路島を拠点に作家活動をしています。

きよかわ
清川あさみ（1979～ ）南あわじ市広田（緑町）

アーティスト。「刺繍写真」など手わざを生かした個性的な作品を創作し、衣装、空間デザイン、映像、広告、イラストレーションなど様々な分野で活躍。木村カエラ「リルラリルハ」、JUJU「奇跡を望むなら」、柴咲コウ「Orb-KoShibasaki10th Anniversary Premium Box-」等のCDジャケットも手掛けています。

とうどうゆたか
藤堂裕（1979～ ）洲本市由良

漫画家。洲本市由良の漁師町を題材にした『由良COLORS』や『信長を殺した男～431年目の真実～』の作者で青年誌を中心に活躍しています。代表作『S-最後の警官』はテレビドラマ化、映画化もされました。

※1 義太夫節：人形浄瑠璃の太夫が物語の進行だけでなく、登場人物の心理状態や感情も一人で語り分ける

※2 重要無形文化財：演劇・音楽・工芸技術の技を高度に持つ人を国が認め、認定された人を人間国宝という

(2) 産業・科学の分野で活躍した人々

産業や科学の分野でも、輝かしい功績を残された方が数多くいます。

くろだ とくべい 黒田徳米 (1886~1987) 南あわじ市福良 (南淡町)

博物学者。日本の貝類研究者の第一人者。日本で初めての貝類総目録を完成させました。発見した貝の新種は600種に及びます。

みしま とくしち 三島徳七 (1893~1975) 洲本市五色町広石 (五色町)

MK鋼 (強力永久磁石) の発明者。東京帝国大学 (東京大学) 卒業後も大学に残り、金属に関する研究を進めました。1931年 (昭和6年)、鉄にニッケル、アルミニウムを加えた合金は、永久磁石に適していることを発見しました。安価に製造でき、形状を変えても性質の変わらないMK鋼は、飛行機が空を飛んだり自動車が走ったりすることにも大いに役立っています。三島博士は、日本の十大発明家を選定されています。



三島徳七の碑

なかた しょういち 中田正一 (1906~1991) 淡路市野島 (北淡町)

元農林省技官、農学博士。大学を卒業した後、農林省に入り農業をよりよくする仕事に携わりました。アフガニスタンで農業技術の指導、バングラディッシュで政府の農業協力プロジェクトのチームリーダーとして活躍しました。帰国後、「風の学校」を設立し、農業を中心とした国際協力を行う人を育てることに力を注ぎました。人に対する思いやりがなければ技術を伝えることはできないと、現地の人たちと力を合わせてその土地に合った農業の開発を行いました。

まつもと まさよし 松本正義 (1944~) 洲本市

住友電気工業代表取締役、関西経済連合会会長などを歴任。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事なども務めました。2020年~25年に2025本の桜の苗を植樹する「洲本サクラプロジェクト」の顧問も務めています。

なかの しゅいち 中野圭一 (1947~) 洲本市炬口

天文計算家。天体の位置計算、特に太陽系小天体 (彗星・小惑星) の軌道計算を行いました。1986年 (昭和61年) から4年間、アメリカのすいせいスミソニアン天体物理観測所に勤務。

ほりいゆうじ
堀井雄二（1954～ ） 洲本市本町

ゲームデザイナー、作家。「ドラゴンクエストシリーズ」の生みの親。日本のテレビゲーム業界に多大なる影響を与えた人物の一人。「いただきストリートシリーズ」のゲームデザインも手掛けています。

くすみなおき
久住有生（1972～ ） 淡路市志筑（津名町）

祖父の代から続く左官職人の家に生まれ、3歳で初めてこて鑊をにぎりしました。17歳の時に行ったスペインでガウディの建築を目にして左官を目指すようになりました。18歳で親元を離れ、さまざまな親方のもとで左官を学び、23歳で独立。ドイツ、フランス、京都などで左官技術を磨き、歴史的建造物の修復の仕事にも携わたずさっています。高い技術と独創的なアイデアで、現代建築に職人の新しい風を吹き込んでいます。父、久住章氏もカリスマ左官として知られています。

（3）芸能・スポーツの分野で活躍した人々

テレビや映画などでよく見たり、聞いたりしたあの人も淡路ゆかりの人です。さあ、どんな人がいるでしょう。

【芸能分野】

やまぐちたかし
山口崇（1936～2025）南あわじ市阿那賀（西淡町）

俳優、司会者、長唄三味線奏者。時代劇「大岡越前」での徳川吉宗役や「クイズタイムショック」の司会者として活躍しました。

あくゆう
阿久悠（1937～2007）洲本市五色町鮎原（五色町）

作詞家、放送作家、小説家。作詞した曲は、5000曲以上。ジャンルは、演歌、アイドル歌謡曲、アニメソング、CMソングと幅広く、日本レコード大賞5曲、日本レコード大賞作詩賞7回、日本作詩大賞8回受賞で最多記録となっています。小説「瀬戸内少年野球団」は、直木賞候補となり、映画化もされました。

少年野球で『阿久悠杯』ってあるよね。野球を愛した阿久悠さんの「瀬戸内少年野球団」にちなんで開催されるようになったんだニャー。



わたりにつや
渡哲也（1941～2020）淡路市岩屋（淡路町）

俳優、歌手。中学校まで淡路で生活し、大学卒業後俳優の道へ。「大都会シリーズ」「西部警察シリーズ」で活躍。最近では、「35歳の高校生」に教育長役で出演。CMや劇場版アニメ「三国志」の曹操役、ゲームでは「龍が如く」の風間役等が有名です。

わたせつねひこ

渡瀬恒彦（1944～2017）淡路市岩屋（淡路町）

俳優、渡哲也の弟。「十津川警部シリーズ」「おみやさんシリーズ」「警視庁捜査一課9系シリーズ」等に出演していました。

ささのたかし

笹野高史（1948～ ）淡路市多賀（一宮町）

俳優。コミカル、シリアス、真面目、堅物とどの役柄でも独特の味わいを見せています。「釣りバカ日誌シリーズ」の運転手役、「武士の一分」「ゲゲゲの鬼太郎千年呪い歌」「テルマエ・ロマエ」「奇跡のリング」等多数の映画に出演しています。

かみぬま えみこ

上沼恵美子（1955～ ）南あわじ市福良（南淡町）

タレント、歌手、司会者。姉妹漫才「海原千里・万里」としてデビュー。テレビやラジオで活躍しています。

だいちまお

大地真央（1956～ ）洲本市本町

女優。洲浜中・宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団月組トップスターとして活躍。退団後は、主に舞台女優として活躍しています。舞台「マイ・フェア・レディ」「風と共に去りぬ」等で活躍。映画「ナルニア国物語」では、白い魔女の吹き替えをしました。

みどりこ

キムラ緑子（1961～ ）洲本市大野

女優。青雲中・洲本高校卒業。NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」に出演。映画「テルマエ・ロマエ」で山越真実（上戸彩）の母役など、ドラマ・舞台・映画で活躍しています。

みやじまお

宮地真緒（1984～ ）洲本市本町

女優。洲浜中・洲本高校卒業。NHK連続テレビ小説のヒロインに選ばれ、ミュージカル「ピーターパン」の7代目主演、映画・舞台で活躍しています。

あさひ なあや

朝比奈彩（1993～ ）洲本市

モデル。2015年三愛水着イメージガール。2015年洲本市の「ふるさとすもと応援大使」に就任。タレント・女優でも活躍しています。

【スポーツ分野】

【野 球】

かまだみのる
鎌田実（1939～2019）南あわじ市広田（緑町）

広田中・洲本高校から阪神タイガースに入団。名二塁手として活躍しました。引退後は、少年野球・大学野球の指導者として後進の育成に努めました。

かたやまひろし
片山博視（1987～ ）南あわじ市市（三原町）

楽天イーグルスの投手。三原中・報徳学園高校卒業。高校生ドラフト1巡目で指名されました。

ますだたつし
増田達至（1988～ ）洲本市由良

由良中・柳学園高校卒業、福井工業大学、NTT西日本で活躍。2012年投手としてドラフト1巡目で埼玉西武ライオンズに入団しました。

ちかもとこうじ
近本光司（1994～ ）淡路市久留麻（東浦町）

東浦中・社高等学校・関西学院大学から大阪ガスで活躍。2018年に阪神タイガースドラフト1位で入団。外野手。セ・リーグ新人最多安打記録保持者（159安打、2019年）2023年の日本選手権シリーズ優勝に貢献しました。

むらかみしょうき
村上頌樹（1998～ ）南あわじ市賀集（南淡町）

南淡中・奈良智弁学園高・東洋大で活躍。2020年に阪神タイガースドラフト5位で入団。2023年連続無失点記録（31イニング セ・リーグ最多タイ記録）を樹立。近本選手と共に、2023年の日本選手権シリーズ優勝に貢献しました。

【サッカー】

はとやすひろ
波戸康広（1976～ ）南あわじ市津井（西淡町）

辰美中学校から滝川第二高校卒業後、横浜フリューゲルスに入団。横浜Fマリノス時代には、日韓W杯の予選メンバーとして活躍しました。柏レイソル等に移籍し、2011年引退しました。

かじあきら
加地亮（1980～ ）南あわじ市湊（西淡町）

御原中学校から滝川第二高校卒業後、セレッソ大阪に入団。FIFAワールドユース選手権に出場、準優勝を遂げ2003年には、サッカー日本代表に選出されました。多くの国際試合（ドイツW杯など）で活躍後、ガンバ大阪等への所属を経て、2017年引退しました。

おだゆうたろう
小田裕太郎（2001～ ） 洲本市

洲浜中学校から神戸学院大学附属高等学校卒業後、ヴィッセル神戸に入団。2016年からU-15日本代表、U-16日本代表など各年代別の日本代表に選出されました。

..... 【相 撲】

はちじんしんぞう
八陣信蔵（1837～1899） 淡路市尾崎（一宮町）

相撲界が江戸、京都、大阪に分かれていた時代に小野川部屋に入門。京都での三都立会相撲で「東西随一の成績」を挙げ大阪相撲初代の横綱になりました。

おおなるとなだえもん
大鳴門灘右衛門（1853～1908） 淡路市塩田（津名町）

小野川部屋に入門しましたが、玉垣部屋に移り大関になりました。引退後、八角部屋をつくり、多くの力士を育てました。

なるとうみかずゆき
鳴門海一行（1926～2010） 南あわじ市北阿万（南淡町）

春日野部屋へ入門。引退後、相撲教習所の教官や慶應義塾大学の相撲部師範を務め、1993年には、「スポーツ功労者」文部大臣表彰を受賞しました。

なるやまあきら
成山明（1931～1978） 洲本市由良

小野川部屋に入門し、1948年に初土俵、1956年に小結に昇進しました。

てるつよし
照強（1995～ ） 南あわじ市（三原町）

伊勢ヶ濱部屋に入門。阪神・淡路大震災の日に生まれ、照強という四股名は「強くなって被災下地元を照らせるように」との思いで名付けられました。

..... 【バレーボール】

かしのさちこ
樫野幸子（1965～ ） 南あわじ市伊加利（西淡町）

辰美中・志知高校卒業後、日本リーグのユニチカのエースとして長年活躍し、全日本代表に選出され、1989年ワールドカップに出場しました。

あまつみ
雨堤みなみ（1988～ ） 南あわじ市津井（西淡町）

津井小から島外の中・高校で活躍。2007年世界ジュニア選手権で3位を獲得。2011年より仙台ベルフィーユに所属し、引退後は指導者として活動しています。

【陸 上】

たな だしんすけ

棚田真輔（1935～ ）南あわじ市倭文（緑町）

倭文中・三原高校から東京教育大学に進み、1954年アジア大会で5位に入賞するなど、国際大会で活躍しました。

たかさか み え こ

高坂美恵子（1951～ ）洲本市五色町広石（五色町）

五色丘中・三原高校・日本体育大学に進み、やり投げ選手として活躍。全日本学生・国民体育大会でそれぞれ4度優勝しました。1973年アジア大会で優勝し、1976年モンテリオール五輪の候補選手として活躍しました。

まつおかり え

松岡理恵（1977～ ）洲本市五色町都志（五色町）

五色中・洲本実業高校から天満屋で、長距離選手として活躍しました。世界ジュニア陸上選手権の5000メートルで6位入賞、マラソン世界選手権に2回出場しました。

ばんどうゆう た

坂東悠汰（1996～ ）洲本市五色町都志（五色町）

五色中・津名高校から法政大学、富士通陸上競技部で活躍しました。専門は中距離走・長距離走。第104回日本陸上競技選手権大会の5000メートルで自己ベストで優勝し、東京2020オリンピックの男子5000メートル代表に選出されました。

【柔 道】

まさ きけん と

正木健人（1987～ ）南あわじ市北阿万（南淡町）

ロンドンパラリンピック100キログラム超級金メダリスト。生まれつき弱視でしたが、南淡中・育英高校・天理大学卒業後、徳島県立盲学校で活躍しています。兵庫県スポーツ賞の特別選手賞を受賞しました。

【パワーリフティング】

こ たかまさひろ

小高正宏（1960～ ）淡路市岩屋（淡路町）

ロサンゼルスオリンピック重量挙げにて銅メダルを獲得。解説者兼兵庫県ウエイトリフティング協会理事長も務めました。

う じろはじめ

宇城元（1973～ ）洲本市中川原町

中川原中・洲本高校卒業後、バイク事故のため車いす生活を余儀なくされました。1988年に競技を始め、トレーニングを積みアテネパラリンピックでは8位入賞、ロンドンパラリンピックでは7位入賞、東京パラリンピックでは6位に入賞しました。

【競艇】

かまたただし
鎌田義（1974～ ）南あわじ市（緑町）

競艇選手。2013年に行われた大村・開設61周年記念特別競走・海の王者決定戦で8回目の優出にして初のGIを獲得し、2017年引退しました。

さあ、きみは何人知っていたかな？まだまだ淡路島には、活躍している有名人がたくさんいます。何年後には、君たちの中からもここに取り上げられる人が出てくるだろうニャー。



（4）地域の発展に貢献した人々

淡路島が豊かで住みよいところになるように活躍された人々がたくさんいます。分野に分けて、どのような人々が活躍されたのか見ていきましょう。

【淡路島の発展のために活躍した人々】

あべきへい
安倍喜平（1841～1915）南あわじ市湊（西淡町）

県内でいち早く淡路新聞を創刊し、淡路汽船会社も創業しました。また、学塾「積せき小軒しょうけん」を開き、淡路島の教育にも力を注ぎました。淡路島に文明開化を導入したことから、「淡路島の福沢諭吉ゆきち たた」と讃えられました。

かしゅうとらじろう
賀集寅次郎（1842～1906）南あわじ市賀集（南淡町）

初代の津名・三原郡の長として、学制発布・地租改正などの近代化政策を淡路島に定着させました。産業界でも島内の有志と協力し、紡績業ほうせきぎょうを起こしました。また、教育面においても島内唯一の中等教育機関「洲本中学校」の設立にあたりました。

いわたやすろう
岩田康郎（1858～1921）洲本市五色町鮎原（五色町）

洲本町長として、反対する住民と何度も話し合ったり、協力を頼んだりして、洲本川の付け替え工事（1901年～1904年）を行うなど、洲本の発展につくしました。

みきぜんぱち
三木善八（1858～1921）洲本市上物部

安倍喜平らと協力し、「淡路新聞」などの新聞づくりにかかわりました。その経営手腕けんぎょうてんが認められ、報知新聞社に入社しました。新聞の料金を引き下げたり、小説を載せたり、記事を易やさしい文章で書くなど、新聞の大衆化を図りました。

いまおかよしゆき
今岡義之（1864～1947）淡路市生穂（津名町）

淡路島の自動車交通事業（路線バス）の発展に生涯をかけて取り組み、「交通文明の母」と呼ばれました。また、マッチ製造工場（三八商会）を設立しました。

かしゅうしん くるう
賀集新九郎（1871～1942）南あわじ市賀集（南淡町）

半世紀にわたり島民の足として、洲本・福良間を走り続けた淡路鉄道の創設と発展に力を注ぎ、淡路島における「交通文明の父」と称されています。

はらけんざぶろう
原健三郎（1907～2004）淡路市浅野（北淡町）

国会議員として、20回連続当選しました。その間、労働大臣・国土庁長官・北海道開発庁長官などを歴任し、衆議院議長も務めました。明石海峡大橋の建設に強い信念を持ち、実現へと導きました。

【産業（農業・水産業以外）の発展のために活躍した人々】

た なかたつぞう
田中辰造（1803～1878）淡路市江井（一宮町）

漁業・海運業が盛んな江井において、冬場の仕事や収入を確保するため、大阪の堺より線香作りの技術職人を迎えました。毎年9月23日には、「線香製造先覚者慰霊祭」が行われ、線香作りに力をつくした人々を供養しています。



線香製造先覚者慰霊碑

さ の すけさく
佐野助作（1844～1910）淡路市塩田（津名町）

「淡路島の西郷はん」と呼ばれ、政治で活躍したのち、淡路紡績、淡路製陶、淡路軽便鉄道、淡路製紙、淡路製竹をつぎつぎ創立するなど淡路島の産業革命の担い手となりました。

くにぎたせん くるう
櫻田善九郎（1844～1922）南あわじ市北阿万（南淡町）

賀集珉平の親族に当たり、珉平焼の伝統を受け継いで1883年（明治16年）タイルを生産する淡陶社（ダントー）を創設し、経営にあたりました。

ふじ え あきお
藤江章夫（1854～1928）南あわじ市広田（緑町）

淡路紡績創設の発起人の一人です。淡路紡績は、1900年（明治33年）に鐘淵紡績株式会社かねがふちに買収され大きく発展しました。現在、その鐘紡も淡路島を離れ、鐘紡跡のレンガ造りの建築物が洲本のランドマークとなっています。



たきかわふくいち

瀧川福市（1907～2006）洲本市安平町

淡路信用金庫の創設者。「地元の繁栄なくして信用金庫の繁栄はない」との信念のもと、地元経済の発展につくしました。「働くものは強し、貯えあるものはなお強し」という言葉を残しています。「働く元気があることが大切。頭に知識を貯えることも大切」という意味です。

はたぎひろとし

畑崎広敏（1936～ ）洲本市五色町鮎原（五色町）

大手アパレルメーカーのワールドの創業者です。淡路島にも工場（五色・広田：現在は五色工場のみ）を作り、淡路島の発展に力を注ぎました。



ワールド五色工場

【農業の発展のために活躍した人々】

ひろた なおとし

廣田直俊（1812～1881）淡路市柳沢（一宮町）

測量術を学び、自分で設計図を描き、隣村の水利権者や水路用地確保などの交渉をすべて一人で行い6年の年月をかけ、灌田洞門かんてんどうもんを完成させました。この完成で桃川村（現在の江井地区）は、水不足から解放されました。



灌田洞門の碑

かんだ ごさく

神田五作（1828～1890）淡路市浅野（北淡町）

父の文四郎が始めた神田原の開墾を受け継ぎ、22haの土地と7つのため池、9か所の暗渠あんきよ（水を通すためのトンネル）と約8kmにわたる用水路を完成させ、地域の人々のためにつくしました。

やまぐちつね お

山口恒雄（1844～1910）洲本市木戸

大野村（洲本市）にため池だいじょういけ（大城池）を作るなど、村の生活を豊かにしようと努力し、「大正の尊徳翁そんとくおう」と呼ばれました。また、三原郡（南あわじ市）の酪農の発展に指導的役割を果たしました。

かげやまもりひこ

蔭山守彦（1852～1906）淡路市佐野（津名町）

1880年（明治13年）4月、佐野東山牧場を設立し、牧場経営とともに、牛馬の品種改良に私財を投じて取り組み、淡路牛の基礎を創りました。守彦は、畜産のほか、養蚕を広めたり、米の品種改良にも力を注ぎました。

ばんどうくにはち

坂東国八（1856～1937）南あわじ市賀集（南淡町）

1886年（明治19年）に乳牛を飼育し、牛乳販売店「保命軒」^{ほめいけん}で営業を始めました。明治末年ごろには、洲本のほか由良、福良、神戸にも牧場をもち「坂東牛乳」の名で広く知られました。当時、牛乳は、文明開化を象徴する食品^{しょうちよう}でした。

いけもとふみ お

池本文雄（1865～1916）淡路市育波（北淡町）

日本果物会や日本果物合資会社^{かぶつ}を設立し、「果物雑誌」^{かぶつざっし}を創刊しました。また、あたたかい淡路島でリンゴの栽培に成功し、果樹栽培の先駆者といわれています。

かわ せしゅうじ

河瀬脩二（1885～1957）南あわじ市（三原町）

淡路島最初の農業用ダムとして1932年（昭和7年）に上田池ダム^{こうだ}を完成させました。このダムは、全国でも数少ない石積みのダムです。



上田池ダム

た なかまんべい

田中萬米（1892～1978）南あわじ市賀集（南淡町）

三原郡酪農協を設立し、淡路酪農の基礎を築き、「淡路酪農育ての親」と呼ばれました。また、玉ねぎ栽培の普及にも力を注ぎ、今日の「淡路島たまねぎ」の繁栄をもたらせました。

【水産業の発展のために活躍した人々】

なか の り いちろう

仲野理一郎（1850～1936）南あわじ市阿那賀（西淡町）

漁師の生活の向上のため、ナマコや小エビ、セト貝の干物を中国に輸出する事業を始めました。また、マテ貝をとる道具を漁師に貸し出し、マテ貝漁を広めました。さらに、イワシ漁の沖どり（いわしあぐり網^{あみ}）を開発し、外国でも注目されました。この漁法のおかげでイワシが簡単にとれるようになり、漁民の生活が向上しました。

もりよしかず

森吉一（1916～2003）淡路市久留麻（東浦町）

小型船舶による底びき網漁を主業とする漁業者の生活の安定を図るため、速い潮流を受ける海域でもノリ養殖ができる「いかだ式浮動養殖法」を苦心の末、開発することに成功しました。その結果、森漁協のノリの生産高は、県下屈指となっただけでなく淡路島をはじめ各地のノリ養殖法の主流となりました。

(5) 高田屋嘉兵衛

淡路島はもちろん北海道、ロシアでも有名な人物です。高田屋嘉兵衛は、小説「菜の花の沖」を書いた作家^{しばりよたろう}司馬遼太郎がこよなく愛した人物で、「今でも世界のどんな舞台でも通用できる人」と称^{たた}えています。

1769年（明和6年）、高田屋嘉兵衛は、淡路島都志本村^{ほんむら}（現・洲本市五色町都志）に6人兄弟の長男として生まれました。幼い頃から海が好きで、近くの川におもちゃの船を浮かべながら、潮の満ち引きを調べて大人達を驚^{おどろ}かせました。22歳で兵庫（現・神戸市）に出た嘉兵衛は、大坂（大阪）と江戸の間を航海する樽廻船の水手^{かこ}*1となり、船乗りとしてのスタートを切りました。

やがて優秀な船乗りとなった嘉兵衛は、海運業に乗り出します。28歳で国内最大級の千五百石積の船「辰悦丸」をつくり、北海道の箱館（函館）を商売の拠点としました。



高田屋嘉兵衛



辰悦丸（二分の一模型）

当時、毛皮を求めて千島列島を南下してくるロシアから国を防ぐ対策を急ぐ幕府に協力して、択捉島と国後島間の航路を発見したり、新たな漁場を開いたりするなど活躍しました。

1806年（文化3年）、箱館（函館）の大火で町の大半が焼失した時、被災者の救済活動と復興事業を率先して行いました。

※1 水手：船を操る人



千石船模型

嘉兵衛が北方で活躍していた頃、鎖国を理由に国と国との商売を断られたロシアと日本との間でもめごとが起こりました。その頃、千島海域の地理を調査中のロシアの船長グローニンが、国後島で水・食料を得ようと上陸したところ、日本の警備隊にと捕らえられる事件が起こりました。

船長を失ったロシア船ディアナ号は、無事確かめるため、近くを通りかかった嘉兵衛の船を捕らえ、カムチャッカへ連れて行きました。

囚われの嘉兵衛と副船長リコルドは、同じ部屋で寝起きし、「一冬中に二人だけの言葉をつくって」話し合い、嘉兵衛は、リコルドの信頼を得て、ついにグローニンを釈放させることに成功しました。

その後、嘉兵衛は、50歳で弟たちに店をゆずり、ふるさとの淡路島にもどり、港を新しくしたり道路や橋をつくったり直したりして、ふるさとのために力を尽くし、1827年（文政10年）、59歳で自宅で静かにその生涯を閉じました。



高田屋嘉兵衛とリコルド



高田屋嘉兵衛翁記念館（平成29年3月閉館）



高田屋顕彰館・歴史文化資料館（菜の花ホール）

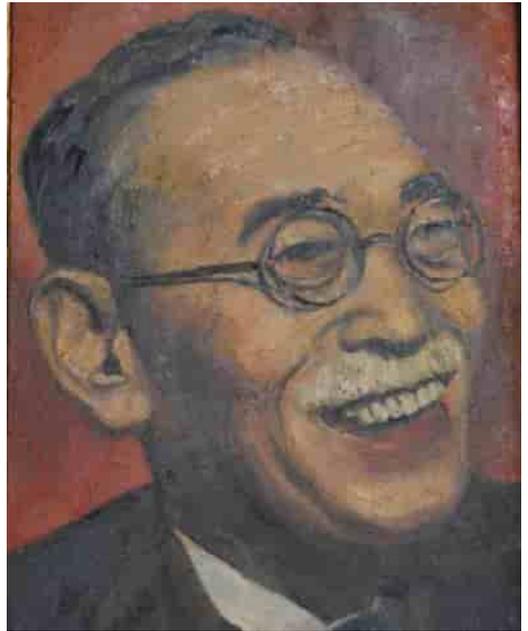
なが た ひで じろ う せい らん
(6) 永田秀次郎 (青嵐)

1876年(明治9年)、三原郡倭文村長田(南あわじ市)に生まれた永田秀次郎は、1936年(昭和11年)に淡路島出身で初めての大臣になりました。淡路島の人々は、淡路島から大臣を出した喜びに歓声かんせいをあげました。当時の洲本中学校(現・洲本高等学校)では、秀次郎の生まれた家までの12kmの道を旗を持った人々が祝いました。その後、1939年(昭和14年)にも大臣として活躍しました。

また、東京市長も2回務めています。最初は、1923年(大正12年)、48歳の時でした。市長になってすぐに関東大震災が起きました。震災からの復興に向けて一生懸命取り組みました。2回目の市長就任しゅうにんは、1930年(昭和5年)でした。スポーツを通じて国際親善こくさいしんぜんに努め、第12回の国際オリンピック大会を東京へ誘致ゆうちしようと考えました。アジアで初めて開くオリンピックとして、実現に熱意を燃やし、国内あげての運動の結果、東京開催が決定されました。しかし、1940年(昭和15年)の開催は、戦争のため幻まぼろしの東京オリンピックとなりました。東京百年史には、名市長の一人として紹介されています。大臣や東京市長のほかにも26歳で洲本中学校長、その後、三重県知事たくしよく、拓殖大学学長に就任しています。

俳人としても有名で「青嵐」と号しました。高浜虚子たかはまきよしらと「ホトトギス」誌上で俳句を論じました。

1943年(昭和18年)、68歳で亡くなりました。



辞世の句「震災忌 吾われに古りゆく 月日かな」(写真左)

ひぐち きいちろう
(7) 樋口季一郎

1888年（明治21年）三原郡阿万村（南あわじ市）に生まれました。1938年（昭和13年）3月、ハルビン特務機関長の任にあった樋口季一郎は、ソ満国境の地・オトポールに逃れてきた約2万人のユダヤ難民を救済しました。当時、満州国外交部は、ドイツと日本の関係が崩れることを危惧し、ユダヤ難民の入国をはねつけていました。そのような中、樋口はビザを発給するよう満州国外交部に指示したのです。杉原千畝による「命のビザ」発給の2年前にあたります。

（兵庫県教育委員会・編『ふるさと兵庫 魅力発見！』より）



樋口季一郎は、淡路市にある伊弉諾神宮でも祀られています。



ここで取り上げた人々は、淡路島のために貢献した人のほんの一部です。
 ほかにどんな人がいるのか調べてみるニャー。

(8) 井植歳男

三洋電機の創業者で、洗濯機などを開発するとともに、淡路島の発展に努力した人です。1902年（明治35年）津名郡浦村（淡路市）に生まれました。少年時代から話術に優れ、小学校の学芸会で発表した「お話」は、拍手喝采を浴びました。

叔父の船の見習い船員となりますが、待っていたものは厳しい生活でした。食事の支度、舟洗い、帆巻き、錨上げ、荷の上げ下ろし、息をつくひまもないほどの仕事を与えられました。冬の海はとても寒く、育ち盛りの少年にとって苦痛でした。しかし、しだいに鍛えられていき、どんな苦しみも辛抱さえすれば克服できるという強い信念を抱くようになりました。倉庫の大爆発で乗るべき舟がなくなり、船乗りになることをあきらめました。

14歳になった時に、義理の兄・松下幸之助が始めた松下電器を手伝い、大きく成長させました。そして、自転車用ランプの生産を手がける小さな会社「三洋電機」を作りました。当時、洗濯は、最も疲れる家事でした。道具は、たらいと洗濯板だけ、1日数時間かかる手作業でした。1953年（昭和28年）、日本初の噴流式洗濯機「SW-53」が発売され、頑固な汚れを7分で落とす性能、狭い日本の住宅に適したコンパクトなボディ、価格は、従来の外国製洗濯機の半分、年間6万台を売り上げる大ヒット商品となりました。「洗濯機のサンヨー」の名前が全国に広まりました。

海外市場の開拓にも情熱を燃やし、「三洋」という社名は、太平洋、大西洋、インド洋からとり、海外展開が創業当初からの夢でした。東南アジアを皮切りに中近東、中南米へと拡大していきました。時代は、家庭電化の黄金期を迎えていました。中でも、テレビ、洗濯機、冷蔵庫は「三種の神器」と言われ、電化ブームの主演でした。

社長の職を離れた後は、自分が抱いてきた夢の実現に力を注ぎました。それは、愛する故郷淡路島の開発やフェリーによる海上輸送の開発などで、淡路島の発展に尽力しました。



噴流式洗濯機「SW-53」

6

景観と史跡

古く万葉の時代より、多くの旅人が足を止めながめていた淡路島。いまなお残る自然の姿は、人々の心をひきつけてやみません。そのような島にわたしたちは、暮らしています。その魅力を探ってみましょう。

(1) 雄大で美しい自然景観

北は百人一首にも歌われた松帆の浦から始まり、東は紀淡海峡に臨む成ヶ島、西には“サンセットライン”と呼ばれる夕陽の美しい海岸、そして南端には世界最大の渦潮がひかえ、訪れる人に「自然の美しさ」と「雄大さ」を語っています。

① “サンセットライン”と呼ばれる夕陽の美しい海岸



淡路島の西部を走る県道31号線は、瀬戸内海に沈む夕日が見られることから“サンセットライン”とも呼ばれています。

② 鳴門海峡の眺望^{ちようぼう}

福良港を見下ろす高台に位置する若人の広場^{※1}からは、鳴門海峡を眺望することができます。時には、天使の梯子^{はしご}が現れ、神秘的な光景が広がっています。

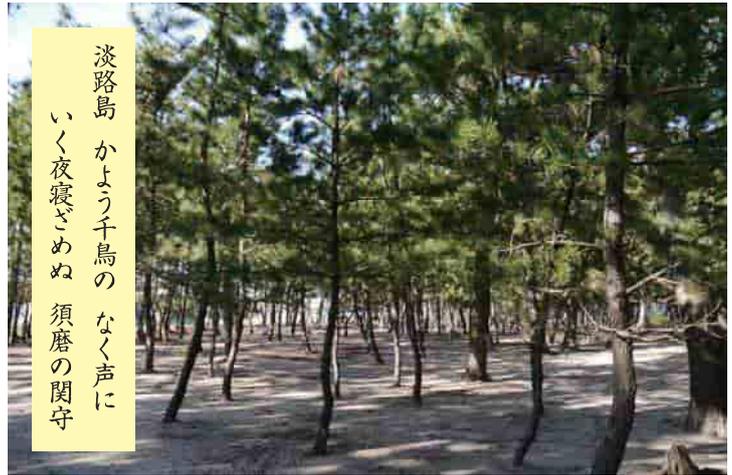


※1 若人の広場：戦時中に学徒動員されたことにより戦没した若者を追悼して1967年（昭和42年）に開設された施設（P73参照）

③ けいのまつばら 慶野松原

慶野松原は、三原川の河口北側に広がる砂浜です。瀬戸内海国立公園に指定され、「日本のはくさせいしょう白砂青松100選」や「日本の夕陽100選」にも選ばれています。

幅約2.5kmにわたって5万本もの淡路黒松の林が広がり、鳥類のすみかにもなっています。中でも、チドリは、淡路島を象徴する鳥として、古くから親しまれてきました。



④ おいしてんぼうだい 生石展望台



紀淡海峡を望む由良地域は、かつて淡路島の政治の中心でもあった歴史ある地域です。由良沖には、国立公園に指定されている成ヶ島が浮かび、景勝地として知られています。生石展望台からは、遠く友ヶ島を望むことができます。ここから見る紀淡海峡の朝焼けは、洲本八景の一つに数えられています。

⑤ あいや たき 鮎屋の滝

洲本市の鮎屋ダムの下流600mにある淡路随一の滝です。滝の落差は14.5mあります。

春にはサクラ、秋には紅葉にいろどられ、初夏には、ホタルが飛び交うなど四季折々の風景の中にすがすがしい水音が響いています。



⑥ しんごしきはま
新五色浜



新五色浜には、五色の輝く石がしきつめられています。流れる水のはたらきによって、けずり取られ運ばれてきた石が、この地にたい積したものです。これらの石は天然記念物に指定されています。



⑦ まつほ うら
松帆の浦



松帆の浦は、淡路島の最も北にあり、明石海峡を見渡すことができます。ここは、明石海峡を渡るための地であり、海が荒れて渡ることができないときには、風がおさまるのをじっと待ったことから、松帆（待つ帆）という地名になったと言われています。現在は、松林もなくなり、明石海峡大橋ができ、風景は大きく様変わりしました。

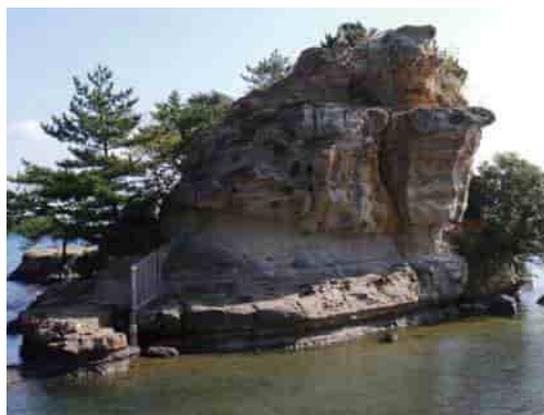


⑧ えしま
絵島

絵島は、3500万年前の砂岩の地層が波によってけずられてできた小島です。

岩肌には、赤茶色の層や特徴的な穴の様が見られます。

昔から、月見の名所として名高く、「平家物語」の「月見の巻」にも登場します。



⑨ いしだ たなだ
石田の棚田



淡路島には、限られた土地と傾斜を利用して、棚田があちらこちらにつくられています。

中でも、淡路市石田地区の棚田は、季節ごとにすばらしい景観を見せてくれます。先人たちの苦勞と努力の賜物として、後世へぜひ残したい風景です。

淡路島には素敵な風景がいっぱいあるね。一番好きな場所を思いうかべて詠んでみるニャー。



よ
淡路島を詠んだ和歌

昔の歌集の中に、下のような淡路島を詠んだ和歌がいくつかおさめられています。

淡路島の好きな風景を思い起こし、和歌や俳句をつくってみましょう。

来ぬ人を松帆の浦の夕風に
焼くや藻汐の身もこがれつつ

藤原定家 ※1

千鳥なく絵島の浦にすむ月を
波にうつして見る今宵かな

西行法師 ※2

淡路島かよう千鳥のなく声に
いく夜寝ざめぬ須磨の関守

源 兼昌 ※3

みなさんの作品

- ※1 藤原定家：鎌倉時代初期の歌人で『新古今和歌集』『新勅撰和歌集』を作るとともに、百人一首の撰者でもある
- ※2 西行法師：平安時代末期の歌人。『新古今和歌集』に95首もの歌がおさめられている
- ※3 源 兼昌：平安時代中期から後期の歌人

(2) 花の島

淡路島には、花を楽しむことのできる場所や施設が数多くあり、その面積も広大なものとなっています。花は、淡路島の観光にも役立っています。また、花づくりも盛んで各地へ出荷されています。

① 花がおりなす景観

「灘黒岩水仙郷」は、日本三大水仙郷のひとつに数えられています。甲子園球場の約1.5倍の急斜面に500万本ものニホンスイセンが群生しています。見ごろは、12月下旬から2月です。



灘黒岩水仙郷

「あわじ花さじき」は、甲子園球場の約4倍という広大な花畑になっています。四季を通じて植え替えられる花々は、まるでじゅうたんのようです。また、展望台からは、



あわじ花さじき

明石海峡や大阪湾を一望できます。

「ハマヒルガオの群生」(5～6月開花)が見られる慶野松原は、島でもっとも広大な面積をもつ海岸で、砂浜の幅も広く、海の香りを感じながら散歩できます。

② 花に関する施設

「兵庫県立淡路景観園芸学校」には、色鮮やかな花壇や日本庭園、園芸療法に利用される五感の庭などがあり、いろいろな種類の花や樹木が植栽されています。



兵庫県立淡路島公園

「兵庫県立淡路島公園」は、淡路島北部の丘陵地帯にあり、ゆっくりと時間を過ごせる公園になっています。いろいろなエリアがあり、その中でも“花めぐり散策コース”は、四季を通じて目を楽しませてくれます。

「淡路島国営明石海峡公園」は、土取り場の跡地を花と緑あふれる公園にしました。この公園は、「環境を守り・育てる」未来型公園となっています。2000年(平成12年)に「淡路ジャパンフローラ2000」という花の博覧会が開催されました。



淡路島国営明石海峡公園

「淡路ファームパーク・イングランドの丘」のイングランドエリアにも花畑があり春のネモフィラから始まり、バラ、ヒマワリ、コスモス、チューリップなど四季を通じて花を楽しめます。

③ 花き栽培

淡路島では、1931年（昭和6年）から花づくりが始まりました。花づくりは、おもに北部を中心に行われています。

淡路島を代表する花は、カーネーション、ストック、キク、キンセンカ、スイートピー、ナノハナ、バラの7種類です。

「カーネーション」は、こうし えんきゅうじょう甲子園球場約6個分の土地で栽培され、しゅっかりょう出荷量は、約3,500万本（2011年度）です。これは、兵庫県全体の出荷量の約85%にあたり、そのうちの90%以上が淡路市で栽培されています。

「キンセンカ」は、ろじ露地で栽培され、ち ぼけん ぼうそうはんとう千葉県の房総半島、あいちけん あつみほんとう愛知県の渥美半島とともに三大産地の一つです。おもにひがしうらぞ淡路市の東浦沿いのだんだん畑で栽培されています。出荷の時期は、12月から3月です。大半がけいはんしん京阪神の市場へ送られていきます。



カーネーション



キンセンカ



ストック

「ストック」は、ハウスで栽培されます。香りが高いのが特徴です。

「キク、コギク」は、おもにろじ露地で栽培されます。甲子園球場約4個分の土地で栽培され、はいりよ環境に配慮した栽培をしています。

ほかの“花き”についても調べてみるニャー。



④ エディブルフラワー（食用花）

新しい花の取組として、花を見て楽しむほかに味わって楽しむという取組が始まっています。食材として使う花を「エディブルフラワー」といいます。

ナノハナやキク、サクラは、よく使用されています。そのほか写真のようなベゴニアやトレニアなども使われています。サラダのいろど彩りとして使ったりします。それ以外では、ペチュニア、ビオラ、キンギョソウ、パンジー、ナデシコなども栽培されています。



ベゴニア



トレニア



エディブルフラワー

(3) 歴史遺産

淡路島には、国や県が指定した歴史的価値の^{かち}高い^{しせき}史跡があります。また、ぜひ残しておきたい史跡もたくさんあります。全部を紹介することはできませんが、その中からいくつかを紹介します。

① 国指定の史跡

^{かいづか}貝塚・^{こふん}古墳・^{しろあと}城跡・^{きゆうたく}旧宅などの^{いせき}遺跡の中で、日本の国にとって歴史上または、学術上価値が高いため、^{ほご}保護が必要として国から指定された史跡で、淡路島にあるのは次の5つです。

^{こくぶんじとうあと}淡路国分寺塔跡（南あわじ市）



^{こくぶんじ}国分寺は、^{しやうむてんのう}聖武天皇が仏教の力によって国をおさめようとして、国ごとに命じて作らせたものです。現在は、当時の塔の跡だけが残っています。

^{ごっさかいといせき}五斗長垣内遺跡（淡路市）



^{ごっさかいといせき}五斗長垣内遺跡は、^{やよい}弥生時代後期の集落の跡です。特に、鉄器作りが行われていた^{ろあと}炉跡が見つかり、弥生時代の鉄器作りを知るのに重要な遺跡です。

^{すもとじやうあと}洲本城跡（洲本市）



洲本城跡は、戦国時代から^{えど}江戸時代にかけて淡路国を治める中心となった山城の跡です。^{いしがき}石垣などは、当時のまま残されています。

^{とくしまはんまつほだいばあと}徳島藩松帆台場跡（淡路市）



^{まつほだいばあと}松帆台場跡は、江戸時代末期、^{まつき}明石海峡の^{かいきやう}守りを目的として^{とくしまはん}徳島藩によって作られた^{ほう}砲台の跡です。当時の日本の政治や外交を知る上で大切な遺跡です。

^{えさきとうだい}江崎灯台（淡路市）



^{えさきとうだい}江崎灯台は世界的にも最初期の^{めんしんそうち}免震装置を備えており、今でも現役で、航路の安全を守っています。近代化に取り組んだ明治政府の海上政策が分かる重要な建造物です。

② 県指定の史跡

兵庫県に指定されているのは、次の6つです。



ぐんげこふん
郡家古墳（淡路市）



こつろどうけん
古津路銅剣出土地と銅剣（南あわじ市）



どうたくしゅつどち
銅鐸出土地「中の御堂」と銅鐸（南あわじ市）



やぎやかたあと
養宜館跡の土塁と碑（南あわじ市）



しらすじょうあと
白巣城跡（洲本市）



たけぐちじょうあと
炬口城跡（洲本市）

③ 残したい史跡

淡路島には、国や県の指定を受けていなくても残しておきたい史跡がたくさんあります。ここで紹介しているのは、ほんの一部です。



しちじょうあと
志知城跡（南あわじ市）

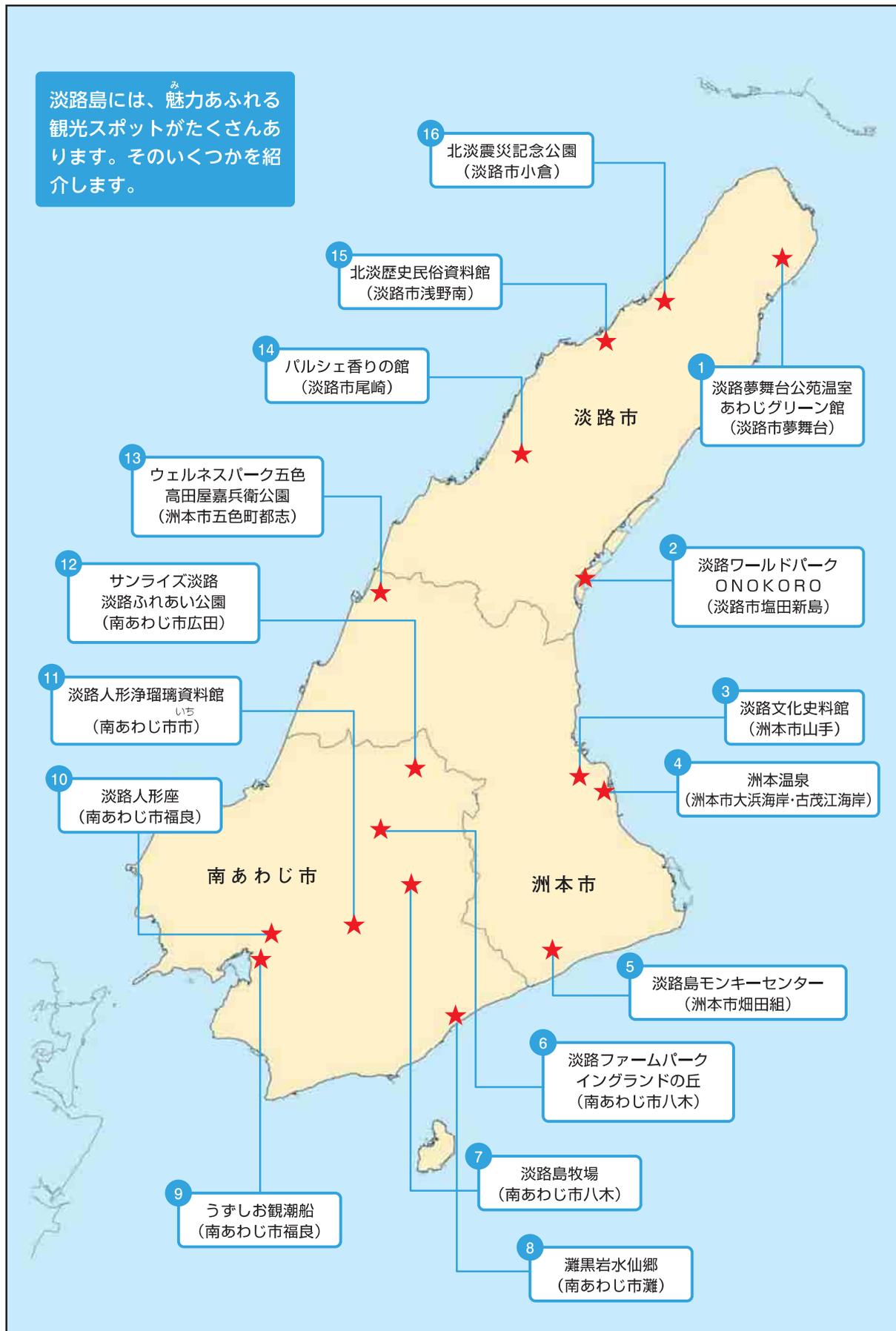


ゆらようさいあと
由良要塞跡（洲本市）



きゆうかぬがふちぼうせき
旧鐘淵紡績工場跡（洲本市）

(4) その他の観光名所・施設など





① あわじグリーン館 (旧 奇跡の星の植物館)

日本最大級の植物館。めずらしい植物やおしゃれなガーデニングが魅力です。



② 淡路ワールドパーク ONOKORO

世界の建築物を1/25サイズに再現したミニチュア建築が並んでいます。



③ 淡路文化史料館

淡路島の歴史・民俗・祭りなどが展示され、淡路島の文化がわかります。



⑤ 淡路島モンキーセンター

おとなしい性格の日本猿約200頭を餌づけした野猿公園です。



⑥ 淡路ファームパーク イングランドの丘

コアラなどの小動物とイギリスの風景が楽しめます。



⑦ 淡路島牧場

バター手作り体験など、作る楽しさを味わうことができます。



⑬ ウェルネスパーク五色

芝生広場・ログハウス・体験工房などの施設と高田屋嘉兵衛の資料館があります。

淡路島には、みんなが楽しめる施設がたくさんあるニャー。いいな、淡路島。

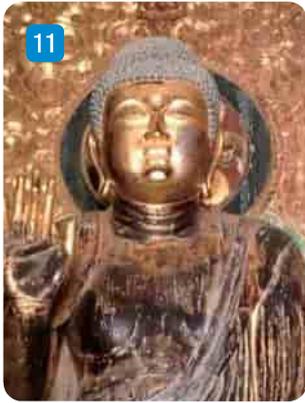


(5) COOL AWAJI ~淡路島のココがカッコいい!!~

日ごろの生活では気づかない淡路島の魅力を集めてみました。外国人に、下の写真を使って淡路島の良さを、英語で伝えてみましょう。Let's try!!



1 イカナゴ漁 2 ウニ 3 鱧 4 ふとんだんじり 5 鬼瓦 6 干しタコ 7 冬咲きチューリップショー
8 花火 9 カーネーション栽培の夜景 10 淡路島バーガー



11 淡路国分寺国指定重要文化財 木造釈迦如来坐像 12 しばえもん狸 13 モンキーセンター 14 玉ねぎ収穫作業
 15 瓦ぶき玉ねぎ小屋 16 農民車 17 わかめ漁 18 ピンス焼き 19 吹き戻し 20 無人直売所

7

阪神・淡路大震災と淡路の防災教育

(1) 震度7の地震が町を襲った！

1995年（平成7年）1月17日午前5時46分。淡路島を震源とする大地震（兵庫県南部地震）が発生しました。下から突き上げられるような激しいゆれで、たくさんの建物が倒れ、多くの人々の命がうばわれました。これが「阪神・淡路大震災」です。

① 震災当時のようすを、作文や写真をもとに振り返ってみましょう。



倒壊した建物

淡路島では、震源の近くの旧北淡町が最も大きな被害を受けました。多くの建物が倒壊し、建物の下敷きになって、たくさんの人が犠牲になりました。

しかし、そんな中でも、地元の消防団や地域の人たちが助け合い、倒壊した建物の中から、生き埋めになった人が助け出されました。

地域の人たちのつながりが、命を守る力になったのです。



避難所のようす

（児童作文）
その時ぼくは目が覚めた。ゆれていることはわかったけど、夢を見ていたのだと思った。
お父さんがタンスを持ち上げて、その下敷きになっていたおばあちゃんとお兄ちゃんが助かってよかった。
家の中を見ると、障子がやぶれていたり、ガラスがわれたりした。

（5年生男子）



消防団の活動

多くの建物が倒れ、家を失った人々は行き場を失い、学校などの避難所に身を寄せました。

避難所では、みんなが共同で生活し、水や食べ物が自由に手に入らない生活でしたが、人々は約束やきまりを守り、おたがいにゆずり合って、行動しました。

② 阪神・淡路大震災の淡路島での被害（合併前の旧市町別）

市名	死者 (人)	負傷者 (人)	全壊家屋 (棟)	半壊家屋 (棟)	一部損壊 家屋(棟)
洲本市	4	44	203	932	4,989
五色町	0	17			
津名町	5	42	3,076	3,976	10,032
東浦町	0	46			
淡路町	1	57			
北淡町	39	870			
一宮町	13	162			
緑町	0	14	181	415	1,600
西淡町	0	5			
三原町	0	4			
南淡町	0	5			
合計	62	1,266			

「野島断層」は、“地質遺産100選”に選ばれたよ。地形構造の解明に役立ってるんだニャー。



③ 阪神・淡路大震災のつめあと「野島断層」

阪神・淡路大震災は、淡路島北部の「野島断層」を震源として発生した「内陸直下型地震^{*1}」です。この「野島断層」は、江崎燈台付近から旧北淡町の富島地区の間、約10kmにわたって大震災のつめあとを残しました。このような断層を「活断層」といいます。活断層は、今までに動いたことがあり、これからも動くかもしれない断層のことをいいます。今後、野島断層は1000～1500年の間に再び動いて、大きな地震を起こすのではないかとされています。



※1 内陸直下型地震：私たちの住んでいる地表から0～20kmの深さの場所で大きな力がはたらき、その力によって岩盤が破壊されると、その時に地震が発生します。このような地震を「内陸直下型地震」といい、私たちの住んでいる地表からとても近い場所で起こる地震なので、大地震になり、大きな被害をもたらすことがあります

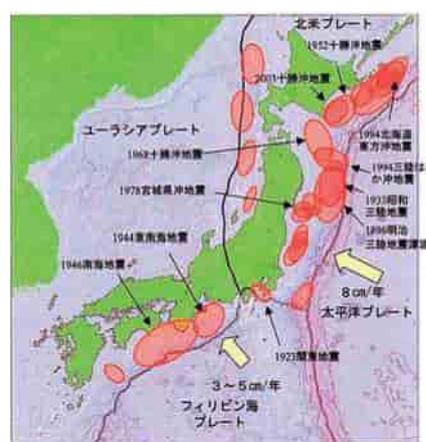
(2) 大津波が町を襲った東日本大震災と南海トラフ大地震

2011年（平成23年）3月11日、太平洋三陸沖を震源とする地震（東北地方太平洋沖地震）が発生しました。マグニチュード9.0の激しい地震のゆれの後、東北・関東地方太平洋側の広い範囲に大津波が押し寄せました。これが「東日本大震災」です。東日本大震災は、三陸沖の太平洋プレートと北米プレートの間で発生した「プレート境界型地震※1」です。

このように地震と津波で大きな被害を引き起こす「プレート境界型地震」は、私たちが住む淡路島の近くでも発生することが予想されます。

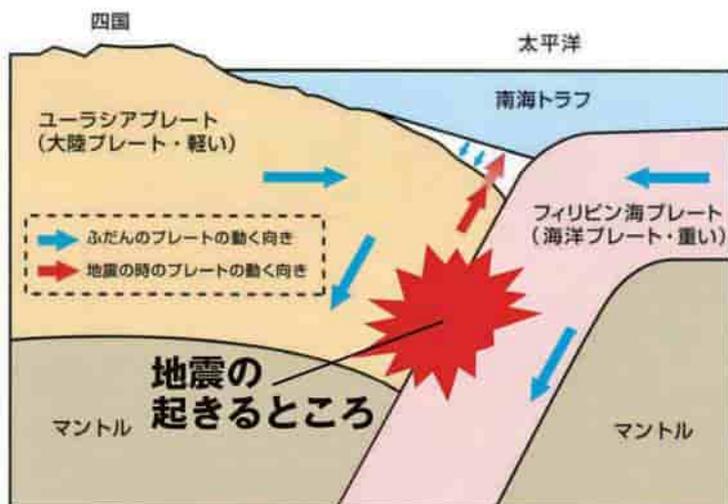
1946年（昭和21年）12月21日、和歌山県潮岬沖を震源とする地震が発生し、淡路島や西日本は、地震と津波によって大きな被害を受けました。これが「南海トラフ大地震（昭和南海地震）」です。

南海トラフ大地震は、東日本大震災と同じ「プレート境界型地震」です。過去にも約100年～150年ほどの間隔をおいて発生しており、1946年（昭和21年）に発生した「昭和南海地震」から考えると、いつ南海トラフ大地震が発生してもおかしくない時期と考えられています。



日本海プレートのように

プレート境界型地震



プレート境界型地震（南海トラフ大地震）のしくみ



防災教育副読本「明日に生きる」より

※1 プレート境界型地震：日本列島は、「ユーラシアプレート」「北米プレート」というプレートの上にあります。また海底には「フィリピン海プレート」「太平洋プレート」があり、日本付近でこれら4つのプレート同士がお互いに押し合っています。それらのプレートの境目や、プレート自体にひずみのエネルギーがたまり、それが解放された時に地震が起こります

(3) 淡路の防災教育

淡路島では、阪神・淡路大震災を経験し、その経験を教訓に防災教育に努めてきましたが、2011年（平成23年）には東日本大震災が発生し、地震と津波によって大きな被害を受けることを学びました。また2013年（平成25年）にも震度6弱の地震が発生しました。さらに、現在南海トラフ大地震とそれに伴う津波への備えが必要になっています。

淡路島では、地震をはじめ、さまざまな災害に備えるため、学校や地域で防災教育の取組が進められています。

震災・学校支援チーム（EARTH）^{アース}の取組

兵庫県には、災害のあとの学校再開や避難所運営の補助、心のケアをサポートする震災・学校支援チーム（EARTH）^{アース}があります。EARTHは、学校の先生たちのチームで、淡路にも約20名のEARTH員がいます。毎年行われる全島一斉防災訓練、各学校の防災訓練に参加して、防災教室や心のケアの仕方などを教えています。



福良港津波防災ステーション「うずまる」

南あわじ市福良にあります。職員の方と津波への備えについて体験しながら学ぶことができる施設です。



北淡震災記念公園

淡路市野島地区にあります。野島断層や施設を見学したり、語り部の方から震災当時の話を聞くこともできます。



こどもあんしんネット

小中学校で学校からの緊急の連絡を伝える時に、家の人の携帯電話やパソコンへ、いっせいにメールで用件を伝えるシステムです。これにより、連絡が素早く伝わり、2013年（平成25年）4月13日の地震の時も安否確認等に使われました。

防災マップ「としまっぷ」

県立淡路高等学校では、学校のある淡路市富島地区の安全を守る防災マップを作っています。地域の人たちの意見を取り入れて、津波避難場所や危険な場所、お年寄りや手助けが必要な人が住んでいる所などが分かるようにしています。



「全島一斉総合防災訓練」

淡路島内3市では、毎年秋に南海トラフ巨大地震を想定した全島一斉総合防災訓練を実施しています。メイン会場となる小中学校では、児童・生徒も参加し、被災者の健康チェック等を行う避難所運営や初期消火・応急救護などの訓練を実施しています。



【おそろしい地震や津波から身を守るには、どうすればよいでしょう。】

- ゆれを感じたら、まず頭をまもろう。ゆれている間は、無理に動かない。
- ゆれがおさまったら、あぶない所からはなれよう。
- 地震の後は、津波が来る。できるだけ早く、できるだけ高いところへひなんしよう。

自分の命を守るために、最善をつくそう！

8

あわじ環境未来島構想へ

これまで、淡路島の自然や歴史・文化などわたしたちが住んでいる淡路島の魅力について学んできました。しかし、淡路島には、いろいろな課題もあります。これらの課題を解決し、住みよい淡路島を目指して様々な取組が行われています。わたしたちの住む淡路島の将来について考えてみましょう。

(1) あわじ環境未来島構想

淡路島の恵まれた地理的条件を生かして、淡路島の活性化のため、生命つな^{いのち}がる「持続する環境の島」を目標に、エネルギーと農・食が自立でき、暮らしが持続する地域社会の実現を目指しています。



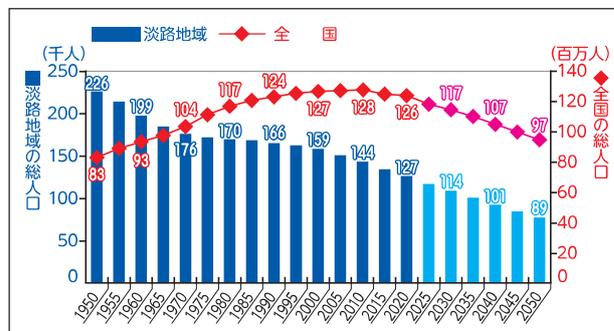
あわじ環境未来島ロゴマーク

① あわじ環境未来島構想とは

これまで学んだように、わたしたちの住んでいる淡路島は、恵まれた自然、伝統ある文化や歴史、特色ある産業など、豊かな地域資源を有しています。

しかし、人口減少、少子高齢化^{※1}、公共交通^{※2}の縮小、後継者不足^{※3}など様々な課題をかかえています。

これは、淡路島だけでなく、日本の地方共通の課題です。こういった課題を解決し、持続可能な地域づくりを目指すことが「あわじ環境未来島構想」です。



淡路島と全国の人口推移 (2025年以降は予測)



あわじメガソーラー1 (淡路市生穂新島)

淡路島では環境や人と人とのつながりを大切にしながら、エネルギーや食料を自分たちの地域で必要な量をまかない、子どもから高齢者までが充実した生活を送ることができる取組を、兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市の行政をはじめ住民グループ、企業など様々な人々や団体で進めています。

※1 少子高齢化：子どもの数が少なくなり、高齢者の割合が高くなること
 ※2 公共交通：不特定多数の人が利用するのりもの。淡路島では、路線バスや船のこと
 ※3 後継者不足：農業や漁業などの仕事を受けつぐ人がなく、足りないこと

② 取組の3つの柱

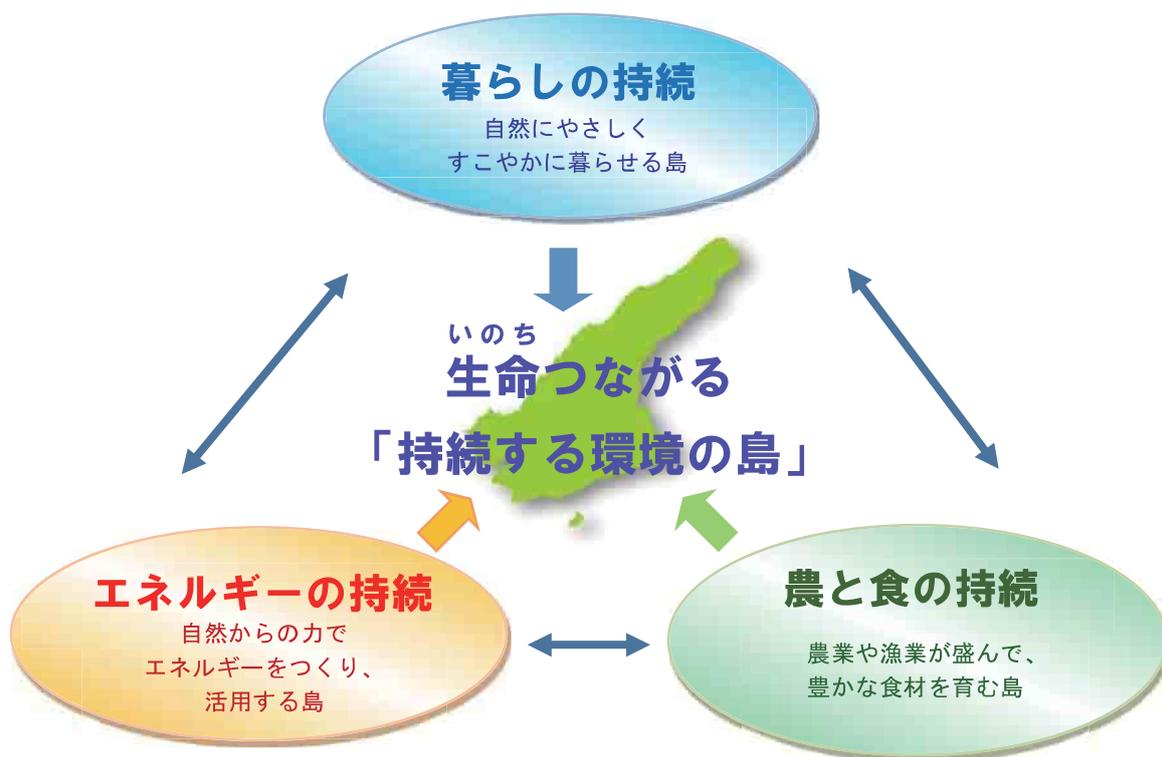
淡路島の最大の強みは、エネルギーと食料を自分たちの地域で必要な量を生産できる恵まれた地理的環境にあります。その強みを生かして

①太陽光や風力などの再生可能エネルギー※1を活用して「エネルギーの持続」ができる島

②安心と健康を支える食の生産を通じて「農と食の持続」ができる島

③人と人、人と自然のつながりを大切にしながら「暮らしの持続」ができる島

を目指します。「エネルギー」「農と食」「暮らし」の3つの持続を柱に、生命つながる「持続する環境の島」の実現を目指します。



取組の3つの柱と地域の将来目標

③ 将来の淡路島を考える

あわじ環境未来島構想により、みんなが住みやすい淡路島を目指して、様々な取組が行われています。実際に取り組まれていることを調べて、みんなで将来の淡路島について考えてみましょう。



明石海峡大橋

※1 再生可能エネルギー：自然から取り出すことができ、何度利用しても再び使うことができるエネルギー

(2) 再生可能エネルギーの島

① 再生可能エネルギーとは

・わたしたちのくらしとエネルギー



(出典:四国電力HP)

わたしたちの生活になくてはならないのが電気やガスなどのエネルギーです。くらしが便利になるにつれ、エネルギーの消費量は増加してきました。また、世界の人口の増加にともない、エネルギーの消費量は今後ますます増え続けていくと予想されています。

さらに、これまでのような石油や石炭などの化石燃料に頼る発電では、地球温暖化につながる温室効果ガスを排出するという問題があります。そして、なにより石油や石炭などの資源には限りがあります。

また原子力による発電は2010年(平成22年)までは全体の約30%を占めていましたが、2011年(平成23年)の東日本大震災が原因の事故により、安全性の確保などが課題となっています。このため2011年(平成23年)以降、多くの原子力発電所が長期間停止するなどの事態が起きています。

(資料1) 世界の人口とエネルギー消費の見通し



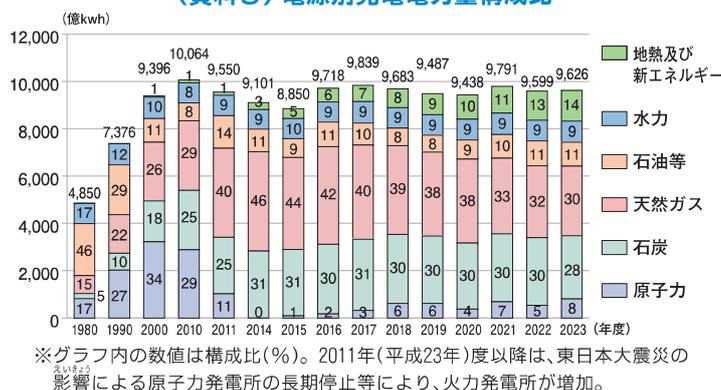
(出典:四国電力HP)

(資料2) 各資源の利用可能な年数



(出典:「原子力・エネルギー」図面集)

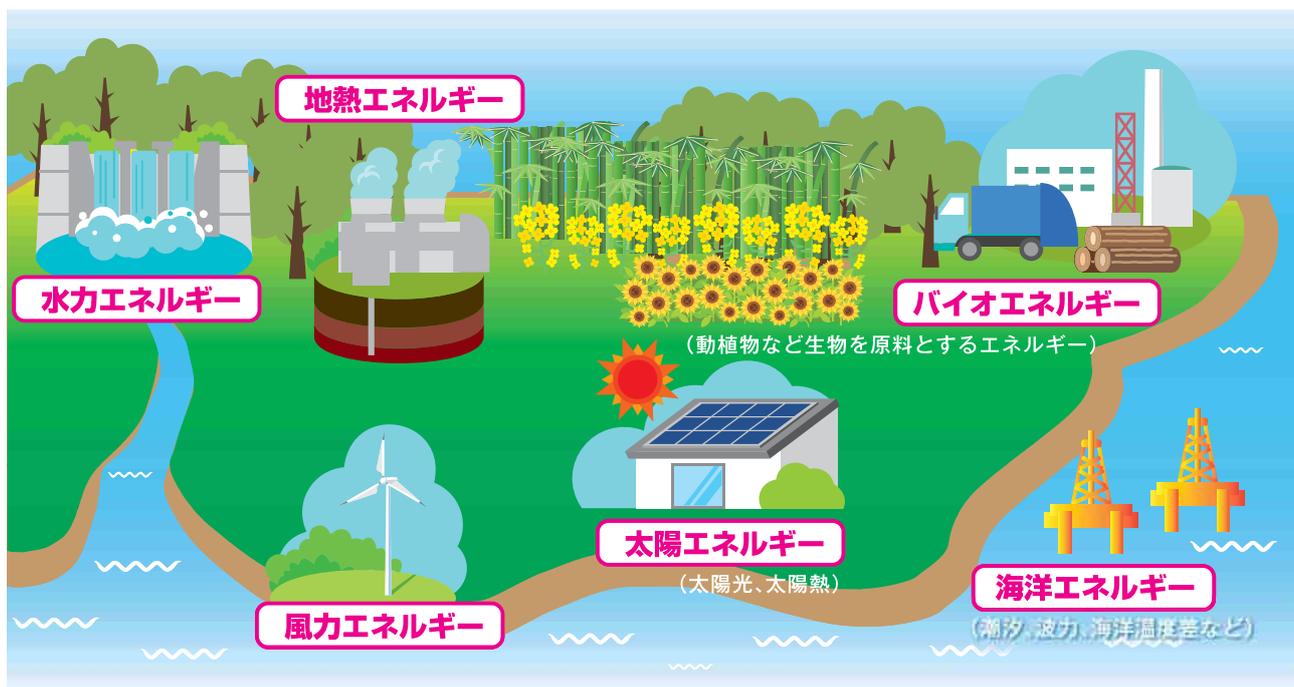
(資料3) 電源別発電電力量構成比



※グラフ内の数値は構成比(%)。2011年(平成23年)度以降は、東日本大震災の影響による原子力発電所の長期停止等により、火力発電所が増加。

(出典:電気事業連合会のHPを基に作成)

・持続可能な^{※1} 未来のために欠かせない再生可能エネルギー



そこで注目されているのが、次の3つの要素を兼ね備えた「再生可能エネルギー」です。

1. どこにでもある! …………… 太陽光や風力は、どこにでもあるエネルギーです!
2. 地球温暖化につながらない! … 発電時に温暖化の原因である二酸化炭素を増やしません!
3. 限りがない! …………… 自然の力は限りがなく、なくなる心配がありません!

・次世代のエネルギー「水素」

再生可能エネルギーは、天気などの条件に左右されやすく、安定してつukれないという弱点があります。そこで、新しいエネルギーとして、水素が注目されています。

水素は、電気を使って水から取り出すことができ、石油などの化石燃料、下水汚泥^{おでい}、使い終わったプラスチックなど、さまざまな資源からつukることができます。また、水素は、酸素と結びつけて発電したり、熱エネルギーに変えることができますが、そのとき、温室効果ガスを排出しません。

このため、水素自動車など、水素をエネルギーとして活用する研究が始まっています。

※1 持続可能な：環境を維持し自然資源をなくすことなく、将来世代に引き継ぐことができること。

② 淡路島のエネルギーの自給自足

淡路島のエネルギー（電力）自給率は、2024年（令和6年）で約62%ですが、太陽光や風力などの再生可能エネルギー創出に取り組むことにより、2050年（令和32年）には100%をめざしています。

西風を生かした風力発電

淡路島西岸部の風を活用し、風力発電を行っています。



南あわじ市阿那賀地区(2,500kw×15基)



淡路市野島地区(2,000kw×6基)

淡路市野島地区の風力発電所では、約6,500世帯分の電気を作ることができるニャー。

南あわじ市阿那賀地区の風力発電所では、約12,000世帯分の電気を作ることができるニャー。

豊かな日照を生かした太陽光発電

一年を通して晴れる日が多い瀬戸内気候を活かして、大規模な太陽光発電所が多数設置され、発電を行っています。



淡路市野島貴船地区
(30MW)



住民参加型くうみ太陽光
発電所(1MW)



龍谷フロートソーラーパーク
洲本(1.7MW)

淡路島では太陽光による発電容量が、2017年（平成29年）末には全体で130メガワットを超えました。

③ 環境にやさしい乗り物

淡路島には、鉄道がなく、公共交通機関が十分ではありません。そのため、住民の移動手段は、自動車が中心となっています。現在、多くの自動車は、二酸化炭素の排出量が多いガソリンなどの化石燃料で走っています。そこで淡路島では、より二酸化炭素の排出量が少ない、環境にやさしい電気自動車の導入を進めています。

	自動車が1km走る間に排出される二酸化炭素の量	エンジンの騒音	振動
電気自動車 (1kwhあたり9km走る車)	44.6g	ほとんどない	ほとんどない
ガソリン車 (1Lで20km走る車)	115g	ある	ある





淡路島は、^{おんだん}温暖な気候で^{にっしやうりやう}日照量が多く、西風が吹いているニャー。
これらの地理的^い特性を活かし、使われていない土地を使ってエネルギーの
自給自足に向けた取組が進められているから調べてみるニャー。

様々なバイオマスの利用

菜の花油などの食用油や、動物
や植物などから生まれた生物^し資源
(バイオマス)を活用して燃料など
に利用し、資源のリサイクルを行っ
ています。



家庭から回収された食用油

洲本市^{おんよくし}五色町都志の^{せつ}温浴施設には、全国的にも珍しい竹を燃やして
^{きゆうとう}給湯する「竹チップ^{ちくりん}焚きバイオマスボイラー」が設置されています。

放置^{ちくりん}竹林が増えると、イノシシなどの野生動物の住みかになって
農作物への被害が広がるので、竹林を整備して切った竹をエネルギー
として活用しています。



竹チップ焚きバイオマスボイラー



淡路島の放置竹林



☀️…主な大規模太陽光発電所
🌪️…主な風力発電所

※電気自動車の二酸化炭素排出量は、関西電力(株)
による二酸化炭素排出係数(2023年度)により
算出しています。

※ガソリン車の二酸化炭素排出量は、1Lあたりの
二酸化炭素排出量を2.3kgとして算出しています。



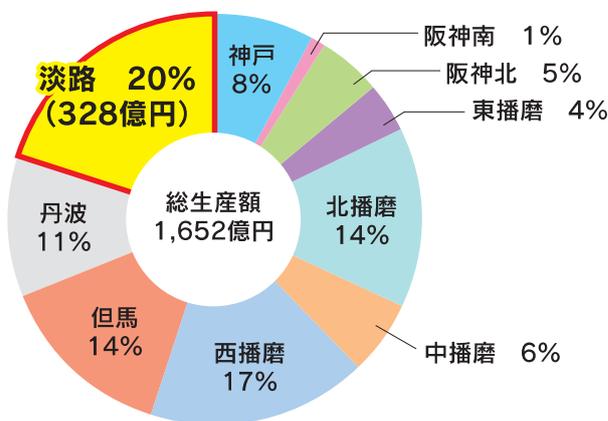
電気自動車

(3) 農漁業生産で生きる島

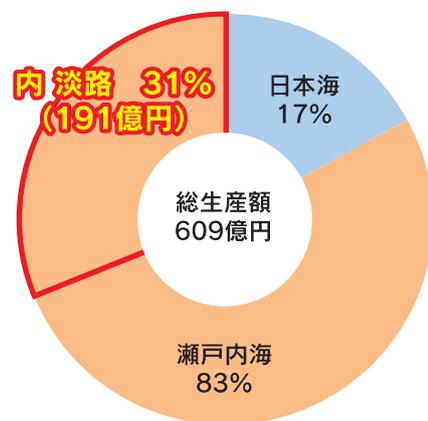
① 特産品の魅力を発信

淡路島は多くの農水産物を朝廷に献上していたので「御食国」と呼ばれていました。このことから古くから農水産物が豊富であり、おいしい食材が多かったことが分かります。現在も、県内の農業生産額の約1/5、漁業生産額の約1/3を産み出しており、淡路島の食料自給率は100%を超えています。温暖な気候風土で、多くの農漁業者がいる淡路島だからこそできるのです。しかし、淡路島の食材の魅力が島外の人たちに十分に知られていません。

そのため、島内外の多くの人に食べてもらい、知ってもらえるように淡路島の特産品の魅力を発信していく必要があります。



兵庫県内の農業生産額割合 (2023年)
(出典:市町村別農業産出額を基に作成)



兵庫県内の漁業生産額割合 (2023年)
(出典:洲本農林水産振興事務所の資料を基に作成)



・淡路島の特産品

淡路島の特産品については46・47ページに載っています。淡路島の特産品の魅力を調べてみましょう。

・新しい淡路島ブランドを育てる

淡路島えびす鯛

海に囲まれた淡路島。その潮の急流の中で育った鯛は、身が引き締まり、脂がのって非常においしいのが特徴で、飲食店、漁業者、行政など、地域が一体となって「淡

路島えびす鯛」としてブランド化に取り組んでいます。

鯛本来の上品で淡白な味わいをいかす活け造りや、那智黒石を敷き詰めた宝楽鍋で蒸し焼きにした宝楽焼きなどが有名です。

淡路島3年とらふぐ

淡路島の南端、福良湾では、3年とらふぐを淡路島ブランド※1にする取組が行われています。

「淡路島3年とらふぐ」は、鳴門海峡の潮流が生み出すミネラル豊富な漁場で、通常2年で育てるところを、3年の歳月をかけて育てられます。国内産の稚魚のみを大切に育てることで、より引き締まった身となり、ひと味ちがう濃厚な旨味・歯ごたえがあります。

しかし、水温の大きな変化で病気になる事もあり、稚魚を35,000匹育てても、3年後には約半分になってしまいます。

生産者は、ふぐを大きな生け簀でのびのびと泳がせ、水温に気を使いながら大切に育てています。



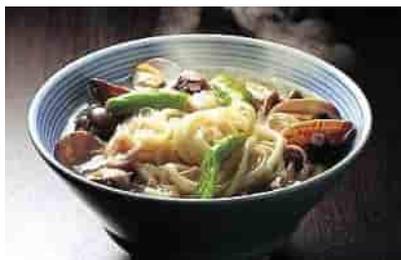
1・2年もの比べると大ききの違いは歴然！

・淡路島ブランドを全国に！

淡路島の農畜水産物をつくる人、商品に加工する人、商品を売る人、さらにホテルや旅館が一体となって、淡路島を魅力的にするとともに、京阪神などの大きな都市の人々にも淡路島ブランドを知ってもらう取組が行われています。例えば、神戸や大阪などで淡路島フェアを開催しています。



淡路島バーガー



淡路島ぬーどる



生しらす丼



生サワラ丼



淡路島牛丼

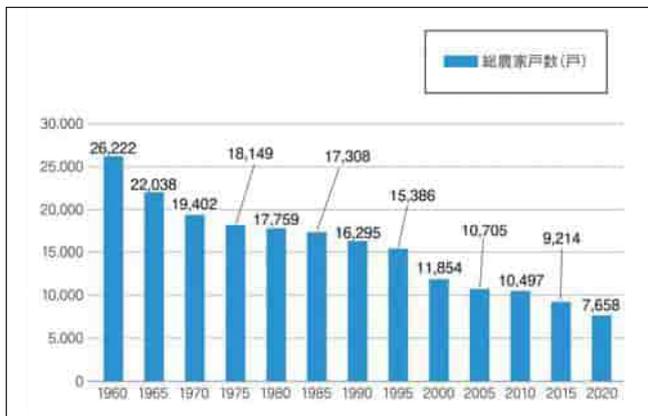


牛乳

※1 ブランド：同じような商品を他のものと区別すること。ブランド化することで、地域の信頼と知名度をあげ、商品の価値を高めることができます。

② 農業をはじめの人たち

淡路島の特産品が知られてきている一方で、農業をしている人の高^{こうれい}齢化が進み、遊休農地^{きゅういしや}*¹が増えています。これは、農業の後継者が不足していることが原因です。深刻な後継者不足を解決する取組を調べていきましょう。



淡路島における農家戸数の推移
(出典：農林水産省のHPを基に作成)



淡路島における農業従事者数に対する高齢者の割合の推移
(出典：農林水産省のHPを基に作成)

淡路島における遊休農地 370ha
(農地法に基づく遊休農地の利用状況調査より)
東京ドームに換算すると……約79個分!!



遊休農地



・農業にチャレンジする人たち

淡路市北部では、国・県により農地開発が行われたところがあります。しかし、高^{むずか}齢化や後継者不足によって、その農地の活用が難しくなり、現在は多くの土地が遊休農地等になっています。このような遊休農地等を活用し、農業の^{きぎょう}にない手を育てようとする取組が民間企業で行われています。

この民間企業では、島内外の農業をしたい人たちが集まり、淡路島で農業を体験し、実際に淡路島で野菜等を栽培しています。

・将来の農業をになう人たち

淡路島には農業を教える大学があります。この大学では、これからの農業を支える人を育てるために、農業生産の技術のほか、加工や販売^{はんばい}なども含めた6次産業化(53ページに記載)に必要な幅広い知識と技術を教えています。これも淡路島の豊富な自然があればこそ学ぶことです。

※1 遊休農地：農地法(農地の保護や権利に関する法律)によって定められた、現在そして将来的に耕作の見込みがない農地のこと。

③ これからの農漁業

農業、漁業ともに大きな課題は、仕事内容と収入しゅうにゅうのバランスです。現在は、少量多品目の農水産物では販売先はんばいがない状況じょうきょうにあります。他にも機械化が進み燃料や修理にお金がかかっています。そこで、より安定した収入を得るための6次産業化の取組を進めています。また、農業機械はいしゆつが排出する温室効果ガスの量を減らす取組も進めています。

・農漁業の6次産業化（53ページの6次産業を参照）

・地域ちいきでとれたものを地域で食べる、地産地消

児童数の減少などで閉校へいこうした島内の小学校を改築して、レストランができました。このレストランでは、近隣きんりんの農場で生産された農産物の加工品や料理を提供ていきょうし、商品の開発や流通、販売と観光をつなげる取組を行っています。

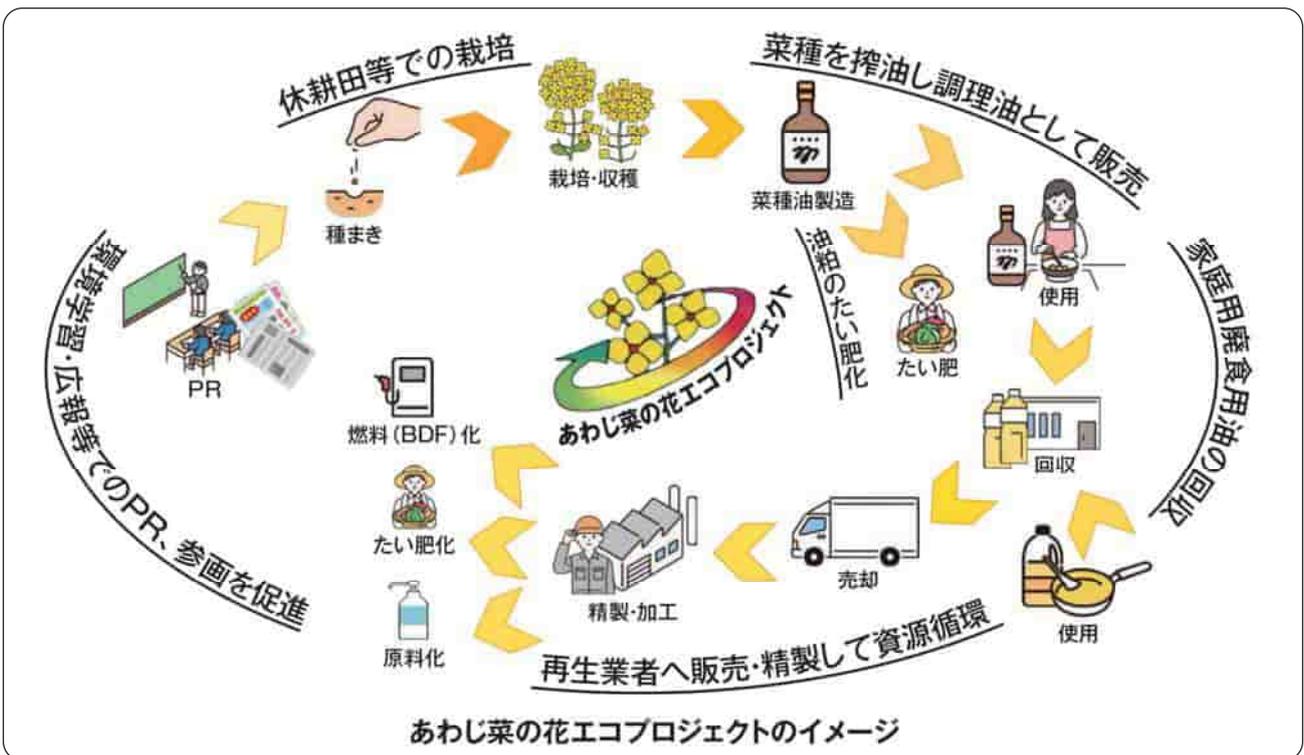


地域活性化のシンボルとして、同様の課題を抱える全国の市町村から注目されているニャー。

・資源循環型モデルの実践

淡路島内で進むあわじ菜の花エコプロジェクトの取組は、休耕田などに菜の花を植え、実ったナタネを収穫し、「ナタネ油」をしばって天ぷらなど食用として利用します。そして、使用したナタネ油や食用油を回収し、BDF（バイオディーゼル燃料）などに再資源化するプロジェクトです。

精製したBDFを、自動車や農業機械などの燃料として再利用することで、温室効果ガスの削減につながります。



農地に侵入するナルトサワギク

特定外来生物※3に指定されている「ナルトサワギク」が淡路島で大繁殖しています。埋め立て地や空き地、そして耕作放棄地にも侵入しています。

ナルトサワギクは、日本では1976年（昭和51年）に徳島県鳴門市で初確認され、1986年（昭和61年）に淡路島で採取されました。埋め立て地の緑化に使うために輸入した植物の種子に混入して広まったと考えられています。

黄色の花を1年中咲かせることができ、種子を風によって拡散させるなど繁殖力が高く、日本にもともといた生き物などの生育地を奪っています。また、牛や馬などの家畜が食べると中毒症状を起こす成分を含んでいます。淡路島の農業や景観に大きな影響を与えるナルトサワギクをこれ以上広げないために、見つけたら防除活動に取り組みましょう。

【ナルトサワギクの防除の仕方】

- ① 根元から引き抜く
- ② 種子の飛散防止のため、その場で二重にした袋に入れる
- ③ 袋ごと「燃えるごみ」として焼却処分する



※1 参画：事業などの計画に加わること。

※2 協働：同じ目的のために、ともに力を合わせて活動すること。

※3 特定外来生物：人間によって持ち込まれた外来生物のうち、日本にもともといた生き物や農林水産業などに悪い影響を与えるもの。

(4) 都会にない価値観とくらしやすい淡路島

① 地域資源を活かした地域づくり

・定住人口の減少をおさえ、交流人口の増加を

日本の多くの農山漁村と同じように淡路島でも人口^{※1}が減少し、活力が失われる心配があります。そこで、定住人口をなるべく減らさないようにするとともに、観光で訪れる人や島外から移り住む交流人口を増やすことが必要です。



【淡路島での活動】

農業体験などを行い、移住のお手伝いをしています。



【東京での活動】

淡路島の暮らしやすさを東京で情報発信しています。

・淡路島の地域資源

淡路島にはすばらしい地域資源^{※2}がたくさんあります。たとえば、温暖な気候、美しい景色、古い街並み、歴史と文化、おいしい食べ物などです。また、ゆっくりとした時間の流れや、人々の温かさなども地域資源といえます。



神戸、大阪、徳島に近いことも魅力の一つだニャー。

※1 人口：その地域に住んでいる人のことをさす定住人口と、その地域を訪れたり滞在したりする交流人口とがあります。定住人口と交流人口を合わせた人口を増やすことが、地域の活性化につながっていきます。

※2 地域資源：その地域にしかない特色のあるものや人のこと。

・地域資源を活かした活性化

淡路島各地では、さまざまな地域資源を活かし、地域を元気にするための取組が行われています。また、となりの地域とも一緒になって、地域の魅力を発信しています。

洲本市五色地区

洲本市五色町を中心に、地域住民と大学とが一緒になって、地域課題の解決や地域づくりに継続的に取り組む「域学連携事業」を行っています。

これまで、ため池に太陽光パネルを設置したり、かいぼりツアーなどを行ってきました。

2016年（平成28年）には、洲本市五色町^{あいはらしも}原下地区にある古民家を改修して、活動拠点「ついでほん」ができました。



かいぼり



ついでほん

（特定非営利活動法人洲本域学連携研究所スタッフの話）

今後、「ついでほん」を中心に地域住民と大学が協力して、地域資源を活かした地域活性化に取り組んでいきたいです。

南あわじ市沼島地区

沼島には、1950年代の日本の姿が残っています。歴史や自然があふれ、「人のつながり」もあり、都会にはない魅力を持っています。

2013年（平成25年）

には、古民家を改修し、沼島の情報を発信する総合観光案内所「吉甚」ができました。

「吉甚」に遊びに来る地元の中学生は、「沼島が都会の人から見れば『宝の島』である」ことに気づき、「島を誇りに思うようになった」そうです。



淡路島から見た沼島



吉甚

沼島には、地域資源がたくさんあるので、住みやすい島になるよう活用していければと思います。

（沼島総合観光案内所「吉甚」スタッフの話）

淡路市五斗長・生田・長澤地区

五斗長地区には全国的にもめずらしい鉄器づくりを行っていた五斗長垣内遺跡があります。この貴重な遺跡を地域資源として、古代体験やイベントを行っています。さらに、食事や交流ができる施設もでき、年間7千人が訪れています。



自然薯

（他の山芋と比べて風味、ねばりが強いのが特徴）

近くにある生田地区では、美しい風景の段々畑にソバが栽培されています。使われなくなった保育所を改装して「手打ちそば」の店を開いたところ、年間1万人も訪れる人気店となり、地域の活性化に役立っています。

また、となりの長澤地区でも、1メートルを超える自然薯を使った食堂を開き、地域特産物を宣伝するイベントも行っています。

この三地区をのんびりと周遊してもらいながら、地域の魅力を再発見してほしいです。

（3地区連携推進協議会スタッフの話）



五斗長垣内遺跡



そば花

② 淡路島らしい仕事づくり

島内各地で農業、観光、地場産業などを活かした仕事や、新しい働き方を考える動きが生まれています。

・都会にない価値観を求めて、島に移住した人たち

淡路島は温暖な気候で景色が美しく、都会にはない魅力がたくさんあります。そうした都会にない価値観を求めて、淡路島に移住する人たちがいます。淡路島に移住しやすいように、相談窓口を開くなどの取組が行われています。



あなたの淡路暮らしを本気で応援ツアー

・働きたいすべての人たちに、働く場づくり

すべての人たちには、それぞれの力を活かすことのできる「役割」や「仕事」があると考え、障がい者・働く意欲のある高齢者・引きこもりの青少年などにも、はたらし方を考え、仕事をつくったり、関係者をまとめたりしている団体があります。

また、島外からの移住希望者の支援を行っている団体や、淡路島でくらす人々が、個人の世界観を広げ、心豊かな生活ができることをめざしている団体もあります。

参考：

NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路



NPO法人あわじFANクラブ



NPO法人淡路島アートセンター



③ 高齢者にやさしい島

島内の人口が減少する一方で、高齢者は年々増加しており、人口に占める65歳以上の高齢者の割合は今後ますます高くなっていきます。また、高齢者の一人ぐらしや夫婦だけの世帯も今後増加していくと予想されています。このため、高齢者が、住み慣れた地域で健康で安心して生活できるまちづくりを進める必要があります。

・高齢者の健康・居場所づくり（いきいき百歳体操）



いきいき百歳体操

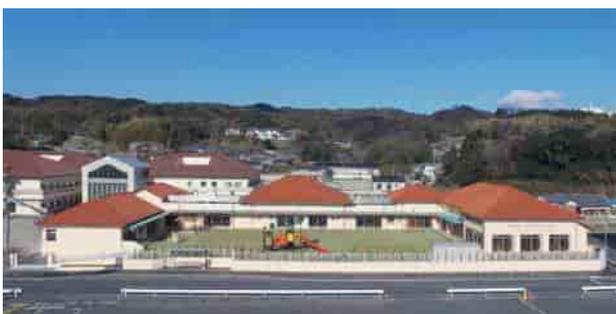
いきいき百歳体操は、おもりを手首や足首につけて行う筋力運動です。おもりは2kgまで調整が可能なので、その人の筋力や体力に合わせて行うことができます。いすに座ってゆっくりと手足を動かしていきます。

高齢者の歩く力を高め、骨を折って寝たきりになることを予防するため、島内各地で取組が進められています。

【実施場所：311か所（2025年12月末現在）、登録者：5,867人（2025年3月末現在）】

・複合型福祉拠点の整備

旧県立淡路病院の跡地を活用し、特別養護老人ホーム、障がい者多機能型事業所※1などを備えた複合型福祉拠点※2や認定こども園が整備されました。高齢者や、障がい者、子ども達が安心してくらするまちづくりが進められています。



洲本市立なのはなこども園・特別養護老人ホーム「くにうみの里」

・安心してくらする地域づくり

高齢者がいつまでも安心して、住み慣れた地域にくらしていけるように、自動運転の自動車を走らせたり、ドローンで物を運んだりすることができる新しい技術を使ったまちづくりに取り組んでいます。



自動運転実験車両（淡路市夢舞台）



高齢者や障がい者が、福祉サービスを受けながら、地域の人々や子ども達とも交流できる拠点となるニャー。



- ※1 多機能型事業所：障がい者通所支援（デイサービスや訪問支援など）及び障がい福祉サービスのうち、2つ以上の事業を一体的に行う事業所。
- ※2 複合型福祉拠点：高齢者、障がい者、地域住民などが一緒に利用できる福祉施設。福祉の種別を超えて必要な福祉サービスが受けられるように集約された福祉サービスの拠点。

(5) これからの淡路島を考える

わたしたちにできること



みんなが考える淡路島にするためには何ができるかニャー？
実際に体験した人の感想も聞いて考えてみるニャー。

これまで、わたしたちの住む淡路島の将来^{しょうらい}について考えてきました。ここでは、実際にあわじ環境未来島構想^{かんきょう}の取組を見学した人たちの感想を見てみましょう。そして、わたしたちにできることは何か、考えてみましょう。

淡路島の人が減っているの
におどろいた。

(淡路市小学3年生)

五斗長垣内遺跡^{ごっさかいといせき}で、まが玉を
作るのが楽しかった。

(洲本市小学3年生)

淡路風力発電所を見学して、
風力発電をもっと増やしてエ
コに発電してほしいと思った。

(南あわじ市小学5年生)

チャレンジファームを見学して、
淡路島で農業をする人は少なくな
ってきているので、農業をや
りたい人を育てたり、応援する
ことは大切なことだと思った。

(南あわじ市小学4年生)

のじまスコーラを見学して、
もともと小学校だった所が、
レストランになっていたこと
におどろいた。

(淡路市小学5年生)

菜の花エコプロジェクト
を見学して、BDFがいろ
いろな所で使われていて、
びっくりした。

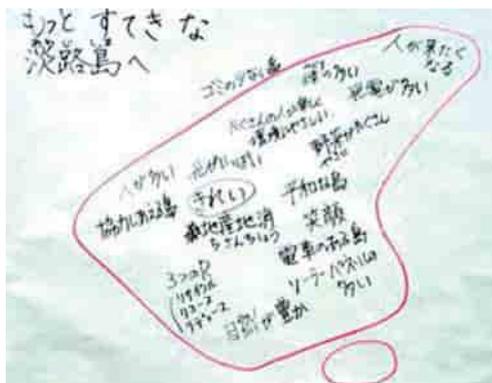
(淡路市小学5年生)

あわじメガソーラー1を見学して、もっと
太陽光発電が増えたらいいと思った。

(洲本市小学6年生)

電気自動車はとても静かでおどろいた。

(南あわじ市小学4年生)



学校紹介（令和8年度）

- | | | |
|---|------------------|-----|
| 1 | 洲本市内の公立小・中学校 | 135 |
| 2 | 南あわじ市内の公立小・中学校 | 138 |
| 3 | 淡路市内の公立小・中学校 | 142 |
| 4 | 淡路島内の高等学校・特別支援学校 | 146 |

洲本市

洲本市立洲本第一小学校

住所 洲本市宇山一丁目1番37号

沿革

- 明治20年 築地町江国寺を仮校舎とし、津名高等小学校と称して創立
- 昭和4年 洲本町宇山に移転・建築（現、洲浜中学校地）
- 昭和22年 洲本市立洲本第一小学校と改称
- 昭和28年 現在地に建築



学校の特徴

校歌の歌いだし「♪清き洲本の川水に 根ざしうるおう学び草」のように、川や海とともにある本校は、長い歴史の上に立ち、地域に根ざした教育を行ってきました。特に炬口漁協の協力を得た地引き網体験、ヒラメの稚魚放流、タコつぼ漁や海岸清掃は、命のつながりや環境問題への考察と食育につながり、ふるさと淡路を強く意識づけるものとなっています。「学び草」たちは、〈す〉ずんであいさつ、〈い〉のちを大切に、〈ち〉ャレンジする子として「♪いづれおとらず萌えいでて 教えの園に」今日も元気に「♪茂るなり」。

洲本市立洲本第二小学校

住所 洲本市山手二丁目1番51号

沿革

- 寛政10年 阿波藩、洲本学問所を創立
- 明治6年 第12大区1番小学校創立（5月）
- 明治6年 日進小学校と改称（6月）
- 大正2年 洲本第二尋常小学校と改称
- 昭和11年 船場町525番地へ新築移転
- 昭和22年 洲本市立洲本第二小学校と改称
- 昭和39年 洲本市汐見町に移転（洲本実業高等学校跡地）
- 昭和48年 学校創立百周年記念式典を挙行
- 昭和63年 校舎増改築・食堂竣工
- 平成21年 屋内運動場耐震補強
- 平成24年 プール改修完了



学校の特徴

城下町洲本のお膝元の学校として地域との触れあいやつながりを大切に、伝統文化を学び、発表の場を大切にしています。支え合い学び合いながら成し遂げる力、自分で感じ考え判断する力、自分も他者も大切にできる児童の育成に取り組んでいます。

洲本市立洲本第三小学校

住所 洲本市物部一丁目1番49号

沿革

- 大正9年 洲本町立洲本第三尋常高等小学校創立
- 昭和22年 洲本市立洲本第三小学校に改称
- 昭和41年 創立記念日を4月25日に設定
- 昭和43年 校訓「たたく やさしく たくましく」を制定
- 平成8年 南校舎増築・管理棟大規模改修
- 令和2年 創立100周年記念式典挙行



学校の特徴

本校は、洲本の中心部にあり、淡路島内で一番児童数が多い学校です。自分の夢の実現に向けて、力強く生きる力を育むことをめざしています。楽しい行事も多く「ふれあいタイム」では、スポーツや様々な文化活動を地域の方が教えてくれます。11月には「ふるさとふれあいまつり」があり、地域の人たちと楽しい催し物をして交流しています。また、学校のマスコット「夢す〜さん」が運動会などの学校行事に登場します。

洲本市立加茂小学校

住所 洲本市下内膳470番地

沿革

- 明治8年 鴨村小学校創立
- 昭和23年 洲本市立加茂小学校と改称
- 昭和52年 校地内より弥生式土器出土



学校の特徴

洲本市の中心部に位置し、淡路富士先山の麓、豊かな自然環境に恵まれた田園地帯に校区が広がっています。3年生は、環境体験学習に取り組み、地域の方のご協力を得て四季折々の先山に里山探検に行き、植物や昆虫の観察、里山の散策を通して、地域の自然を満喫しています。4年生は、社会福祉協議会の方々にご指導ご協力いただき、アイマスク・車イス・高齢者擬似体験や、点字・手話学習など、さまざまな体験をすることで、福祉についての理解を深めています。また、地域の方々にご指導いただき、豊かな体験活動とキャリア教育の充実を図っています。

洲本市立大野小学校

住所 洲本市大野318番地

沿革

- 明治11年 大野小学校創立
- 明治20年 大野尋常小学校と改称
- 明治21年 大野簡易小学校と改称
- 明治37年 大野尋常高等小学校と改称
- 昭和8年 洲本町立大野尋常高等小学校と改称
- 昭和15年 洲本市立大野尋常高等小学校と改称
- 昭和16年 洲本市立大野国民学校と改称
- 昭和22年 洲本市立大野小学校と改称
- 昭和53年 学校創立百周年記念式典を挙行



学校の特徴

「あかるく なかよく たくましく」が伝統の校是。体験を学びと実践に活かしながら人格を形成する教育が目標です。対話を繰り返して多様な価値観に触れて思考を広げ、相手の立場に立った表現の術を磨く学習活動の展開を図るとともに、「ふるさと」の課題を見つけ、解決する人材育成をめざし、地域との連携を進めています。

洲本市立由良小学校

住所 洲本市由良三丁目3番43号

沿革

- 明治7年 進修小学校創立
- 昭和30年 洲本市立由良小学校と改称
- 平成20年・令和2年 グリーンスクール表彰受賞
- 平成21年 自然環境功労者大臣賞受賞
- 平成26年 新校舎完成
- 平成30年 体力アップスクール表彰受賞
- 令和3年 学校歯科保健優秀校受賞



学校の特徴

社会や自然とのつながりを大切に、児童一人一人の豊かなこころと生きる力を培う学校教育を推進しています。

1分ほど船に揺られると、本校の環境体験学習フィールド「成ヶ島」があります。夏にはハマボウの花が咲き乱れ、ハクセンシオマネキは大きなはさみで私たちを出迎えてくれます。

身近な自然に興味を持ち、自然の仕組みや働きに理解を深める体験的な活動と、自然を守り、研究している「成ヶ島を美しくする会」の人との共同活動は、子どもたちの豊かなこころを育んでいます。

洲本市

洲本市立中川原小学校

住所 洲本市中川原町中川原988番地
沿革

- 明治26年 中川原尋常小学校創立
- 大正15年 中川原組988番地に校舎移転
- 昭和29年 洲本市立中川原小学校と改称
- 平成4年 創立100周年記念式典開催



学校の特徴

本校では、田植えや稲刈りなど、地域の方々の協力を得て、小規模校ならではの魅力あふれる体験活動を行っています。この体験活動を通して、児童は地域の方々とのつながりを深め、故郷のよさに気づき、環境や命の大切さについても学んでいます。

また、本校の30年来の伝統として、1人1台一輪車活動、特別活動の「中っ子活動」があります。縦割り班活動で、児童会、運動会、長縄大会などを行っています。6年生が率先して動き、低学年の児童と協力しながら活動する中で、仲間づくりを進めています。体験活動をはじめ、異学年間での教え合いや支え合いが「中っ子」の自信ややる気の向上、思いやりの心の育成につながっています。

洲本市立安乎小学校

住所 洲本市安乎町平安浦445番地
沿革

- 明治6年 演習校・平安校創立
- 明治24年 安乎尋常小学校
- 昭和30年 洲本市立安乎小学校と改称
洲本市に合併
- 平成2年 校舎改築竣工
- 平成25年 校舎大規模改修



学校の特徴

洲本市の北東部に位置し、校区は、海・川・山等の豊かな自然に恵まれ、住宅地域と農村地域があります。

本校では、全校生を縦割りにした「なかよし班活動」という異年齢集団での仲間づくりや様々な体験活動を通して命の大切さを学んでいます。6年生をリーダーに、なかよし班ピクニックや春から秋にかけて、サツマイモの栽培、収穫祭等を実施しています。また、給食や清掃も時期を決めて行い、業間なわとびでも班ごとに、大なわを交代で跳んでいます。これらの活動から、心豊かな「あいがっ子」の育成をめざしています。

洲本市立都志小学校

住所 洲本市五色町都志万歳919番地
沿革

- 明治6年 村立都志小学校を創立
- 昭和16年 都志国民学校と改称
- 昭和31年 五色町立都志小学校と改称
- 昭和39年 三木市志染小学校との交歓会開始
- 昭和49年 創立100周年記念式典・新校舎の落成
- 平成18年 洲本市立都志小学校と改称
- 平成22年 校舎大規模改修工事



学校の特徴

淡路島の西海岸中央部に位置し、海と山と田園という自然に恵まれた都志小学校は、江戸時代後期、択捉島への航路を開き、北洋漁業の基を築いた高田屋嘉兵衛の郷里であり、作家 阿久悠が育ったところでもあります。町には都志川が清く流れ、そのほとりにつた本校は、明治6年創立以来の歴史と地域の方々の温かいご理解とご支援のもと、ふるさと都志を愛する子どもたちを育んでいます。また、昭和39年から三木市立志染小学校と半世紀を超える交歓会も行っています。

洲本市立鮎原小学校

住所 洲本市五色町鮎原南谷559番地
沿革

- 明治7年 延長寺に培根校を創立、天神校と改称
- 昭和22年 6・3制実施に伴い、鮎原小学校と改称
- 平成18年 洲本市立鮎原小学校と改称



学校の特徴

本校は「自分にチャレンジ みんなで笑顔」を合言葉に、児童のみならず教職員を含め共通理解するとともに、学校の教育活動について保護者・地域の皆様に「あんしんネット」を通じてお知らせすることにより、『共に育む＝共育』を推進しています。

特色ある取組として、体育会等の行事において児童が中心となって企画・運営する場面を多く創出することにより、児童の自己有用感を高めるとともに、他者との協力を育んでいます。また、地域の課題、例えば環境問題に対する意識も高めています。さらに、日常における学校生活においても、「学校のきまり」を児童たちが考えることにより判断力や表現力の実践的な応用力を高めようとしています。

こうしたキャリア教育を意識した取組や日々の実践をとおして、主権者としての意識を高め、こころ豊かな社会形成者を育むことをめざしています。

洲本市立広石小学校

住所 洲本市五色町広石下961番地
沿革

- 明治7年 持明寺に広石小学校を創立
- 明治37年 広石尋常高等小学校
- 昭和16年 広石国民学校
- 昭和22年 広石村立広石小学校と改称
- 昭和31年 五色町立広石小学校と改称
- 平成17年 新校舎完成
- 平成18年 洲本市立広石小学校と改称



学校の特徴

広石小学校の朝は、子どもたちが鳴らす「広石の鐘の音」で始まります。学校の周りは、緑豊かな里山と美しい田畑がひろがっています。地域の方は協力的で、いっしょに米や野菜を作ったり、広石小唄を演奏して踊ったりします。冬には校内ロードレース大会や竹馬大会があり、楽しく活動しています。

広石地区は、日本十大発明家の一人「三島徳七博士」が生まれ育ったところ。子どもたちも博士に続くよう勉強に運動にがんばっています。

洲本市立鳥飼小学校

住所 洲本市五色町鳥飼中309番地
沿革

- 明治6年 養知小学校を創立
- 昭和22年 鳥飼村立鳥飼小学校と改称
- 昭和31年 五色町立鳥飼小学校と改称
- 平成18年 洲本市立鳥飼小学校と改称



学校の特徴

本校の児童は、「雄々しきふなこ」として、明るく、素直で真面目な子が多く、体を動かすことが大好きです。児童会活動も活発で、縦割り班活動で異年齢同士が、仲良く交流し、思いやりの心を育んでいます。また地域と結びつきが強く、地域の方々に講師に引き、体験活動を通じた学びを深めています。また、ICT機器を活用して島内、県外の学校とオンライン交流にも積極的に取り組み、お互いの地域の特色を紹介し、ふるさとのよさを再発見しています。

長年培ってきた伝統の継承と新しい可能性を追求しつつ、地域のよさを知り、地域を担う人材として貢献できるよう学び続けています。

洲本市

洲本市立堺小学校

住所 洲本市五色町上堺25番地1

沿革

- 明治8年 堺村立格致小学校創立
- 昭和22年 堺村立堺小学校と改称
- 昭和31年 五色町立堺小学校と改称
- 平成18年 洲本市立堺小学校と改称

学校の特徴

堺小学校では、全校児童が朝の活動の時間に、4年生以上の児童は体育の授業時間にも、一輪車の練習に励んでいます。そして、4年生以上の児童は、体育会で保護者や地域の方々に演技を披露します。体育会では、観客から惜しめない拍手が送られ、児童の大きな自信となっています。

また、地域の方々に協力していただき、環境体験や食育を行っています。籾まきから田植え、稲刈り、脱穀までを自分たちで行う米作り、季節を感じる野菜作り、校庭での花の栽培などを年間通じて行っています。他にも、近くの農園でいちご狩り、玉ねぎの収穫を体験させていただいています。これらの体験を通して、児童の豊かな心の育成に取り組んでいます。



洲本市立洲浜中学校

住所 洲本市塩屋二丁目5番2号

沿革

- 昭和22年 洲本市立洲本第一中学校創立
- 昭和23年 洲本市立洲浜中学校と改称
- 昭和25年 野球部全国優勝
- 昭和54年 県基礎学力推進校指定
- 平成8・9年 県福祉体験活動推進校指定
- 平成17・18年 県食育推進モデル校研究指定
- 平成22・23年 「ことばの力」育成事業研究指定
- 平成23年 校区に中川原地区が加わる
- 令和2～4年 県学校安全(防災)推進事業研究指定

学校の特徴

昭和40年度の学校経営方針「気品高く、力強い校風」は卒業生を始め在校生、教職員、保護者に引き継がれ「気品と力」が本校教育のキャッチフレーズとなっています。

校訓にある「自主・向上・明朗・奉仕」をめざす生徒の姿として、学校教育目標達成に向け教職員が心一つにして、保護者等と共に努力を重ねています。また、体育会や文化祭などの学校行事は、生徒自らが主体的に運営し、仲間とともに全力で取り組む姿勢は本校の伝統となっています。



洲本市立青雲中学校

住所 洲本市物部3丁目10番1号

沿革

- 昭和23年 洲本市立青雲中学校創立
- 昭和55年 新校舎竣工
- 平成16年 耐震・大規模改修工事
- 平成22年 太陽光発電システム設置
- 平成25年 学校給食実施
- 平成27年 エレベーター設置工事
- 平成30年 創立70周年記念式典

学校の特徴

「主体的に自らの力を高めようとする生徒の育成」を重点目標とし、生徒が自ら進んで考え、何事にも意欲的に行動する「生徒主体の教育活動」を推進しています。

また、「道徳教育・人権教育・特別支援教育」を重点努力事項に据え、こころ豊かな生徒の育成に取り組んでいます。併せて、あらゆる場面でのICT活用を進め、これからの社会で求められる情報活用能力の育成に重点的に取り組んでいます。



洲本市立由良中学校

住所 洲本市由良町由良2355番地1

沿革

- 昭和22年 津名郡由良町立由良中学校創立
- 昭和30年 洲本市立由良中学校と改称
- 昭和47年 上灘中学校と統合
- 平成24年 校舎大規模改修工事

学校の特徴

目の前に広がる成ヶ島は、天橋立のように由良の町をすっぽりと取り囲んでいます。南北に連なる島影は、自然の防波堤として、また自然の動植物の宝庫としても特に有名で、夏には多くの観光客でにぎわっています。この成ヶ島にゴミが放置されたり、湾内におびただしいゴミが漂着することも多くみられるようになってきました。そこで、「成ヶ島を守ろう!」と、三十数年前から町をあげて清掃活動に取り組んできました。本校も、毎年、保護者や地域の方々と一緒にこの運動に参加しています。清掃活動を通して、身近にある豊かな自然に気付き、その自然を守るとともに、後世に伝える責任を自覚し、自ら積極的に関わっていく生徒の育成をめざして、教育活動を行っています。今後も「自然を愛し、ふるさとを思い、命を大切にする生徒」を育てていくことを目標としています。



洲本市立安乎中学校

住所 洲本市安乎町北谷1169番地2

沿革

- 昭和22年 津名郡安乎村立安乎中学校創立
- 昭和30年 洲本市立安乎中学校と改称
- 昭和36年 校舎焼失
- 昭和37年 新校舎完成
- 昭和61年 屋内運動場落成
- 平成3年 新校舎建設予定地の造成
- 平成4年 新校舎竣工式

学校の特徴

本校は、洲本市北東部の丘陵地帯に位置する緑豊かで自然環境に恵まれた地域が校区です。学校・家庭・地域社会の結びつきが強く、学校教育への期待が大きいです。生徒のほとんどは幼少期からの幼馴染でお互いに気心が知れる集団であり、純朴で素直な生徒が多いです。学校の活性化と同時に地域の活性化を図るために保小中合同運動会、合同防災訓練、安乎派クリーン作戦、ふるさと学習などに積極的に取り組んでいます。



洲本市立五色中学校

住所 洲本市五色町広石北125番地

沿革

- 昭和44年4月 五色町立五色中学校創立
- (都志・鮎原・五色丘中学校の3校を統合)
- 平成18年2月 洲本市立五色中学校と改称

学校の特徴

五色中学校は、淡路島の西海岸中央部、洲本市五色町広石北に位置しています。校区は、5つの小学校区にまたがり、東西9.25km、南北9.13kmと広く、一部は西浦海岸に面しており、瀬戸内海国立公園に指定されるなど豊かな自然が維持された環境にあります。

幕末の豪商高田屋嘉兵衛翁や三島徳七博士を輩出した地であり、教育に対する地域住民や保護者の関心は高く、学校教育にも大きな期待を寄せています。生徒は明るく純朴で、学習にも熱心に取り組んでいます。また、挨拶や奉仕活動をいわず取り組むことが出来る反面、自分の考えや態度については、人前で自信をもって表明することを苦手とする者が多く、コミュニケーション能力の育成をめざしています。



南あわじ市

南あわじ市立倭文小学校

住所 南あわじ市倭文庄田250番地

沿革

- 明治10年 庄田小学校創立
- 昭和32年 緑村立倭文小学校と改称
- 昭和35年 緑町立倭文小学校と改称
- 昭和52年 創立100周年式典挙行
- 平成17年 南あわじ市立倭文小学校と改称



学校の特徴

淡路島のほぼ中央部に位置し、地名にもなっている倭文織り(しづおり)と呼ばれる美しい織物を作ることが盛んな地でした。

本校では、「倭文織(しづおり)活動」と「ふくちゃん祭り」という特色ある活動を行っています。倭文織活動では、自作の織機を使って、高学年の児童が低学年の児童に縦糸の掛け方や織機の使い方を伝える形で、織物体験を行っています。また、ふくちゃん祭りでは、社会福祉協議会、老人クラブ、手話サークル等と連携を図りながら、「障害のある人」や「高齢者」との交流を深めています。これらの活動を通して、心豊かなしづおりっ子育成をめざしています。

南あわじ市立松帆小学校

住所 南あわじ市松帆江尻594番地

沿革

- 明治7年 櫛田小学校創立
- 明治13年 知新小学校と改称
- 昭和22年 西淡町立松帆小学校と改称
- 平成17年 南あわじ市立松帆小学校と改称



学校の特徴

本校の校区には、国の名勝で瀬戸内海国立公園に指定されている慶野松原があります。日本の白砂青松百選にも選ばれています。毎年、校区探訪「地域を知ろう」という行事を行い、老人クラブをはじめ地域の方々の案内で、校区内の文化財や寺社、施設を歩いて見学し、地域の歴史や文化、伝統などについて学んでいます。また、地域の環境保全団体の協力による慶野松原での環境体験や老人クラブの方々を講師にした「昔の遊びを楽しむ会」などを実施し、家庭・地域と連携した体験活動に取り組んでいます。完全ノーチャイム制、朝読により、児童が自律的に時間を守り、落ち着いた生活態度の育成に大きな成果を上げています。

南あわじ市立湊小学校

住所 南あわじ市湊里1502番地1

沿革

- 明治7年 智積寺に創立
- 昭和45年 現在地に移転
- 平成17年 南あわじ市立湊小学校と改称



学校の特徴

㊦から考える子、㊧にごとも挑戦する子、㊨にも学ぶ子の育成をめざし、「農業体験活動」では地域の方の指導のもと、淡路玉ねぎの栽培を3年生で、米作りを5年生で行っています。また、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた児童理解を活かした「わかる授業づくり」、読書活動の推進、学習タイムで確かな学力を育成しています。

全校生に自分専用一輪車を割り当て、休み時間には各自で技の練習を行い、年間を通じて体育委員会による一輪車検定を毎週行っています。毎年、全校生による一輪車発表会を開催し、地域の方に成長の様子を発表しています。

南あわじ市立辰美小学校

住所 南あわじ市津井2285番地4

沿革

- 平成17年 津井小・丸山小・阿那賀小・伊加利小が統合し、南あわじ市立辰美小学校創立



学校の特徴

平成17年、津井・丸山・阿那賀・伊加利の4小学校が統合して新設されました。校区が広く、約半数の児童がバスで通学しています。運動場の南西部に、8基の再生可能エネルギーを生み出す風車を臨み、学校の名前の由来となる「辰美山」が目前に広がっています。「辰美」とは「竜」が「棲む」山が由来とされています。

旧4小学校区は、自然、歴史、文化、産業などにおいて特徴的で、地域を題材にした学習に、全学年を通じて臨んでいます。特に、どの地区の児童にとっても辰美小学校区全体がふるさとと感じられるよう、全校生で「探検!発見!ふるさと辰美」と称した校区探検を、毎年秋に対象地区を順に変えて実施しています。

南あわじ市立志知小学校

住所 南あわじ市志知南16番地

沿革

- 令和2年 西淡志知小学校・三原志知小学校が統合し、南あわじ市立志知小学校となる



学校の特徴

本校は、神戸淡路鳴門自動車道の西淡三原ICに近く、学校のすぐ東側には陸の港西淡(高速バスターミナル)があり、京阪神や四国を結ぶ交通の要所に位置しています。校区は、豊かな自然に囲まれた農業が盛んな地域です。また、戦国時代の城「志知城跡」や吉備国際大学農学部があります。

児童一人一人が大切にされ、学ぶことが楽しくなるよう、地域の財産である「ひと・もの・こと」を最大限に活用し、体験活動を通して家庭・地域とつながる「地域とともにある学校」をめざして教育活動を推進しています。

南あわじ市立榎列小学校

住所 南あわじ市榎列大榎列1426番地1

沿革

- 明治7年 自凝小学校として創立
- 明治21年 榎列小学校と改称
- 昭和49年 創立100周年記念式典
- 昭和56年 本館校舎竣工
- 平成17年 南あわじ市立榎列小学校と改称
- 令和4年 南館校舎大規模改修



学校の特徴

本校は、神々がつくり出した最初の島、という国生み神話に彩られた「おのころ島神社」や高度な農業技術を活かして行われる水稲、玉葱、レタス、白菜、キャベツなどの三毛作の三原平野に位置し、「自主・協同・勤勉」を校訓にして、令和5年度には創立150周年を迎えました。

学校・家庭・地域社会との連携に力を入れ、PTA活動、保育所やだんじり団体との交流など、ふるさとを愛するたくましい榎列っ子の育成に向けて、地域と学校が共通理解を図り、協働体制のもと目標達成に努めています。

南あわじ市

南あわじ市立八木小学校

住所 南あわじ市八木大久保590番地



沿革

- 明治7年5月1日 上八木組
安楽寺に養宜小学校創立
- 明治10年7月 鳥井組に移転
- 昭和39年4月 現在地に移転
- 平成16年9月 耐震工事完了
- 平成17年 南あわじ市立八木小学校と改称



学校の特徴

三原平野の東部に位置する本校は、成相山系を源とする成相川と論鶴羽山系を源とする三原川に挟まれた農業を主産業とする古くから開けた地域にあります。淡路国分寺をはじめ成相寺、養宜館跡等史跡も多く、また、淡路ファームパークイングラウンドの丘、淡路島牧場などの観光施設も校区にあります。伝統芸能である「大久保踊」は地域の保存会の方から学び、受け継がれています。校訓は、「あかるく、なかよく、たくましく」。人懐っこい八木っ子たちの笑顔が今日もあふれています。

南あわじ市立市小学校

住所 南あわじ市市福永345番地1



沿革

- 明治13年 正新小学校創立
- 昭和22年 市小学校と改称
- 昭和46年 郷土文化部創部
- 平成17年 南あわじ市立市小学校と改称



学校の特徴

校区は、南あわじ市のほぼ中央に位置し、市役所などの公共施設があります。歴史的に由緒ある地域で史跡も多く、淡路人形浄瑠璃など文化芸能の発祥地としても有名です。本校では昭和46年に郷土文化部を創部、著名な継承者を師匠として招き、淡路人形浄瑠璃の保存・継承に取り組んでいます。また、毎年6年生はだんじり唄にチャレンジし、郷土文化部とともに、地域の文化祭、伝統芸能発表会などでその成果を披露しています。これらの活動を通して子どもたちは地域の伝統にふれています。

南あわじ市立神代小学校

住所 南あわじ市神代富田3番地



沿革

- 明治6年 三原公学校(時習館)創立
- 明治20年 神籬尋常小学校と改称
- 昭和22年 神代小学校と改称
- 昭和49年 全国体育優良校表彰
- 平成17年 南あわじ市立神代小学校と改称



学校の特徴

本校区は、昔から農業を中心として栄えてきた地域であり、神籬(くましめ)、地頭方、國衛などの地名が残っています。伝統的にスポーツや文化活動が盛んで、学校・家庭・地域が連携した様々な活動が積極的に展開され、十分に成果も上げています。近年、国道沿線の開発、少子化等が進んでいますが、教育に対する関心は極めて高く「地域の子どもは地域で育てる」という気風は今も息づいています。このような地域の特性を踏まえて、明るく元気な学校、保護者に信頼される学校、地域とともに歩み、地域に根ざした学校づくりを進めています。

南あわじ市立賀集小学校

住所 南あわじ市賀集1000番地



沿革

- 明治11年 賀集小学校創立
- 昭和52年 新校舎落成
- 平成4年 大規模改修
- 平成17年 南あわじ市立賀集小学校と改称
- 平成19年 耐震工事完了



学校の特徴

「こころ豊かに たくましく生きる 賀集っ子を育てる」を教育目標に定め、「か」んがえる子・「し」んぼうのできる子・「ゆ」うきのある子・「う」つくしい心の子の育成に努めています。
七夕集会やクリスマス集会などの学校行事、生活科や社会科の学習で、老人クラブや自治会の方の協力をいただき交流を深めています。また、環境体験学習でも地域の特産物である玉葱の栽培を題材としたり、総合学習において伝統芸能である柗踊りを受け継いだりするなど、ふるさとに学ぶ活動を保護者や地域の方とともに進めています。

南あわじ市立福良小学校

住所 南あわじ市福良乙1205番地



沿革

- 明治6年 福良小学校創立
- 昭和9年 現在の地へ移転
- 昭和51年 現在の校舎完成
- 平成17年 南あわじ市立福良小学校と改称



学校の特徴

【校章】	【いわれ】	【校訓】
	銀色のつるぎ	強 く
	白いかがみ	正 しく
	光るまがたま	美 しく

校章は、三種の神器にちなみ校訓を表現しています。きらきら光る玉の意匠は、鳴門のうず潮をあらわしています。

♪ 誇り めぐみ 久遠の 郷土 ♪ (校歌の一節)

教室から見える福良の街は、大変すばらしい。「ふくろ」状の湾(福良の語源になっている)、三方を山に囲まれた暖かい気候、海からの恵み、生活する人々…。広い運動場と156mの長い校舎、恵まれた環境の中で、誇りと夢を持って学んでいます。

南あわじ市立北阿万小学校

住所 南あわじ市北阿万新田中217番地



沿革

- 明治7年 筒井小学校創立
- 明治24年 北阿万尋常小学校と改称
- 昭和22年 北阿万小学校と改称
- 昭和48年 北阿万小学校100周年
- 平成17年 南あわじ市立北阿万小学校と改称



学校の特徴

校区は、東側にある論鶴羽山脈の山麓に広がる肥沃な地です。農業、畜産業が盛んであり、工業面ではタイルの生産地があります。旧農村地帯と新興住宅地からなり、住民の勤労意欲は高く、郷土愛が強く教育への関心も高いです。

教育活動では、縦割りのなかよし班による行事活動を継続し、異年齢の中で支え合い、助け合う活動を推進しています。また、地域の伝統芸能である「きつね踊り」や「机踊り」に意欲的に取り組み、郷土の文化を継承しています。地域と連携した様々な体験活動に取り組み、ふるさとを愛し、命を大切にし、未来への道を切り拓く北阿万っ子の育成をめざしています。

南あわじ市

南あわじ市立阿万小学校

住所 南あわじ市阿万下町420番地



沿革

- 明治7年 神宮寺本堂にて開校
- 明治34年 本庄尋常高等小学校と改称
- 昭和30年 南淡町立阿万小学校と改称
- 平成17年 南あわじ市立阿万小学校と改称
- 平成27年 灘小学校と統合し新しく南あわじ市立阿万小学校となる

学校の特徴

校庭にある本校のシンボル「くすのき」のように「おおらかにたくましく かおたかく」育つ児童の育成をめざし地域とともに歩む教育活動を進めています。集団下校の見守り活動、だんじり唄の指導、読み聞かせ活動等を展開し、ふるさとを愛する子どもたちの育成をめざしています。

また、子どもたちの「豊かな心」と「元気な体」づくりをめざして結成された「少年少女スポーツ育成会」組織は、学校と地域との連携を深め、心身ともに元気に活動する「阿万っ子」の育成に大きな役割を果たしています。

南あわじ市立沼島小学校

住所 南あわじ市沼島995番地



沿革

- 明治7年 武島校創立
- 明治25年 沼島尋常小学校と改称
- 昭和49年 開校百周年
- 平成14年 新校舎改築竣工
- 平成17年 南あわじ市立沼島小学校と改称

学校の特徴

本校は、兵庫県の最南端に位置し、淡路島の南約4kmに浮かぶ離島（沼島）の小規模・へき地校です。

令和2年度より小規模特別認定校となり、南あわじ市内から広く児童を受入れています。そして、隣接する沼島中学校と施設併設型小中一貫教育校として、小中学校9年間での子どもの成長を見通した教育を進めています。

また、島に伝わる和太鼓のリズムをアレンジした沼島子ども太鼓が、本校の伝統として受け継がれています。「われら小さな島っ子なれど」人前で表現する力、ふるさとを誇りに思う心の育成をめざし練習に励み、その成果を様々な場で発表しています。

南あわじ市・洲本市 組合立広田小学校

住所 南あわじ市広田中筋121番地



沿革

- 明治7年 勤有小学校創立
- 昭和32年 三原郡緑町・洲本市組合立広田小学校と改称
- 平成17年 南あわじ市・洲本市組合立広田小学校と改称

学校の特徴

本校は、南に諭鶴羽山、北に先山、東西も丘陵で山に囲まれた盆地になっています。気候は、温暖で、鮎屋・初尾の二河川の流域は、土質よく、米・野菜の伝統的な生産地です。広田地区は古くから梅の名所として知られており、毎年、3年生は広田梅林で環境学習として梅の収穫を行い、梅ジュースづくりに取り組んでいます。

また、特色ある活動としては、吹奏楽部が年間を通して活動し、県吹奏楽コンクールで優秀な成績を残しています。また、伝統文化を継承している郷土芸能部も多くの催しに参加しています。夏は水泳、冬はマラソンで体力づくりを行い、水泳競技や陸上競技の各種大会で活躍しています。

南あわじ市立西淡中学校

住所 南あわじ市松帆古津路577番地66



沿革

- 平成25年 4月 御原中学校と辰美中学校の統合により南あわじ市立西淡中学校創立

学校の特徴

仲間と助け合おう（海の心）
校訓 人となりを磨こう（山の心）
思いやりを持とう（恕の心）

御原、辰美両中学校が刻んできた66年の歴史と伝統を受け継ぎ、地域と共に歩む学校をめざし、西淡中学校として新たな歴史を築いています。両校生徒が心の支えとしてきた「御中精神」及び「海の如く山の如く」を刷新し、新たに校訓として制定しました。真新しい校旗、生徒のアイデアにより考案された校章、多くの方々の叡智で作られた校歌等々、新しい枠組みの中で創造的な教育活動をめざしています。郷土が誇る景勝地、慶野松原の環境保全活動（松原清掃作業）を通し、豊かな人間性を備えた生徒の育成に取り組んでいます。

南あわじ市立三原中学校

住所 南あわじ市市十一ヶ所14番地12



沿革

- 昭和36年 三原町立三原中学校創立
- 平成16年 校舎改築完了
- 平成17年 南あわじ市立三原中学校と改称
- 平成22年 創立50周年記念式典
- 令和4年 倭文中学校と統合し、新しく南あわじ市立三原中学校となる

学校の特徴

「自立貢献」の学校教育目標のもと、「凡事徹底」を合い言葉に、生徒は自分・仲間・チームのために自主的に責任ある活動を進め、努力の大切さや感謝と思いやりの心を学んでいます。教師は生徒の共感的理解を大切にし、個々の可能性を伸ばすサポートに徹しています。理科部は昭和46年からホテルの人工飼育・放流活動を継続しており、豊かな自然や命を大切にしながら地域貢献を果たしています。また、郷土部は伝統芸能・淡路人形浄瑠璃の担い手として、淡路人形座のご指導を受けながら公演を中心に活動しています。

南あわじ市立南淡中学校

住所 南あわじ市潮美台3番地1



沿革

- 昭和58年 福良中・賀集中・北阿万中・阿万中・灘中の統合により南淡町立南淡中学校創立
- 平成17年 南あわじ市立南淡中学校と改称

学校の特徴

◎伝統文化の継承と発展
500年以上の歴史を持ち、重要無形民俗文化財の指定を受けている淡路人形浄瑠璃の伝統を絶やすことなく、郷土芸能部が全国各地から公演依頼を受け活動しています。

◎防災教育の推進
防災ジュニアリーダーを中心に活動し、主体的な防災の実践力・行動力の育成を図ります。

◎朝読書
毎朝、全校で読書・読み聞かせに取り組み、読解力の向上やこころ豊かな人づくりをめざします。

南あわじ市

南あわじ市立沼島中学校

住所 南あわじ市沼島992番地

沿革

- 昭和22年 沼島町立沼島中学校創立
- 昭和30年 南淡町立沼島中学校と改称
- 平成17年 南あわじ市立沼島中学校と改称



学校の特徴

兵庫県の最南端に位置し、淡路島本島から海上4.4kmに位置する離島へき地の小規模校です。

令和2年度より小規模特別認定校となり、南あわじ市内から広く生徒を受入れています。

「沼島を知る活動」の中で伝統ある沼島音頭を継承し、また生徒会活動ではナルトサワギク駆除作戦や海岸清掃等、小中合同特別活動を企画し、「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる心豊かな生徒の育成」に取り組んでいます。施設併設型小中一貫教育校として、「ふるさと意識の醸成」「へき地教育」「防災教育」等を通して9年間の教育を創造し、笑顔あふれ、心身共にたくましく生きる生徒の育成を図っています。

南あわじ市・洲本市 組合立広田中学校

住所 南あわじ市広田中筋107番地

沿革

- 昭和22年 広田中学校創立
- 昭和35年 三原郡緑町・洲本市組合立
広田中と改称
- 平成3年 新校舎・運動場竣工式
- 平成17年 南あわじ市・洲本市組合立広田中学校と改称



学校の特徴

隣接する広田小学校と運動場を共用する、一小一中の学校です。学年2学級規模で、生徒数の減少が比較的小さい学校です。避難訓練など幼小中合同の行事を通して小中の連携に向けた取組に力を入れています。体育会での全校生による広中ソーランや文化祭での全校合唱など、生徒会や3年生のリーダーが中心となって主体的に活動を進めています。校区は、商業地域とのどかな農村地域が融合した暮らしやすい環境にあります。5世紀に天皇に献上された水が今も湧き続ける「広田の寒泉」や「鮎屋の滝」など、自然豊かで風光明媚な名勝が数多くあります。

南あわじ市立灘小学校



平成27年度から
南あわじ市立阿万小学校



南あわじ市立西淡志知小学校



令和2年度から
南あわじ市立志知小学校



南あわじ市立三原志知小学校



令和2年度から
南あわじ市立志知小学校



南あわじ市立倭文中学校



令和4年度から
南あわじ市立三原中学校



淡 路 市

淡路市立塩田小学校

住所 淡路市塩尾430番地2

沿革

- 明治6年 平安小学校創立
- 明治24年 塩田尋常小学校と改称
- 昭和22年 塩田村立塩田小学校と改称
- 昭和30年 津名町立塩田小学校と改称
- 平成17年 淡路市立塩田小学校と改称



学校の特徴

淡路市の南側に位置し、洲本市との境にあり、校区は豊かな自然に囲まれています。

児童は全体的に素直で真面目であり、休み時間には校庭に出て体を動かすことが好きな明朗活潑な児童が多いです。「自己をみつめ明日に向けて伸びよう」の校訓のもと、地域の中で育つ体験教育を教育活動の柱にして、明日を担う塩田っ子の育成をめざしています。

淡路市立志筑小学校

住所 淡路市志筑1578番地

沿革

- 明治6年 静村小学校として天神に創立
- 明治20年 志筑尋常小学校と改称
- 明治40年 志筑尋常高等小学校と改称
- 昭和16年 志筑国民学校と改称
- 昭和22年 志筑町立志筑小学校と改称
- 昭和30年 津名町立志筑小学校と改称
- 平成17年 淡路市立志筑小学校と改称
- 平成25年 校舎耐震・大規模改修工事



学校の特徴

本校は、大阪湾に面する淡路島中央東岸の宝珠川が志筑川に合流する河口付近にあります。校区の志筑地区は、旧津名町の中心地として発展し、商業施設等があります。校訓は「日新日進」。日々新しく進歩するように、勉強・運動に励んでいます。また淡路市の小学校の中で児童数・職員数が最も多く、教育に対する地域住民の関心が高く、学校に寄せられる期待は大きいです。

淡路市立中田小学校

住所 淡路市中田4390番地

沿革

- 明治6年 静村校創立
- 明治24年 中田尋常小学校創立
- 昭和22年 中田村立中田小学校と改称
- 昭和30年 津名町立中田小学校と改称
- 平成17年 淡路市立中田小学校と改称



学校の特徴

中田地区は、豊かな自然に囲まれ、カーネーション等の花卉農家や米作りが盛んな農村地域です。校区内には淡路鳴門自動車道津名一宮インターがあり、休日は特に交通量が多くなります。校区の伊勢の森神社春季大祭では市指定無形文化財の「梯子獅子」が奉納され、賑わっています。地区住民・保護者の学校への期待と関心は大きく、行事等への積極的な参加があります。児童会活動では、縦割り遊びや集会活動を随時企画し、活発に活動しています。

淡路市立大町小学校

住所 淡路市大町上461番地

沿革

- 明治7年 檜原小学校創立(木曾村)
- 明治7年 大町小学校創立(大町村)
- 明治20年 両校が合併し城陽小学校創立
- 明治33年 大町尋常小学校と改称
- 昭和16年 大町国民学校と改称
- 昭和22年 大町村立大町小学校と改称
- 昭和30年 津名町立大町小学校と改称
- 平成17年 淡路市立大町小学校と改称



学校の特徴

本校は、点字学習・車椅子体験等の福祉体験や米作り・川体験等の環境体験を初めとする体験活動を重視し、「まじめに やさしく 勇敢に」を合い言葉に、地域の方々と協力して心優しい大町っ子の育成に努めています。

淡路市立津名東小学校

住所 淡路市生穂2346番地2

沿革

- 明治7年 生穂小学校創立
- 明治9年 佐野小学校創立
- 平成21年 生穂第一小・生穂第二小が統合し淡路市立生穂小学校創立
- 平成29年 佐野小と統合し、新しく淡路市立生穂小学校となる
- 平成30年 淡路市立津名東小学校と改称



学校の特徴

淡路島東海岸のほぼ中央に位置し、阪神間への交通の便がいい所です。校区は海に面した浜から、山間部の長澤、興隆寺ととても広く、豊かな自然に恵まれています。

地域住民をゲストティーチャーとして、クッキング、干支置物作り、フラワーアレンジメント、絵手紙教室など、家庭・地域・学校が連携した教育活動を行っています。縦割りのわんぱくグループによる集会活動、ふるさとオリエンテーリングなど、児童会活動も充実しています。

淡路市立学習小学校

住所 淡路市久留麻1724番地1

沿革

- 明治3年 高須賀に直道館を創立
- 明治7年 勝福寺に可里耶校を開設
- 明治12年 学習校創立
- 昭和16年 学習国民学校と改称
- 昭和36年 東浦町立学習小学校と改称
- 平成17年 淡路市立学習小学校と改称
- 平成31年 釜口小と統合し、新しく淡路市立学習小学校となる



学校の特徴

校名の由来は、論語の学而第一の「学んで時に之を習う、又悦ばしからずや」に由来します。平成23年度より、コミュニケーション能力を高める授業づくりを研究主題に、ことばの力の育成についての研究を行っています。山と海に囲まれた校区の自然環境を活かし、漁業体験、藍の栽培・藍染め、ウォークラリー、植物の観察等の様々な体験学習を行っています。ICT機器を使ったプレゼンテーションで委員会の取組を発表するなど、児童が主体的に活動しています。

淡 路 市

淡路市立浦小学校

住所 淡路市浦701番地

沿革

- 明治7年 学聚小学校創立久留麻小学校と改称、陶民小学校設立
- 昭和22年 浦小学校と改称
- 平成2年 校舎改築（オープンスペースに）
- 平成4年 創立100周年を祝う
- 平成17年 淡路市立浦小学校と改称



学校の特徴

本校は、校地内に実習田畑があり、体験学習として米、野菜作りに取り組んでいます。米、野菜作りを体験することで、作物を栽培する苦勞や工夫を学び、農作業の楽しさや厳しさを体験しています。また、実習田畑や浦川の生物調査を行ったり、浦海岸に飛来するハマチドリを観察や海岸清掃に取り組んだりすることで、川や田、海といった水を介した自然のつながりを実感し、環境に対する意識が向上しています。これらの活動を通して、地域の自然環境が豊かな命・食を生み出していることを学ぶとともに、自然豊かな郷土を誇りに思い、自然の恵みに感謝する心情を育てています。

淡路市立石屋小学校

住所 淡路市岩屋529番地1

沿革

- 明治7年 石谷小学校創立
- 昭和22年 石屋小学校と改称
- 昭和62年 文部省指定「地域改善対策としての教育」研究校
- 平成17年 淡路市立石屋小学校と改称



学校の特徴

淡路島の最北端に位置し、明石海峡を挟んで目に映る明石市・神戸市のたたずまいは、私たちにあって日常的で、親しみ深い近景となっています。岩屋地域は古来より交通の要所として拓かれた地です。好条件に支えられた町は、古い文献にもたびたび登場し、石の寝屋古墳等は歴史的遺跡の一つとして現在もその姿を残しています。また、明石海峡という恵まれた漁場を控え、昔から漁業を主産業とする土地でしたが、最近はその時代の変化とともに、島外に勤務先や住居を求める人が増えています。保護者や地域の方々の本校教育に対する期待は大きく、学校に向けるまなざしも熱いものがあります。大人たちの熱意や支援に支えられた子どもたちは、素朴で明るく、石屋小学校は今日も活気に満ちあふれています。

淡路市立北淡小学校

住所 淡路市浅野神田78番地

沿革

- 明治7年 嚴樞小学校（仁井小）創立
- 明治8年 浅野小学校創立
- 昭和63年 野島小学校新設
- 平成17年 淡路市立浅野小学校と改称
- 平成21年 浅野小と生田小が統合し、生田小が閉校
- 平成22年 仁井小、野島小、浅野小が統合し、淡路市立北淡小学校創立
- 平成28年 富島小、室津小と統合し、新しく淡路市立北淡小学校となる
- 平成30年 育波小と統合し、新しく淡路市立北淡小学校となる



学校の特徴

本校は、旧北淡町の7つの小学校が統合して創立した小学校です。そのため南北17.5km、東西5.5kmの広範囲な校区には、北淡路の山間部や播磨灘の沿岸部など、豊かな自然環境と多様な学習フィールド、学習素材があります。びわ栽培、そば栽培・手打ち体験、ほたるの里、野鳥観察、栽培漁業、ため池、江崎灯台、野島断層、五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡等の校区の特色を最大限に活かした地域学習、環境学習を展開しています。この学びを通し、ふるさとの特色を知ると同時に、ふるさとを誇りに思える児童を育てています。

淡路市立多賀小学校

住所 淡路市多賀104番地

沿革

- 明治7年 郡家中村妙京寺に創立
- 昭和16年 多賀国民学校と改称
- 昭和22年 多賀村立多賀小学校と改称
- 昭和30年 一宮町立多賀小学校と改称
- 平成17年 淡路市立多賀小学校と改称
- 平成22年 柳沢小学校と統合し、新しく淡路市立多賀小学校となる



学校の特徴

本校は、淡路市一宮地区にあり、周囲には田園風景が広がるのどかな地域にあります。すぐ隣には、有名な伊弉諾（いざなぎ）神宮があり、多くの参拝者や観光客が訪れます。周辺には様々な公共施設もあり、文化スポーツゾーンの中に建っています。

子どもたちはどの学年も仲が良く、放課後には、学年関係なく一緒に遊ぶ姿がよく見られます。また、地域住民や保護者は、学校への期待と関心が大きく、学校行事等に積極的に参加してくれます。

淡路市立一宮小学校

住所 淡路市北山1600番地

沿革

- 明治6年 尾崎校・山田校創立
- 明治7年 遠田校・郡里校・桃江校創立
- 明治8年 日下校創立
- 平成26年 尾崎小・郡家小・山田小の3校が統合し淡路市立一宮小学校創立
- 平成29年 江井小と統合し、新しく淡路市立一宮小学校となる



学校の特徴

平成26年4月、尾崎・郡家・山田の3つの小学校、更に平成29年4月、江井小学校が統合し、令和5年度に『一宮小学校』は創立10年となりました。4つの地区に支えられ、それぞれの良さを活かしつつ、最新設備を備えた新校舎、新体育館で、大勢の仲間と切磋琢磨しながら、『一宮小学校』の新しい伝統と文化を育てています。豊かな自然の中で環境体験学習やふるさと学習、一人一人を大切にすることの学習、ICTを効果的に活用した情報教育等を進め、ふるさと「一宮」に誇りを持ち、自立する児童の育成をめざしています。

淡路市立津名中学校

住所 淡路市大谷1003番地

沿革

- 昭和35年4月 志筑・生穂・佐野中学校を統合して津名町立津名中学校創立
- 昭和40年4月 体育館完成
- 昭和63年9月 新校舎完成
- 平成8年1月 新体育館完成
- 平成17年 淡路市立津名中学校と改称
- 令和6年3月 大規模改修工事完成



学校の特徴

大阪湾に面した淡路島のほぼ中央に位置し、淡路市の経済、行政の中心地です。気候は温暖で、海と山の豊かな自然に恵まれ、農業、漁業等も盛んです。大型商業施設、スポーツ・文化施設、看護大学、専門学校や医療・福祉施設等が集中しています。

生徒たちは、快活おらかであるとともに、都会的な気質も併せ持っています。日々の生活においては、校訓「ベストをつくせ」のもとに、勉強や学校行事（体育会・文化発表会など）、そして、部活動に熱心に取り組んでいます。

淡 路 市

淡路市立東浦中学校

住所 淡路市久留麻2600番地1

沿革

- 昭和41年 釜口、仮屋、浦中学校が統合し
東浦町立東浦中学校創立
- 平成17年 淡路市立東浦中学校と改称



学校の特徴

東浦中学校は、「全校一心」を校訓とし、高い志を持ち、「自ら学び、考え、行動できる」ところ豊かな生徒の育成をめざしています。校舎は高い丘の上には、教室の窓から海が見える恵まれた環境の中で、生徒達は日々、学習や部活動に励み、体育大会や文化発表会では、全校が一丸となって行事を盛り上げます。

また、校区にある特別養護老人ホーム「カーネーションホーム」での福祉活動や「敬老はがき」の取組など地域の人々との交流を大切にしています。

淡路市立岩屋中学校

住所 淡路市岩屋2875番地

沿革

- 昭和22年 岩屋町立岩屋中学校創立
- 昭和31年 淡路町立岩屋中学校と改称
- 平成5年 現校舎、体育館竣工
- 平成9年 創立50周年記念式典
- 平成16年 校木、校花制定(生徒会)
- 平成17年 淡路市立岩屋中学校と改称



学校の特徴

岩屋中学校の地域は、淡路島の北端に位置し、神戸・明石方面への玄関口として陸海上交通の要衝にあります。近くには、国営明石海峡公園や淡路夢舞台、県立淡路景観園芸学校等があります。

本校は、「強く正しく生きる」を校訓とし、ところ豊かな生徒の育成をめざしています。生徒は、「礼を尽くし、時を守り、場を清める」を合言葉に朝のあいさつ運動、チャイム着席、床の雑巾がけを毎日実践し、より良い教育環境作りを伝統として引き継いでいます。

淡路市立北淡中学校

住所 淡路市浅野神田114番地1

沿革

- 平成16年 北淡東・北淡西中学校が統合
- 平成17年 淡路市立北淡中学校と改称
- 平成19年 環境教育実践推進校事業指定校
- 平成20年 国語力向上のための実践研究事業指定校
- 平成21年 ひょうご学力向上推進プロジェクト推進校(2年間)
- 平成23年 北淡地区人権教育研究会兼あさひプロジェクト道徳授業研修会
- 平成25年 創立10年を迎える
- 平成27年 ひょうご学力向上推進プロジェクト学びサポート協力校(3年間)
- 令和元年 兵庫県道徳教育実践研究事業道徳教育研究発表会



学校の特徴

北淡中学校区は、淡路島の北西部に位置しています。夏には、沈む夕日の美しさ、冬には、沸き立つような白い海原と刺すような潮風が、人情味あふれるこの町の源流です。

統合中学校創立以来、学校教育目標の中核として掲げられてきた「人権尊重の精神」を基盤としながら、さらに生徒の実態を踏まえた新たな人権教育の創造をめざして努力を重ねています。

淡路市立一宮中学校

住所 淡路市多賀145番地

沿革

- 昭和59年 一宮中・江山中学校を統合し、
一宮中学校創立
- 昭和60年 全国軟式野球大会優勝
- 平成15・16年 学力向上フロンティアスクール研究指定
- 平成17年 市町合併により淡路市立一宮中学校と改称
- 平成27・28年 文科省ICT活用教育教員研修プログラム実証校
- 平成27～29年 県教委ICT利活用推進教育指定校
- 平成29年 旧体育館解体・校舎大規模改修工事
- 令和2・3年 県教委「9年間を通したキャリア教育の充実事業」
推進実践研究指定校



学校の特徴

本校は、校名(旧町名)の由来になっている伊弉諾神宮(淡路国一宮)の南隣に位置する、各学年2クラスの小規模校です。生徒は素朴で、各種の推進校指定の中で新たな取組に意欲的にチャレンジしています。「初心忘れず」の校訓を胸に、部活動では全国大会や近畿大会等で好成績をあげるなど、学習と運動のどちらも積極的に取り組むという文武両道の校風を、代々引き継いでいます。

淡 路 市

淡路市立郡家小学校



平成26年度から
淡路市立一宮小学校



淡路市立山田小学校



平成26年度から
淡路市立一宮小学校



淡路市立尾崎小学校



平成26年度から
淡路市立一宮小学校



淡路市立富島小学校



平成28年度から
淡路市立北淡小学校



淡路市立室津小学校



平成28年度から
淡路市立北淡小学校



淡路市立佐野小学校



平成29年度から
淡路市立生穂小学校
平成30年度から
淡路市立津名東小学校と改称



淡路市立江井小学校



平成29年度から
淡路市立一宮小学校



淡路市立育波小学校



平成30年度から
淡路市立北淡小学校



淡路市立釜口小学校



平成31年度から
淡路市立学習小学校



淡路島内の高等学校・特別支援学校

県立洲本高等学校

住所 洲本市上物部2丁目8番5号
沿革

- 明治30年 兵庫県洲本尋常中学校開校
- 明治36年 兵庫県津名郡・三原郡組合立淡路高等女学校 開校
- 昭和23年 両校統合して兵庫県立洲本高等学校と改称

学校の特徴

自律・自治の精神のもと、生徒は規律ある充実した学校生活を送っています。第2学年より文型・理型に分け、幅広い進路実現に向けて取り組んでいます。また、特色選抜による「総合探究類型」では、最先端の科学・研究成果を学び、さまざまな分野で物事を科学的に考え、課題を解決する資質と創造性を持った人材を育成しています。令和6年度より「ひょうごリーダーハイスクール」に指定され、その成果を県内高校に伝え、兵庫の教育全体の底上げを図る役割を担います。



県立津名高等学校

住所 淡路市志筑249番地1
沿革

- 大正9年 津名郡志筑町立志筑技芸女学校設立
- 昭和2年 津名郡志筑町立志筑実科高等学校と改称
- 昭和12年 津名郡志筑町立志筑高等女学校と改称
- 昭和23年 兵庫県立津名高等学校と改称

学校の特徴

恵まれた環境のもと、手厚くきめ細かい学習指導を行っています。第2学年からは各自の進路に合わせて3つの類型からカリキュラムを選択することができ、夢をかなえる土台が作れます。令和7年度より新たに設置された「文理探究科」では、従来の「総合科学コース」の教育方針を継承しつつ文理融合型の学びを展開し、大学や企業、研究機関等と連携した探究活動を通じて、確かな学力と時代の変化に対応できる「生きる力」を育みます。



県立淡路三原高等学校

住所 南あわじ市市門行寺345番地1
沿革

- 平成19年4月 県立三原高等学校と県立志知高等学校の発展的統合により開校し、サイエンスコースを設置
- 令和7年度よりサイエンスコースを文理探究科に改編

学校の特徴

普通科では「キャリア類型」「アカデミア類型」の2類型を設置し、魅力ある教育課程を編成して多様な進路希望に対応しています。令和7年度から新設される「文理探究科」では、基礎学力を鍛えるとともに、教科の枠を超えて知識を融合した探究活動を行い、生徒が主体的に学び創造性を高め、論理的思考力を育みます。高大連携などによる実験・実習・フィールドワークや演習を通して、物事への理解を深めたり、実際に直面する問題や課題に対処する力、理論を応用する力を養います。淡路三原高校は、地域を支え兵庫を担う、国際社会に貢献できる人材の育成をめざしています。



県立淡路高等学校

住所 淡路市富島171番地2
沿革

- 大正12年 6ヶ村組合立北淡実業学校開校
- 昭和23年 兵庫県立淡路農業高等学校と改称
- 平成10年 兵庫県立淡路高等学校（総合学科）と改称
- 令和5年 兵庫県立淡路高等学校創立100周年

学校の特徴

島内唯一の総合学科。1年次は、普通科とほぼ同じ科目の学習に加え、「産業社会と人間」という授業で将来の職業や生き方について学習します。2年次からは、「調理」「めぐみ」「まなび」「ライフサポート」の各系列に分かれ学習します。「調理」系列は、県内公立高校で唯一「調理師免許」が取得できます。さらに、令和3年度より製菓衛生師受験資格が取得できるコースがスタートしました。高大連携授業や防災教育等特色ある教育活動を行っています。



県立洲本実業高等学校

住所 洲本市宇山2丁目8番65号
沿革

- 昭和4年 津名郡洲本町立洲本商業学校開校
- 昭和23年 兵庫県立洲本商業高等学校と改称
- 兵庫県立洲本工業高等学校と改称
- 昭和24年 兵庫県立洲本実業高等学校と改称

学校の特徴

校訓「誠実」「健康」の下、社会に貢献する心豊かな生徒を育成しています。機械科では「ものづくり」を通して、創造力豊かな「未来を切り拓く人材」を育成します。電気科では、電気に関する知識・技術を学び、社会を支える電気のスペシャリストを育成します。地域商業科では、商業における専門知識の習得を目指し、社会に貢献できる職業人を育成します。



県立あわじ特別支援学校

住所 洲本市上物部2丁目1番17号
沿革

- 昭和23年 兵庫県立淡路聾学校として開校
- 平成20年 知的障害部門設置（小・中・高等部）
- 平成23年 県立淡路特別支援学校との発展的統合により兵庫県立あわじ特別支援学校と改称

学校の特徴

知的障害部門（小・中・高）と聴覚障害部門（幼・小・中）の2つの障害部門を設置しています。個々のニーズに応じた指導、交流及び共同学習、地域との交流、キャリア教育等を推進するほか、淡路地区唯一の特別支援学校として、本校での教育相談、各学校への講師派遣、公開講座の開催、聴力測定の実施なども行っています。



蒼開中学校・高等学校

住所 洲本市下加茂1丁目9番48号
沿革

- 大正2年 柳裁縫女学校創立
- 昭和23年 柳学園高等学校設立
- 昭和35年 柳学園中学校・高等学校「中高6ヵ年課程」開設
- 平成30年 蒼開中学校・高等学校へ校名変更、新校舎建設
- *中学校「緑風6ヵ年・青藍3ヵ年コース」
- *高等学校「スーパー特進・グローバル進学・アスリート進学コース」

学校の特徴

淡路島から日本、そして世界へとはばたく人材を育成する教育機関として、柳学園は生まれ変わりました。社会に貢献できる多様な人材を輩出するためのコース制を導入し、自己表現と、21世紀を生き抜く人材の育成を目指しています。



県立洲本高等学校（定時制）

住所 洲本市上物部2丁目8番5号
沿革

- 昭和23年 全日制課程の洲本高等学校に、定時制課程の昼間3分校（緑、南淡、西淡）と夜間本校を設置
- 昭和50年 3分校は兵庫県立志知高等学校として独立

学校の特徴

学校行事及び体験活動の充実を図り、感動や共感する心、思いやりの心を培います。高校生ふるさと貢献事業の地域ふれ合い交流活動では、グラウンド・ゴルフ、陶芸教室、校内生活体験発表会、交通安全教室等の行事や、施設訪問等を通じて高齢者との交流を図るとともに、老人福祉に関する理解を深めることをめざしています。



資 料

1	淡路歴史年表	2
2	1961年（昭和36年）の学校配置図	6
3	2026年度（令和8年度）の学校配置図	7
4	守っていききたい自然景観	8
5	大切に残していこう史跡・名所	9
6	1889年（明治22年）の町村図	10
7	栄光の記録（令和4年度まで）	11
8	松帆銅鐸は大発見だらけ!!	
9	洲本市から発見された恐竜化石「ヤマトサウルス・イザナギイ」	
10	淡路島一周まんぷくすごろく めざせ！御食国王!!	

淡路歴史年表（縄文時代～明治時代）

縄文 弥生 古墳時代 飛鳥 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 戦国時代 安土・桃山時代

300 400 500 600 700 800 1200 1300 1400 1500

安宅氏が洲本城を築く

足利氏が熊野水軍の安宅氏に沼島の南朝方水軍の退治を命ずる（一三五〇）
細川師氏が立川瀨（賀集）の戦で宇原氏を破り養宜館に入る（一三四〇）

淡路国太田文（土地台帳）が作られる（一一三三）

一ノ谷で敗れた平氏一門が煙島に立ち寄り

早良親王（桓武天皇の弟）淡路に流される途中でなくなる（七八五）

淳仁天皇（舎人親王の子）淡路に流される（七八四）

淡路国分寺が完成する（七八四）

阿那賀伊毘沖ノ島古墳（海人族）

下加茂遺跡・志知川沖田南遺跡（水田跡）、下内膳遺跡（住居跡）

洲本コヤダニ古墳（三角縁神鏡）

五斗長垣内遺跡

このころ銅鐸や銅剣がつくられる

佃遺跡

淡路島内で有舌尖頭器（石やり）が使われる



P62 縄文時代の人々の暮らし(想像図)



P64 仏教の普及のため作られた国分寺

織田信長が室町幕府を滅ぼす（一五七三）

応仁の乱が始まる（一四六七）

足利尊氏が征夷大将軍となる（一三三八）

鎌倉幕府が滅ぶ（一一三三）

承久の乱が起こる（一一三二）

源頼朝が征夷大将軍となる（一一九二）

平氏が滅ぶ（一一八五）

平安京に都をつつす（七九四）

平城京に都をつつす（七一〇）

大化の改新が起こる（六四五）

大和朝廷が日本を統一しはじめる

米づくりが始まる

石器や土器がつくられる

淡路のおもなできごと

日本のおもなできごと

1900

鐘淵紡績が淡路紡績を買収する(一九〇〇)

淡路紡績株式会社が創立する(一八九三)

津名郡に三三町村、三原郡に二二町村が成立する(一八八九)

洲本と兵庫の間に淡路汽船が運行を始める(一八八〇)

淡路は兵庫県に入る(一八七六)

洲本学問所から一番小学校・日進小学校(一八七三)

淡路は兵庫県と徳島県に二分されたが、後に名東県(徳島県)に入る(一八七二)

洲本で庚午事変が起こる(一八七〇)

江井で線香の製造が始まる

福長でそめんの製造が始まる

賀集砥平が陶器製造を始める(一八三四)

高田屋嘉兵衛が国後島沖でロシアに捕えられる(一八二二)

北海道沿岸で、コローン事件が起こる(一八一二)

洲本学問所がつくられる(一七九八)

広田宮村などで縄騒動(農民一揆)が起こる(一七八二)



P70 庚午事変でなくなった人の慰霊碑

淡路の各村の棟付改帳(戸籍)をつくる(一六七三)

藩庁(政治の中心地)を由良より洲本に移す(一六三二)

筆頭家老の稲田氏が由良城代となる(一六一五)

阿波の大名 蜂須賀氏が淡路を治める(一六一五)

姫路の大名 池田氏が淡路を治める(一六一〇)

脇坂安治が洲本城主となる(一五八五)

仙石秀久が洲本城主となる(一五八二)

羽柴(豊臣)秀吉が安宅氏を滅ぼす(一五八一)



P97 兵庫と蝦夷(えぞ:北海道)を行き来した千石舟模型

韓国を併合する(一九一〇)

日露戦争が起こる(一九〇四)

日清戦争が起こる(一八九四)

大日本帝国憲法が公布される(一八八九)

藩を廃して県を置く(一八七二)

江戸を東京と改め、都を東京に移す(一八六九)

江戸幕府が滅び、武士の世の中が終わる(一八六七)

徳川家康が江戸幕府を開く(一六〇三)

豊臣秀吉が全国を統一する(一五九〇)

淡路歴史年表（大正時代～現代）

大正時代

昭和時代

1920

1930

1940

1950

- 賀集新九郎を中心に淡路鉄道会社を設立する（一九一四）
- 賀集村で玉ねぎの集団栽培が始まる
- 福良汽船と摂陽汽船が阿淡連絡汽船を設立する（一九三二）
- 淡路鉄道が洲本・三原郡市間に開通する（一九三二）
- 淡路鉄道が全線（洲本～福良間）開通する（一九三五）
- 摂陽商船が洲本・大阪間に運航を始める（一九二六）

- 室戸台風が大きな被害をもたらす（一九三四）
- 上田池が完成する（一九三三）

- 西淡町が発足する（一九五七）
- 淡路町、五色町が発足する（一九五六）
- 瀬戸内海国立公園に指定される（一九五六）
- 一宮町、津名町、三原町、南淡町が発足する（一九五五）
- 津名郡北淡町の合併を皮切りに、昭和の合併が始まる（一九五五）
- 明石～若屋間、福良～鳴門間のフェリーボート航路が開通する（一九五四）
- 洲本高校が全国選抜野球大会で優勝する（一九五三）
- 洲本～福良間で電車の運行を始める（一九四八）
- 井植歳男が三洋電機製作所を設立する（一九四七）
- 南海トラフ大地震が起こる（一九四六）
- 三原平野に陸軍の飛行場（〇〇飛行場）を建設する（一九四四）
- 津名郡洲本町と三原郡大野村が合併し、洲本市が誕生する（一九四〇）

淡路のおもなできごと



P54 洲本駅のホーム



P55 浦～神戸長田港間でフェリーボート運航開始

第一次世界大戦が始まる（一九一四）

満州事変が起こる（一九三二）

- 日本が独立を回復する（一九五一）
- 六・三制義務教育が実施される（一九四七）
- 日本国憲法が公布される（一九四六）
- ポツダム宣言を受け入れる（一九四五）
- アジア・太平洋戦争が始まる（一九四二）

日本のおもなできごと

2020

2010

2000

1990

1980

1970

1960

洲本市で発見された恐竜の化石が新種と判明、「ヤマトサウルス・イザナギイ」と命名される(二〇二二)
 南あわじ市で松帆銅鑛七点が発見される(二〇一五)
 「淡路人形座」新会館が完成する(二〇一一)

洲本市由良の白亜紀後期(約七千年前)の地層で、ウミガメの祖先の化石が発見される(二〇〇九)

五斗長垣内遺跡(青波黒合)で、国内最大級の鉄器製造群落跡が発見される(二〇〇八)

洲本市と津名郡五色町が合併し、平成の合併(三市)が完了する(二〇〇六)

津名郡五町が合併し、「淡路市」が誕生(二〇〇五)

三原郡四町が合併し、「南あわじ市」が誕生(二〇〇五)

花と緑の国際博覧会が開かれる(二〇〇〇)

明石海峡大橋が開通する・鶴澤友路が人間国宝に指定される(一九九八)

引野遺跡(久留林)で県下で一番古い製塩炉跡が発見される(一九九五)

阪神・淡路大震災が起こる(一九九五)

貴船神社遺跡(野島)で六〜八世紀の製塩遺跡が発見される(一九九五)

一宮中学校が全国中学校軟式野球大会で優勝する(一九八五)

くにつみの祭典が開かれる・大鳴門橋が開通する(一九八五)

淡路人形浄瑠璃が国指定重要無形民俗文化財に指定される(一九七六)

南淡路有料道路(うずしおライン)が開通する(一九六九)

淡路人形協会を設立する(一九六八)

「若人の広場」が完成する(一九六七)

淡路交通が電線を廃止する(一九六六)

阿那賀(鳴門)間のフェリーポート航路が開通する(一九六五)

淡路人形座を開設する(一九六四)

浦く神戸長田港間にフェリーポート航路が開通する(一九六三)

東浦町が発足、町村合併が完了し、「二市十町」が誕生する(一九六一)

緑町が発足する(一九六〇)



P20 四国とつながる大鳴門橋



P56 本州とつながる明石海峡大橋

大阪で日本国際博覧会が開かれる(二〇二五)
 オリンピック・パラリンピック
 東京大会が開かれる(二〇二二)

アジアで初、日本でラグビー
 ワールドカップが開かれる(二〇一九)

東日本大震災が起こる(二〇一一)

日本と韓国がサッカーワールドカップを
 共同で開く(二〇〇二)

冬季オリンピック・パラリンピック
 長野大会が開かれる(一九九八)

阪神・淡路大震災が起こる(一九九五)

沖縄が日本に復帰する(一九七二)

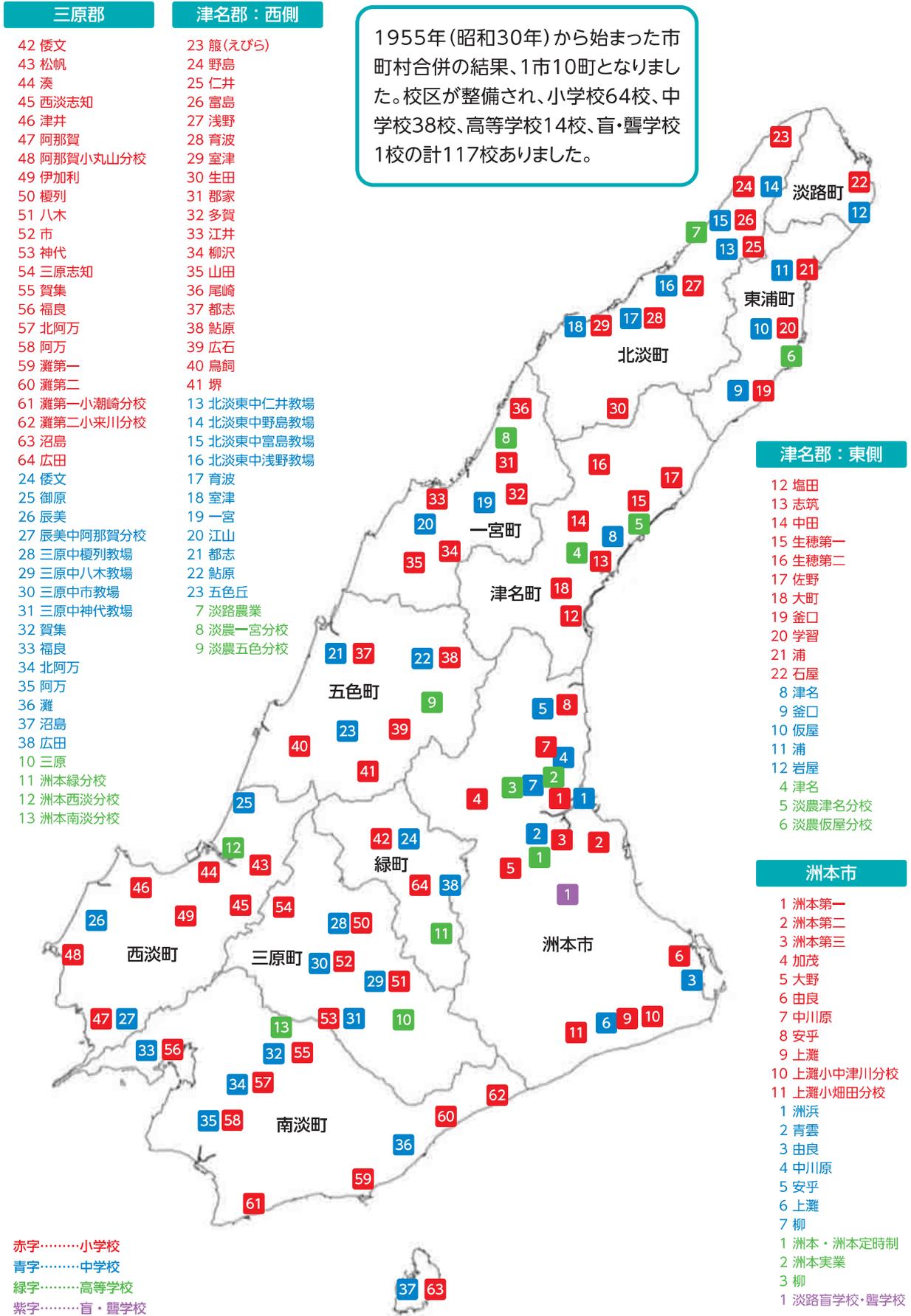
冬季オリンピック札幌大会が開かれる(一九七二)

大阪で日本万国博覧会が開かれる(一九七〇)

東海道新幹線が開通する(一九六四)

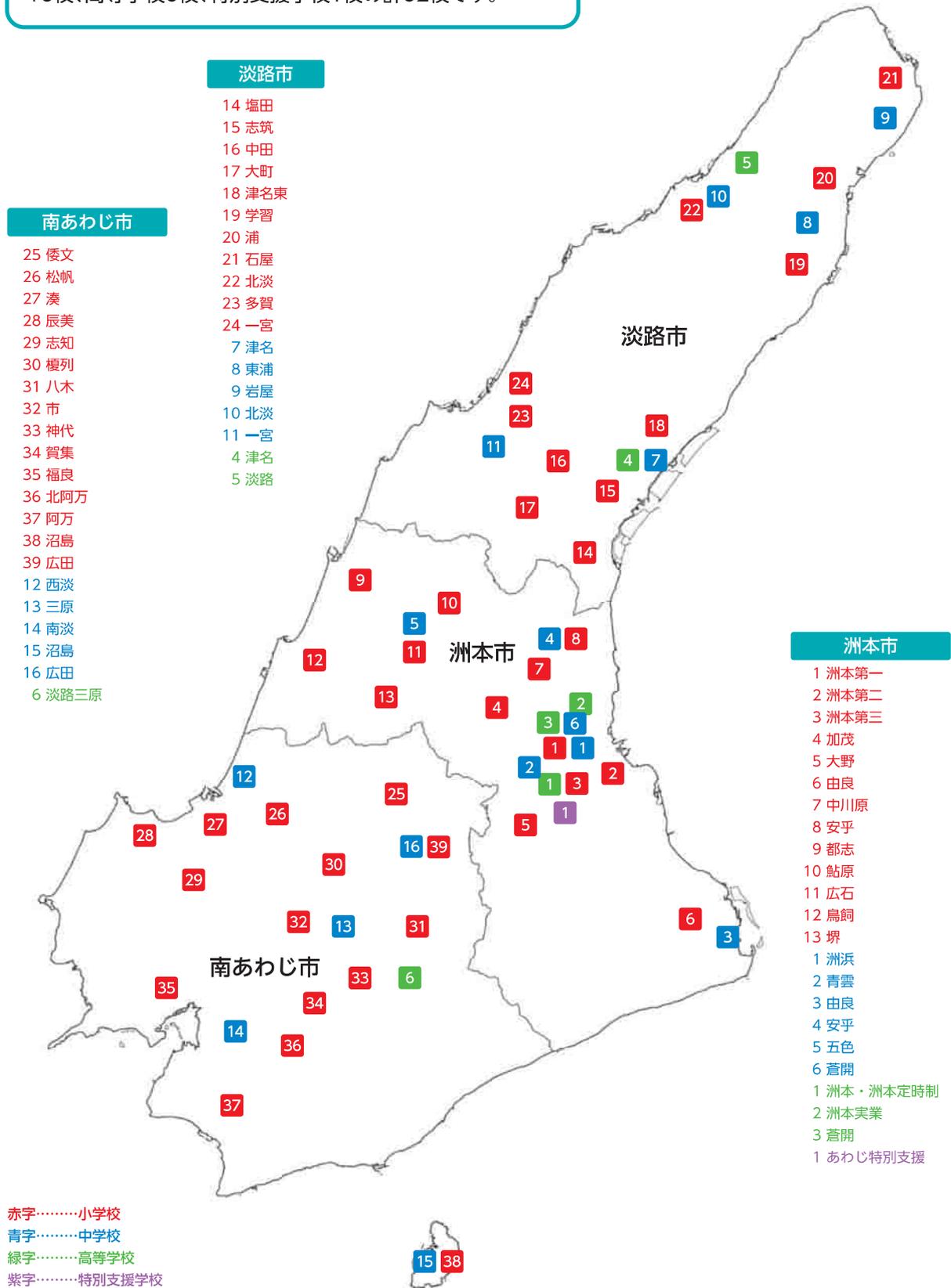
オリンピック東京大会が開かれる(一九六四)

2. 1961年（昭和36年）の学校配置図



3. 2026年度（令和8年度）の学校配置図

2005年(平成17年)から始まった市町村合併の結果、1市10町から3市となりました。令和8年度は、小学校39校、中学校16校、高等学校6校、特別支援学校1校の計62校です。



4. 守っていききたい自然景観

守っていききたい自然景観

■ 山 P12

- ① 妙見山
- ② 常隆寺山
- ③ 先山
- ④ 諭鶴羽山

■ 島 P15

- ⑤ 絵島 (P76, 82, 104)
- ⑥ 成ヶ島 (P22, 23, 60)
- ⑦ 沼島 (P14, 76, 130)
- ⑧ 煙島 (P65)

■ その他

- ⑨ 慶野松原 (P59, 103)
- ⑩ 五色浜
- ⑪ 鮎屋の滝 (P103)
- ⑫ 松帆の浦 (P104)
- ⑬ 石田の棚田 (P105)
- ⑭ 灘黒岩水仙郷 (P60, 106)
- ⑮ 東山寺の紅葉
- ⑯ 広田梅林 (P60)



守っていこう天然記念物

- ⑰ 洲本奥畑のメグロクチ
- ⑱ 妙勝寺の大クスノキ
- ⑲ 大和島のイブキ群落
- ⑳ 野島鍾乳洞
- ㉑ 常隆寺のスダジイ・アカガシ群落 (P12, 18)
- ㉒ 明神岬のイブキ群落
- ㉓ 伊弉諾神宮の夫婦大楠 (P77)
- ㉔ 河上神社のイブキ
- ㉕ 沼島のウミウ渡来地 (P16)
- ㉖ 諭鶴羽山のアカガシ群落 (P12)

5. 大切に残していこう史跡・名所

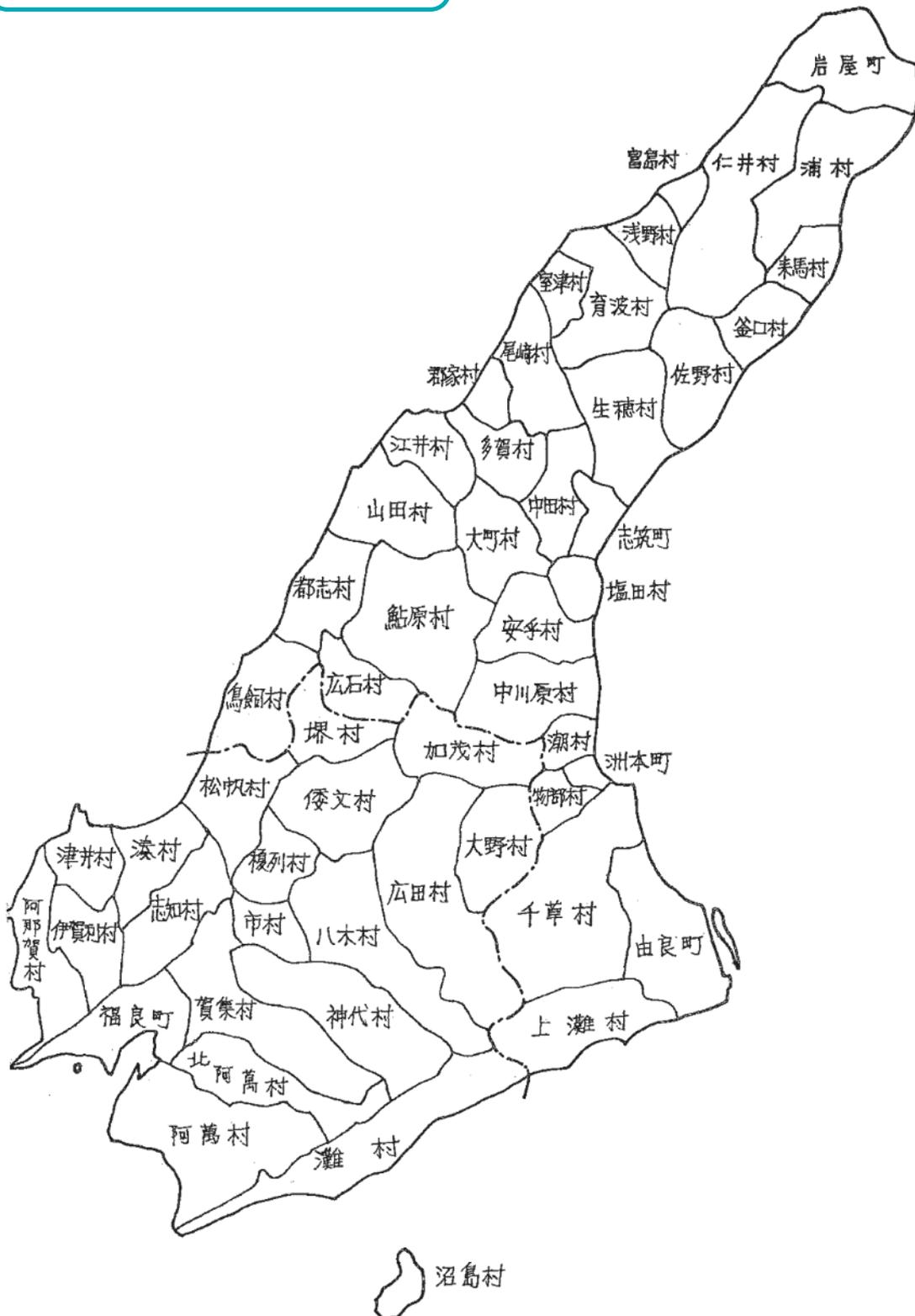
大切に残していこう史跡・名所

- ①淡路国分寺塔跡 (P59, 64, 108)
- ②洲本城跡 (P59, 68, 108)
- ③志知城跡 (P109)
- ④松帆台場跡 (P59, 69, 108)
- ⑤五斗長垣内遺跡 (P59, 63, 108, 130)
- ⑥郡家古墳 (P109)
- ⑦養宜館跡 (P67)
- ⑧旧鐘淵紡績工場跡 (P51, 109)
- ⑨江崎灯台 (P108)
- ⑩伊弉諾神宮 (P77)
- ⑪伊弉沖ノ島古墳 (P63)
- ⑫淳仁天皇陵 (P64)
- ⑬福良鶴島城跡 (P65)
- ⑭お局塚 (P65)
- ⑮高麗陣討死衆の碑 (P68)
- ⑯由良要塞跡 (P72, 109)
- ⑰若人の広場 (P73)
- ⑱おのころ島神社 (P76)



6. 1889年（明治22年）の町村図

明治時代に入り、新しい政治の仕組みが
整った淡路島内の町村図
(5町48村 計53町村)



武田 信一 氏 作図

7. 栄光の記録

淡路島内の中学校・高等学校において、素晴らしい成績を残している部活動がたくさんあります。
輝かしい功績を「栄光の記録」としてまとめました。

【野 球】

- 1953 昭和28年 選抜高等学校野球大会
硬式野球 優勝
県立洲本高等学校
- 1985 昭和60年 全国中学校総合体育大会
軟式野球 優勝
一宮町立一宮中学校



昭和28年 選抜高等学校野球大会 優勝（県立洲本高等学校）

【卓 球】

- | | | | | | |
|------------|--------------|---------|-----|-----------|-------------|
| 1970 昭和45年 | 全国高等学校総合体育大会 | 男子シングルス | 第3位 | 県立洲本高等学校 | 寺岡 浩 |
| 1970 昭和45年 | 全国高等学校総合体育大会 | 女子団体 | 第3位 | 県立洲本高等学校 | |
| 1970 昭和45年 | 全国中学校体育大会 | 男子シングルス | 優勝 | 東浦町立東浦中学校 | 森 高志 |
| 1973 昭和48年 | 全国高等学校総合体育大会 | 女子団体 | 第3位 | 県立洲本高等学校 | |
| 1974 昭和49年 | 全国高等学校総合体育大会 | 女子団体 | 第2位 | 県立洲本高等学校 | |
| 1975 昭和50年 | 全国高等学校総合体育大会 | 女子団体 | 第2位 | 県立洲本高等学校 | |
| 1979 昭和54年 | 全国選抜大会 | 女子団体 | 第2位 | 県立洲本高等学校 | |
| 1979 昭和54年 | 全国高等学校総合体育大会 | 女子ダブルス | 第3位 | 県立洲本高等学校 | 小原 るみ・山本 智子 |
| 1983 昭和58年 | 全国高等学校総合体育大会 | 女子団体 | 第3位 | 県立三原高等学校 | |

【陸上競技】

- | | | | | | |
|------------|-------------------|----------|-----|--------------|-------------------------|
| 1953 昭和28年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 第2位 | 県立三原高等学校 | 棚田 真輔 |
| 1955 昭和30年 | 全国高等学校総合体育大会 | 棒高跳 | 第3位 | 県立三原高等学校 | 真野 修身 |
| 1957 昭和32年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 芝 恵子 |
| 1964 昭和39年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 亀渕 泰子 |
| 1965 昭和40年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 阿万 慶子 |
| 1966 昭和41年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 高坂美恵子 |
| 1967 昭和42年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 高坂美恵子 |
| 1968 昭和43年 | 全国高等学校総合体育大会 | 走高跳 | 第3位 | 県立三原高等学校 | 池田 敏男 |
| 1968 昭和43年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 高坂美恵子 |
| 1971 昭和46年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 原 許恵 |
| 1973 昭和48年 | 全国高等学校総合体育大会 | やり投 | 優勝 | 県立三原高等学校 | 北川真由美 |
| 1975 昭和50年 | 全国高等学校総合体育大会 | 400m走 | 第3位 | 県立津名高等学校 | 山田 道子 |
| 1983 昭和58年 | 全日本中学校陸上競技選手権大会 | 砲丸投 | 優勝 | 三原郡西淡町立辰美中学校 | 山本ひとみ |
| 1994 平成6年 | 全国身体障害者スポーツ大会 | 60m走 | 第2位 | 県立淡路盲学校 | 岡 健太郎 |
| 1994 平成6年 | 全国身体障害者スポーツ大会 | ソフトボール投げ | 優勝 | 県立淡路盲学校 | 岡 健太郎 |
| 1996 平成8年 | 全日本中学校陸上競技選手権大会 | 800m | 第2位 | 洲本市立青雲中学校 | 出口 浩之 |
| 1997 平成9年 | 全国身体障害者スポーツ大会 | ハンドボール投げ | 第3位 | 県立淡路盲学校 | 八木 祐二 |
| 1999 平成11年 | 全国身体障害者スポーツ大会 | 砲丸投 | 優勝 | 県立淡路盲学校 | 吉岡 孝雄 |
| 2003 平成15年 | 全日本中学校陸上競技選手権大会 | 砲丸投 | 第2位 | 洲本市立由良中学校 | 伊奈 龍哉 |
| 2006 平成18年 | 全日本中学校陸上競技選手権大会 | 4×100m | 第3位 | 洲本市立青雲中学校 | 本間 勝成・大樹実成人・田村 勇気・谷口 雅俊 |
| 2009 平成21年 | 全日本中学校陸上競技選手権大会 | 200m | 第3位 | 洲本市立青雲中学校 | 魚里 勇介 |
| 2019 令和元年 | 全日本中学校通信陸上競技選手権大会 | 100m | 優勝 | 洲本市立由良中学校 | 加田 実優 |
| 2020 令和2年 | 全国中学生陸上競技大会2020 | 砲丸投 | 第3位 | 洲本市立由良中学校 | 須田 旺来 |

【水 泳】

2002	平成14年	全国中学校体育大会	200m平泳ぎ	第2位	洲本市立安乎中学校	打越 雅美
2005	平成17年	全国高等学校総合体育大会	400m個人メドレー	第2位	柳学園高等学校	打越 雅美

【バレーボール】

1948	昭和23年	全日本高校女子選手権大会		第3位	県立洲本高等学校	
------	-------	--------------	--	-----	----------	--

【ソフトテニス】

1955	昭和30年	全日本高校選手権大会	男子ダブルス	第3位	県立洲本高等学校	南 和民・上原 高明
2016	平成28年	全国高等学校定時制通信制体育大会	女子団体	優勝	県立洲本高等学校	垣 美月・畑野 舞奈 (兵庫選抜)
2016	平成28年	全国高等学校定時制通信制体育大会	女子ダブルス	第3位	県立洲本高等学校	垣 美月・畑野 舞奈
2017	平成29年	全国高等学校定時制通信制体育大会	女子団体	第3位	県立洲本高等学校	垣 美月・畑野 舞奈・垣 由姫・吉見あげは (兵庫選抜)
2018	平成30年	都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会	女子団体	優勝	洲本市立安乎中学校	中瀬 遥 (兵庫選抜)
2018	平成30年	全国高等学校定時制通信制体育大会	女子ダブルス	第2位	県立洲本高等学校	垣 美月・吉見あげは
2022	令和4年	都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会	男子団体	第3位	洲本市立安乎中学校	樋口 獅維 (兵庫選抜)

【相 撲】

1948	昭和23年	全国高等学校相撲大会	個人	第3位	県立洲本高等学校	山西 輝茂
1949	昭和24年	全国高等学校相撲大会	団体	第3位	県立洲本高等学校	
1950	昭和25年	全国高等学校相撲大会	個人	第2位	県立洲本高等学校	阿部 功
1990	平成2年	全国中学校総合体育大会	団体	第3位	三原郡南淡町立南淡中学校	

【登 山】

2004	平成16年	全国高等学校総合体育大会	男子縦走隊	優勝	県立三原高等学校	
------	-------	--------------	-------	----	----------	--

【漕 艇】

1950	昭和25年	全国高校競漕大会	フィックス男子	優勝	県立洲本高等学校	
1951	昭和26年	全国高校競漕大会	フィックス男子	第2位	県立洲本高等学校	
1954	昭和29年	全国高校競漕大会	ナックルフォア男子	第2位	県立洲本高等学校	
1955	昭和30年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	第2位	柳学園高等学校	
1957	昭和32年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	第3位	柳学園高等学校	
1958	昭和33年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	第3位	柳学園高等学校	
1960	昭和35年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	第3位	柳学園高等学校	
1962	昭和38年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	第2位	柳学園高等学校	
1972	昭和47年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	優勝	柳学園高等学校	
1973	昭和48年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	第2位	柳学園高等学校	
1975	昭和50年	全日本高校選手権大会	舵手付フォア男子	優勝	柳学園高等学校	
1976	昭和51年	全日本高校選手権大会	舵手付フォア男子	第3位	柳学園高等学校	
1981	昭和56年	全日本高校選手権大会	ナックルフォア女子	優勝	柳学園高等学校	
1983	昭和58年	全国高等学校総合体育大会	ナックルフォア男子	第3位	柳学園高等学校	
1985	昭和60年	全国高等学校総合体育大会	ナックルフォア男子	第3位	県立洲本高等学校	
1988	昭和63年	全国高等学校総合体育大会	ナックルフォア男子	第2位	県立洲本高等学校	
1989	平成元年	全国高等学校総合体育大会	舵手付フォア男子	第2位	柳学園高等学校	
1989	平成元年	全国高等学校総合体育大会	ナックルフォア男子	第2位	県立洲本高等学校	
1990	平成2年	全国高校選抜大会	舵手付フォア女子	第2位	柳学園高等学校	
1990	平成2年	全国高等学校総合体育大会	ナックルフォア女子	第3位	柳学園高等学校	

1990	平成2年	全国高等学校総合体育大会	ナックルフォア男子	第2位	県立洲本高等学校	
1991	平成3年	全国高等学校総合体育大会	舵手付フォア男子	第2位	柳学園高等学校	
1991	平成3年	全国高等学校総合体育大会	ダブルスカ女子	第2位	柳学園高等学校	
1991	平成3年	全国選抜競漕大会	ナックルフォア男子	第2位	県立洲本高等学校	
1993	平成5年	全国高校選抜大会	ジェルフォア女子	第3位	柳学園高等学校	
1993	平成5年	全国高等学校総合体育大会	ジェルフォア男子	優勝	柳学園高等学校	
1993	平成5年	全国高等学校総合体育大会	舵手付フォア女子	第2位	柳学園高等学校	
1995	平成7年	全国高等学校総合体育大会	舵手付フォア女子	優勝	柳学園高等学校	
1995	平成7年	全国選抜競漕大会	ジェルフォア女子	優勝	県立洲本高等学校	
1999	平成11年	全国高等学校総合体育大会	女子シングルスカ	第3位	県立洲本実業高等学校	福田 真穂
2001	平成13年	全国高等学校選抜競漕大会	男子シングルスカ	優勝	県立洲本実業高等学校	山口 浩之
2002	平成14年	全国高等学校総合体育大会	男子シングルスカ	優勝	県立洲本実業高等学校	山口 浩之
2004	平成16年	全国高校選抜大会	ダブルスカ女子	第3位	柳学園高等学校	
2005	平成17年	全国高等学校総合体育大会	ダブルスカ女子	第3位	柳学園高等学校	
2007	平成19年	全国高校選抜大会	男子団体	第3位	柳学園高等学校	
2011	平成23年	全国高校選抜大会	女子シングルスカ	第2位	柳学園高等学校	

【柔 道】

2002	平成14年	全国中学校総合体育大会	個人	第2位	三原郡南淡町立南淡中学校	正木 健人
2016	平成28年	全国中学校総合体育大会	団体	第3位	南あわじ市立南淡中学校	
2019	令和元年	全国中学校総合体育大会	団体	第3位	南あわじ市立南淡中学校	

【ウェイトリフティング】

1989	平成元年	全国高等学校総合体育大会	60kg級	優勝	県立津名高等学校	小松 博志
1989	平成元年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選手権大会	100kg級	第2位	県立洲本実業高等学校	車崎 太一
1989	平成元年	全国高等学校総合体育大会	100kg級	第3位	県立洲本実業高等学校	車崎 太一
1999	平成11年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会	77kg級	第3位	県立淡路高等学校	中谷 隆昭
2000	平成12年	全国高等学校総合体育大会	69kg級	優勝	県立淡路高等学校	中村 亮啓
2002	平成14年	全国高等学校総合体育大会	69kg級スナッチ	優勝	県立洲本実業高等学校	谷口 弘二
2002	平成14年	全国高等学校総合体育大会	69kg級トータル	優勝	県立洲本実業高等学校	谷口 弘二
2002	平成14年	全国高等学校総合体育大会	69kg級ジャーク	優勝	県立洲本実業高等学校	谷口 弘二
2002	平成14年	全国高等学校総合体育大会	105kg級	第3位	県立淡路高等学校	東根 忠助
2006	平成18年	全国高等学校総合体育大会	69kg級	第2位	県立淡路高等学校	仲尾 和也
2007	平成19年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選手権大会	75kg級	第3位	県立淡路高等学校	榎本 千紗
2007	平成19年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会	75kg級	第2位	県立淡路高等学校	藤田真奈美
2008	平成20年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会	75kg級	第3位	県立淡路高等学校	藤田真奈美
2008	平成20年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会	75kg級	優勝	県立淡路高等学校	藤田真奈美
2009	平成21年	全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会	75kg級	優勝	県立淡路高等学校	藤田真奈美
2010	平成21年	全国高等学校総合体育大会	85kg級	第3位	県立淡路高等学校	三原 真吾
2011	平成23年	全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会	53kg級	第2位	県立淡路高等学校	里深 瑞季
2012	平成24年	全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会	85kg級	優勝	県立洲本実業高等学校	小野川竜都
2012	平成24年	全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会	53kg級	優勝	県立淡路高等学校	里深 瑞季
2013	平成25年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選手権大会	82.5kg級	優勝	県立洲本実業高等学校	小野川竜都
2013	平成25年	全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会	48kg級	第2位	県立淡路高等学校	有働乃里日
2015	平成27年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選手権大会	75kg級	優勝	県立洲本実業高等学校	坂口 葵
2015	平成27年	日韓中ジュニア交流競技会	62kg級	第3位	県立淡路高等学校	桑名 慶門
2015	平成27年	全国高校選抜大会	62kg級	優勝	県立淡路高等学校	桑名 慶門
2015	平成27年	全国高等学校総合体育大会	62kg級トータル	第2位	県立淡路高等学校	桑名 慶門
2015	平成27年	全国高等学校総合体育大会	62kg級スナッチ	優勝	県立淡路高等学校	桑名 慶門
2015	平成27年	国民体育大会	62kg級	第3位	県立淡路高等学校	桑名 慶門
2016	平成28年	全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会	75kg級	優勝	県立洲本実業高等学校	坂口 葵
2017	平成29年	全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会	53kg級	第2位	県立洲本実業高等学校	角所 倫生
2018	平成30年	全国高等学校総合体育大会	53kg級	第3位	県立洲本実業高等学校	角所 倫生

【全国高等学校総合文化祭】

1993	平成5年	郷土芸能部門	優秀賞	県立三原高等学校	
1993	平成5年	写真の部	優秀賞	県立洲本高等学校	竹田 一平
1994	平成6年	郷土芸能部門	文化連盟賞	県立志知高等学校	
1994	平成6年	書道の部	文化連盟賞	県立洲本高等学校	松井 博士
1994	平成6年	写真の部	優秀賞	県立洲本高等学校	千葉 淳司 福谷 泰斗
1995	平成7年	写真の部	優秀賞	県立洲本高等学校	清水 勇起
1998	平成10年	郷土芸能部門	文化庁長官賞	県立三原高等学校	
1998	平成10年	書道部門	推薦賞	県立津名高等学校	顕家 悠葵
1998	平成10年	写真部門	推薦賞	県立津名高等学校	岡野 育恵
1999	平成11年	ビデオ部門	文化連盟賞	県立三原高等学校	
1999	平成11年	写真部門	最優秀賞	県立洲本高等学校	清川 良美
2000	平成12年	書道部門	文化連盟賞	県立三原高等学校	納 さより
2001	平成13年	書道部門	文化連盟賞	県立三原高等学校	納 あかり
2001	平成13年	美術部門	文化連盟賞	県立三原高等学校	木下真由美
2002	平成14年	書道部門	文化連盟賞	県立三原高等学校	原口あゆみ
2002	平成14年	郷土芸能部門	文化連盟賞	県立志知高等学校	
2017	平成29年	放送部門 ビデオメッセージ部門	審査員特別賞	県立淡路高等学校	
2019	令和元年	美術・工芸部門	文化連盟賞	県立洲本実業高等学校	坂口 葵

【NHK杯全国高校放送コンテスト】

1988	昭和63年	ラジオ自由部門	第3位	県立三原高等学校	
1991	平成3年	ラジオ番組部門	第2位	県立三原高等学校	
1991	平成3年	テレビ番組部門	第3位	県立三原高等学校	
1993	平成5年	ラジオ番組部門	第3位	県立三原高等学校	
1994	平成6年	ラジオ番組部門	第3位	県立三原高等学校	
1994	平成6年	テレビ番組部門	優勝	県立三原高等学校	
1997	平成9年	テレビ番組部門	第3位	県立三原高等学校	
1998	平成10年	テレビ番組部門	優良賞	県立三原高等学校	
1999	平成11年	テレビドキュメント部門	優勝	県立洲本高等学校	
2001	平成13年	テレビドキュメント部門	優良賞	県立三原高等学校	
2006	平成18年	テレビドキュメント部門	第2位	県立洲本高等学校	
2008	平成20年	テレビドキュメント部門	第2位	県立津名高等学校	
2012	平成24年	テレビドラマ部門	優勝	県立洲本高等学校	
2012	平成24年	テレビドキュメント部門	優良賞	県立津名高等学校	
2013	平成25年	テレビドキュメント部門	優勝	県立洲本高等学校	
2017	平成29年	テレビドキュメント部門	制作奨励賞	県立淡路高等学校	

【全国ギターマンドリンフェスティバル】

1980	昭和55年	～ 2023 令和5年	優秀賞 29回 受賞	県立津名高等学校	
------	-------	-------------	------------	----------	--

【1・17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」】

2005	平成17年		グランプリ	県立淡路高等学校	
------	-------	--	-------	----------	--

※全国中学校体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国高等学校総合文化祭等の記録を参考にまとめました。



まつほ 松帆銅鐸は大発見だらけ!!

平成27年4月に南あわじ市内にある工場の砂山から、2000年以上昔(弥生時代)に作られた7個の銅鐸が見つかりました。最初に発見した人は「教科書で見たことがあるぞ!」と思ったそうです。

★大発見 その1 『一番古い形の銅鐸だった!』

7個のうち1個は一番古い菱環鈕式という形の銅鐸でした。(手前から2番目) 今までに日本で11個しか見つかっていない種類で、淡路島では江戸時代初めに洲本市中川原町からも1個見つかっていました。他の6個は次に古い外縁付鈕式という形の銅鐸でした。

★大発見 その2

『舌がたくさんあった!』
それぞれの銅鐸の中には青銅製の鳴らすための棒(舌)が入っていて、合計7本見つかりました。これまでに銅鐸と舌が一緒に見つかることはほとんどなく、南あわじ市慶野(中の御堂銅鐸)、鳥取県(泊銅鐸)に次いで3番目の例になりました。



松帆銅鐸 (写真: 奈良文化財研究所)

青銅器って?

銅・鉛・錫を混ぜ合わせて作られた金属器なんだ。弥生時代に中国大陸から技術が伝わり、日本でも作られるようになったんだニャー。



★大発見 その3 『ひもが残っていた!』

舌には吊り下げたための植物で作ったひもが残っていました。銅鐸の原料である銅の防錆作用が働いて、腐らずに残ったと考えられます。ひもが確認できたのは全国で初めてのことです。

★大発見 その4 『大量に見つかった!』

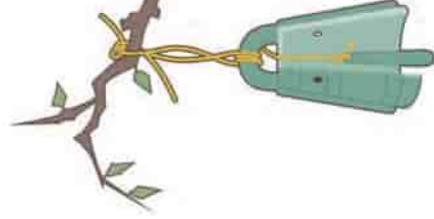
兵庫県は銅鐸の出土数が全国一多い県(68個)です。そのうち、淡路島では松帆銅鐸を含めて21個が見つかっています。松帆銅鐸は全国で4番目に多くまとまって見つかり、特に古い銅鐸が一度に大量に埋められた珍しい例です。

★大発見 その5 『鳴らす銅鐸だった!』

松帆銅鐸は何度も音を鳴らしたために、舌と内側が非常にすり減っている部分があります。このことから古い時代の銅鐸は音を聞く銅鐸であることがわかりました。

★大発見 その6 『特別な場所だった!』

松帆銅鐸が見つかった砂山は、もともとは南あわじ市松帆地区の田などの下からとった砂です。その近くからは、江戸時代初めには慶野(中の御堂銅鐸)や、昭和4年には14本の銅剣(古津踏銅剣)が見つかっています。この海岸に近い地域は青銅器を埋めるところとして特別な場所だったようです。



銅鐸って?

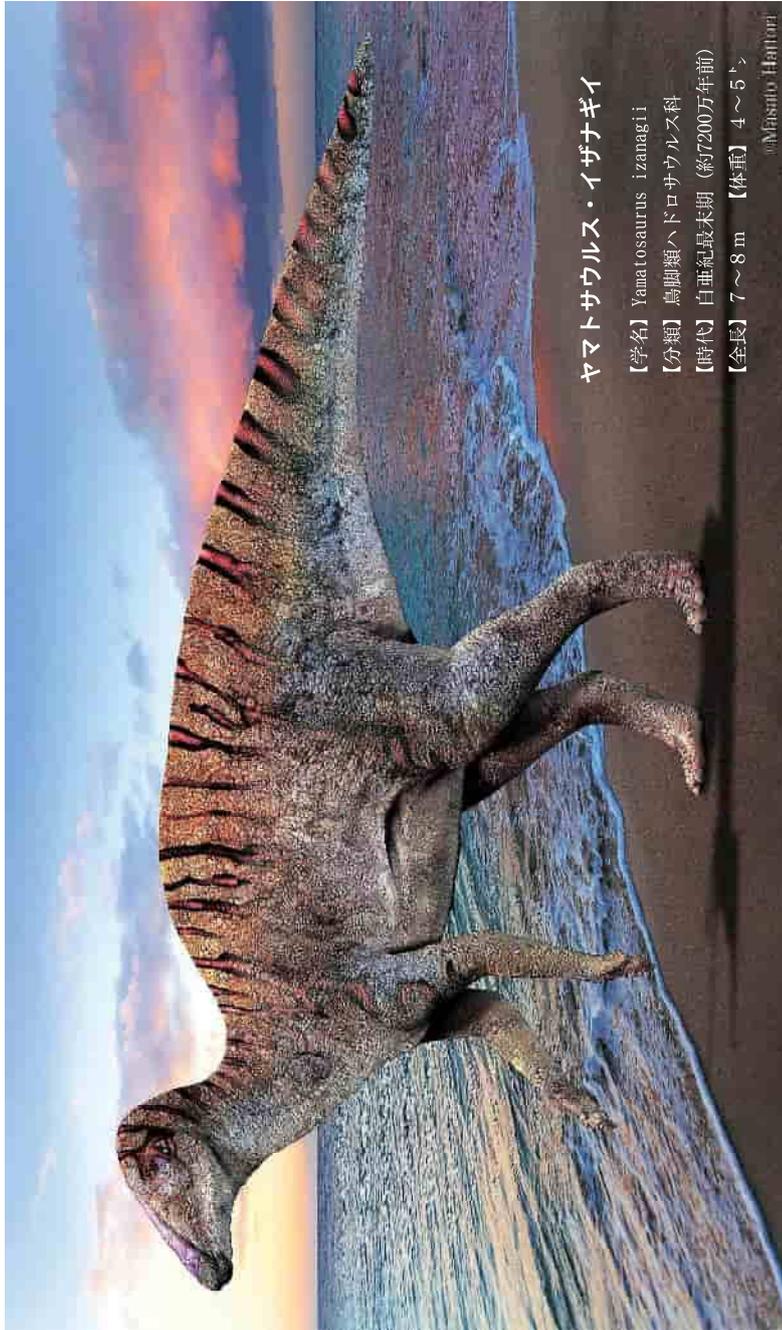
弥生時代に使われていた青銅器のひとつで、農耕のお祭りに使った道具と考えられているんだ。高さ20~140cmの釣鐘形をしたベルで、上部には米田形のつり手と、両側には鑿があるよ。はじめは風鈴のように中に棒(舌)を吊り下げて鳴らしていたんだけど、新しくなるにつれて鑿が増えだして大きくなり、見ための鑿りの道具に変化していったんだニャー。



洲本市から発見された恐竜化石「ヤマトサウルス・イザナギイ」

平成十六年（二〇〇四）の春に洲本市の和泉層群と呼ばれる地層から恐竜の化石が発見されました。十七年の時を経て、令和三年（二〇二一）に、発見された化石がハドロサウルス科の新属新種のものであることが発表され、「ヤマトサウルス・イザナギイ」と命名されました。

名前の由来は、「淡路島」で発見され、ハドロサウルス科の起源に重要な役割を持っていることから、古代の日本を示す「倭（やまと）」と、古事記の「国生み神話」に登場する神様「伊弉諾尊（いざなぎのみこと）」にちなんで名づけられました。



ヤマトサウルス・イザナギイ

【学名】 Yamatosaurus izanagii
 【分類】 鳥脚類ハドロサウルス科
 【時代】 白亜紀最末期（約7200万年前）
 【全長】 7～8 m 【体重】 4～5 t
 ©Masato Hattori

出典 洲本市教育委員会『淡路島洲本の歴史巡り』

約7200万年前の地層から

ハドロサウルス科の恐竜は、カモのような平らで長いクチバシが特徴で、何層にも重なった特殊な歯で植物を食べていたとされる恐竜です。研究の結果、下あごの骨や歯の特徴が他のハドロサウルス科の恐竜と異なることや、肩や前肢の進化がハドロサウルス科の起源において重要であることが分かりました。

淡路文化史料館では、発見されたヤマトサウルス・イザナギイの化石レプリカや、復元頭骨、実物大生体復元画などを展示しています。



ナギイちゃんとお友達になりたいニャー。

淡路文化史料館
 オリジナルキャラクター「ナギイ」
 ヤマトサウルス・イザナギイの「ナギイ」



▲発見された下あごの一部のレプリカ（長さ約50cm、高さ約20cm）

奇数(西浦)

偶数(東浦)

淡路島一周まんぷくすころく めざせ!御食国王!!

START & GOAL 岩屋



左ヒラメに右カレイ。
私はカレイ。



ブドウ



ノリ



ラッキー!!



サイコロを振って
出た目の数だけもどる。



春告げ魚。
煮付けにするとおいしい!



とうもろこし



ねぎ



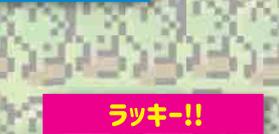
西浦回りは
STOP!

西浦回りのプレイヤー

サイコロを振って出た目が
奇数……鯛そうめん
偶数……ヨーグルト
※東浦回りは鯛そうめんへはいけません。



こっちはタチウオ。
あっちはハモ。



ラッキー!!



サイコロを振って
出た目の数だけもどる。

西浦回りは
STOP!

西浦回りのプレイヤー

サイコロを振って出た目が
奇数……ヒラメ
偶数……レタス
※東浦回りはレタスへはいけません。



鯛そうめん

「淡路島一周まんぷくすころく」
って、なあに?

食材の宝庫「淡路島」。古代から平安時代まで、淡路島は「御食国」と呼ばれていたと「延喜式」という本に書かれているんだ。若狭の国(福井県)、志摩の国(三重県)、淡路の国の三つが御食国とされていて、主に朝廷に海産物を納めていたんだって。昔も今も食材の宝庫「淡路島」。「淡路島一周まんぷくすころく」で淡路島を一周しながら、食材の名前を全部覚えて、「御食国王」になっちゃおう!

ルール

- ① スタートとゴールは、淡路島の北の玄関「岩屋」。
- ② まずグループで順番を決めよう。
- ③ 一番の人からサイコロを振り、出た目が奇数なら西浦側(カレイの方)、偶数なら東浦側(タコの方)へ進もう。
- ④ 止まったマスの食材は必ずすれずにメモしておこう。また、止まったマスの指示には、かならず従おう。
- ⑤ ゴールしたら、食材メモを元に、食材ポイントを計算しよう。配点は1つの食材につき1ポイント(ただし「舟盛り」・「ステーキ」・「鯛そうめん」(赤粋のマス)は、ボーナスポイントで2点ゲット)。
- ⑥ グループの中で食材ポイントが一番多い人が「御食国王」だ!!

こまの作り方・サイコロの作り方

- (1) 4cm×2cmの画用紙を出し、山折りにして立てる。
- (2) (1)の画用紙に好きな食材を書く(食べ物イラストを描くとGOOD!)
- (3) サイコロは5年生で学習する立方体で作ろう。

東浦回りは
STOP!

東浦回りのプレイヤー

サイコロを振って出た目が
奇数……あわじビーフ
偶数……沼島のハモ
※西浦回りは沼島へはいけません。



こっちは沼島のハモ。
あっちがタチウオ。

写真・資料などご協力いただいた方々

(個人)

石川 栄一 泉 清治 井上裕里江 榎本 靖子 大村 公夫 岡田 征三 木村 幸一
木村 卓司 黒田 紀子 定本 義広 清水 秀幸 高田 知昭 竹岡 秀樹 田辺航太郎
谷本 正浩 長坂 克巳 中川 宜昭 中田 高 永田 秀一 西野 純子 西橋 弘
沼津 知明 野水 正朔 花岡 幸男 原田 修一 平野 政江 丸井 貴文 湊 格
皆川浩一郎 村上 明男 村上 利明 吉井 康人 (五十音順、敬称略)

(団体)

淡路県民局洲本健康福祉事務所・淡路県民局洲本農林水産振興事務所・淡路市・淡路市教育委員会・淡路島観光協会・淡路島サワラ食文化推進協議会・淡路島国営明石海峡公園・淡路市陶芸館・淡路スカイスポーツクラブ・淡路青年会議所・あわじ菜の花エコプロジェクト推進会議・淡路地方史研究会・淡路手延素麺協同組合・淡路人形座・生田地域活性協議会・(一財)淡路島くにうみ協会・(一財)神戸市水道サービス公社・ウェルネスパーク五色・NPO法人淡路島環境整備機構・(株)淡路貴船太陽光発電所・(株)淡路ジェノバライン・環境省・関電エネルギー開発(株)・慶野自治会・(公財)兵庫県園芸・公園協会・神戸地方気象台・五斗長まちづくり協議会・3地区連携推進協議会・三洋電機(株)・塩屋天体観測所・塩屋土地(株)・ジョイポート南淡路(株)・食のブランド「淡路島」推進協議会・四国電力株式会社・洲本市・洲本市教育委員会・洲本市立淡路文化史料館・高田屋顕彰館・特定非営利活動法人洲本域学連携研究所・長澤元気村協議会・沼島総合観光案内所「吉甚」・のじまスコーラ・野島断層保存北淡震災記念公園・ハーモニーファーム淡路・パルシェ香りの館・兵庫県森林動物研究センター・兵庫県線香協同組合・兵庫県社会福祉事業団・兵庫県立淡路景観園芸学校・兵庫県立淡路島公園・兵庫県立淡路文化会館・兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県立歴史博物館・本州四国連絡高速道路(株)・ミツ精機(株)・南あわじ市・南あわじ市教育委員会・山本光学(株) (五十音順)

(さし絵協力校)

洲本市立青雲中学校・洲本市立由良中学校・南あわじ市立三原中学校・淡路市立岩屋中学校・淡路市立一宮中学校

参考文献

- 「淡路学読本」 淡路島デザイン会議
- 「淡路祭事記365日」 神戸新聞淡路総局編
- 「淡路史」 新見 貫次 ひょうご文庫
- 「淡路島百景」 洲本土木事務所
- 「あわじ島通信 創刊号・vol 2・vol 3」 淡路広報ネットワーク会議
- 「淡路島の100年」 郷土出版社
- 「淡路島の民族芸能 I」 兵庫県教育委員会
- 「淡路地方史」 大江 恒夫 文芸社
- 「淡路町史」 淡路町
- 「淡路人形座 バックステージツアー」 淡路人形座
- 「淡路島の古代・中世研究」 武田 信一 神戸新聞総合出版センター
- 「淡路島の社日信仰」 田村 正 淡路地方史研究会

「淡路島 白地図」 テクノメイト
「淡路野掛浄瑠璃芝居」 宗 虎亮
「あわじの地名」 武田 信一
「淡路の伝統芸能と文化」 淡路県民局・淡路文化会館
「淡路方言」 興津 憲作 兵庫県立淡路文化会館
「淡路方言研究」 田中 萬兵衛 図書刊行会
「淡路方言の研究」 欄宜田 龍昇 神戸新聞総合出版センター
「淡路ゆかりの50人」 神戸新聞総合出版センター
「伊弉諾神宮パンフレット 幽宮」 伊弉諾神宮
「活断層って、何？」 (株)ほくだん
「環境未来都市提案書」 兵庫県・洲本市・南あわじ市・淡路市
「キッズ南あわじ」 南あわじ市教育委員会
「郷土の民話 淡路編」 兵庫県学校厚生会編
「くにうみの島淡路の歴史」 淡路文化協会・兵庫県文化協会編集
「原子力・エネルギー図面集」 エネ百科
「ここに人あり 淡路人物誌」 田村 昭治 (株)教育出版センター
「地震はどうして起きるんだろう？」 (株)ほくだん
「島の生きものたち」 淡路自然研究保護連合会
「島の生き物はいま」 特定非営利活動法人 ネイチャーアソシエーション 自然環境研究所
「食育推進計画～食で育む元気なひょうご～」 兵庫県
「洲本市史」 洲本市
「続近世淡路史考」 武田清市古稀記念会
「続三原郡史」 南あわじ市
「淡園写真帖」 淡国書房
「地域伝統文化誌 ふるさとをたずねて～阿万再発見～」 阿万ふれあい交流広場推進委員会
「電力事情について」 電気事業連合会
「農林業センサス」 農林水産省
「野島断層 大地が動いた」 (株)ほくだん
「東浦町史」 東浦町
「兵庫県史 第2巻 巻頭写真」 兵庫県
「兵庫県南部地震を考える(1996年3月)」 兵庫県立人と自然の博物館
「兵庫県の歴史散歩 上」 兵庫県の歴史散歩編集委員会編
「ひょうごの野生動物～絶滅が心配されている動物たち～」 神戸新聞総合出版センター
「北淡町誌」 北淡町
「みけつくに淡路島の風土&フード」 淡路おみなのか
「南あわじ市食育推進計画～みんなでおいしく楽しく食でつながる南あわじ～」 南あわじ市
「三原郡史」 三原郡史編纂委員会編
「みはらの文化」 三原町教育委員会
「わかる！国際情勢 vol.86」 外務省
「わたしたちの淡路市」 淡路市教育委員会
「わたしたちのまち洲本」 洲本市教育委員会
「淡路島洲本の歴史巡り」 洲本市教育委員会

作成にご協力いただいた方々

(作成時)

【アドバイザー】

生嶋 史朗 (環境省自然公園指導員)

浦上 雅史 (巖島神社宮司)

大住 武義 (淡路文化会館)

海部 伸雄 (淡路地方史研究会会員)

武田 信一 (淡路地方史研究会会長)

竹田 俊道 (環境省自然公園指導員)

(五十音順、敬称略)

【作成に携わっていただいた先生方】

赤松美弥子 (洲本市立加茂小学校)

中谷 崇人 (洲本市立鳥飼小学校)

日外 千景 (淡路市立志筑小学校)

中山 義章 (淡路市立室津小学校)

浅井多都子 (南あわじ市立賀集小学校)

西山 文武 (洲本市立鮎原小学校)

石橋 治文 (洲本市立由良小学校)

浜田 啓久 (南あわじ市立湊小学校)

上原 泉 (南あわじ市立神代小学校)

林 さなえ (淡路市立学習小学校)

奥本 憲治 (南あわじ市立榎列小学校)

引田 真弓 (南あわじ市立辰美小学校)

佐藤 雅弘 (洲本市立中川原小学校)

福原 広行 (洲本市立洲本第一小学校)

瀬尾 丈春 (南あわじ市立西淡志知小学校)

古川 英治 (淡路市立山田小学校)

大道 伸一 (淡路市立東浦中学校)

古田 文 (南あわじ市立阿万小学校)

高鍋謙二郎 (洲本市立洲本第三小学校)

前川 和也 (南あわじ市立三原中学校)

武中 瑞穂 (洲本市立広石小学校)

三浦 浩一 (南あわじ市立灘小学校)

谷 宜憲 (淡路市立岩屋中学校)

南 志乃婦 (淡路市立育波小学校)

藤家 克彦 (洲本市立大野小学校)

吉田 浩子 (淡路市立中田小学校)

徳梅 昌行 (淡路市立北淡中学校)

(五十音順、敬称略)

【表紙・裏表紙の作品について】

・作者：ゼルニク早織

STOTTピラティスのインストラクター。

慶野松原の保全活動を行っている「淡路島・慶野松原根上がり隊」代表としても活躍中。

アート倶楽部SORAに在籍し絵画を学び続けています。



・作者のことば

表紙の絵は、淡路島の豊かな海が舞台です。裏表紙の絵は、私にとってのふるさとである、慶野松原。そして、隣の浜である五色浜の小石を一つ一つ拾って、砂浜の小石の色を再現してみました。一見、茶色から白にかけて単純色に見える砂浜ですが、一つ一つ小石を手にとってみると同じ色のパターンはありません。岩石の種類、形、色彩が豊かで一つとして同じ石がない事に気がつきます。大昔からそこに存在し、これからも変わらぬ、ふるさとの色です。これらのイメージを最も古い幾何学的シンボルの一つである円を使って表現してみました。途切れることなく続く淡路島の未来と、島で育った子供達が自分達の個性を伸ばしそれぞれの夢に羽ばたいていけますように。との思いを込めて描きました。

おわりに

淡路教育事務所長

2012年（平成24年）10月に開催された「淡路くにうみ夢フォーラム」をきっかけに「淡路ふるさと学習副読本—ふるさと淡路島—」を作成することとなりました。そして2015年（平成27年）4月には、南あわじ市で2000年以上前に作られた7個の銅鐸が発見されるという大ニュースが淡路島から全国に向けて発信されました。

本書には、こうした歴史的な出来事だけでなく、自然や伝統文化、産業、神話、偉人など、淡路島について様々な項目が記載されています。子どもたちがこうした内容にふれていくことで、淡路の産業や交通はどのように発達してきたのか、祭りや風習にはどんな意味があるのか、伝統芸能や景観を守るためにどのような努力を重ねてきたのかなど様々な角度から学習し、淡路島の魅力・素晴らしさを再発見してほしいと思っています。

このように魅力あふれる淡路島ですが、人口減少や少子高齢化など、地域の将来を考える上で大きな課題もあります。子どもたちがこの副読本を学習することによって、住人の一人として、これからの淡路島をどのようなところにしていきたいかなど考えるきっかけになれば、これほどうれしいことはありません。

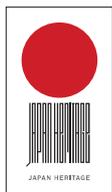
各学校現場には、教科や特別活動、行事など、本書を学校教育活動全体で活用していただくよう要請していきたいと考えていますが、さらに、子どもたちが本書を自宅に持ち帰り、ご家族の方と共に手にとって、淡路島の昔の暮らしや地域の祭り、時には将来の姿などについて語り合っていただくような活用の仕方もすすめていきたいと思っています。

本書の作成にあたりましては、「あわじ環境未来島・淡路ふるさと学習副読本作成委員会」委員の皆様をはじめ、学校現場の代表として参加をお願いした「淡路ふるさと学習副読本作成部会」の27名の先生方、挿絵用の絵画を作成してくれた島内の中学生の皆さん、資料探しの相談に対応してくださった成錦堂様、その他、資料や写真の提供や著作物の使用許諾をしていただいた皆様等、多くの方々にご協力・ご支援をいただきました。ありがとうございました。

今後、この副読本を活用した「ふるさと学習」を推進することによって、淡路島が好きな子、淡路島を誇りに思える子、進学や就職で島外に出ても、いつかは戻ってきたいと思う子が育つことを願っています。

『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」

～古代国家を支えた海人の営み～



日本遺産マーク



淡路日本遺産マーク

平成28年4月に、淡路島から申せいでいた“『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～”をタイトルとするストーリーが日本遺産に認定されました。日本で一番古い奈良時代の歴史書『古事記』

の最初に登場する「国生み神話」で、最初に生まれた大切な島として描かれているのが淡路島です。そこには、日本の国が誕生する中で、大きな役割を果たした淡路島の歴史がありました。松帆銅鐸や五斗長垣内遺跡などの遺跡や先山千光寺や伊弉諾神宮などの神話伝承地、鳴門の渦潮や紀淡海峡の由良・成ヶ島、明石海峡などの島を囲む海峡などは、島の大切な歴史を知ることができる貴重な文化財です。淡路島は、太古の昔から、“海人（あま）”とよばれた人たちが暮らす島でした。海を舞台に活躍した海人たちが残した貴重な文化財は、国の誕生に大きなかかわりを持った淡路島の歴史を物語っています。

「淡路ふるさと学習副読本 ーふるさと淡路島ー」

2014年（平成26年）3月（初版第1刷）

2026年（令和8年）3月（初版第13刷）

発行 兵庫県淡路県民局

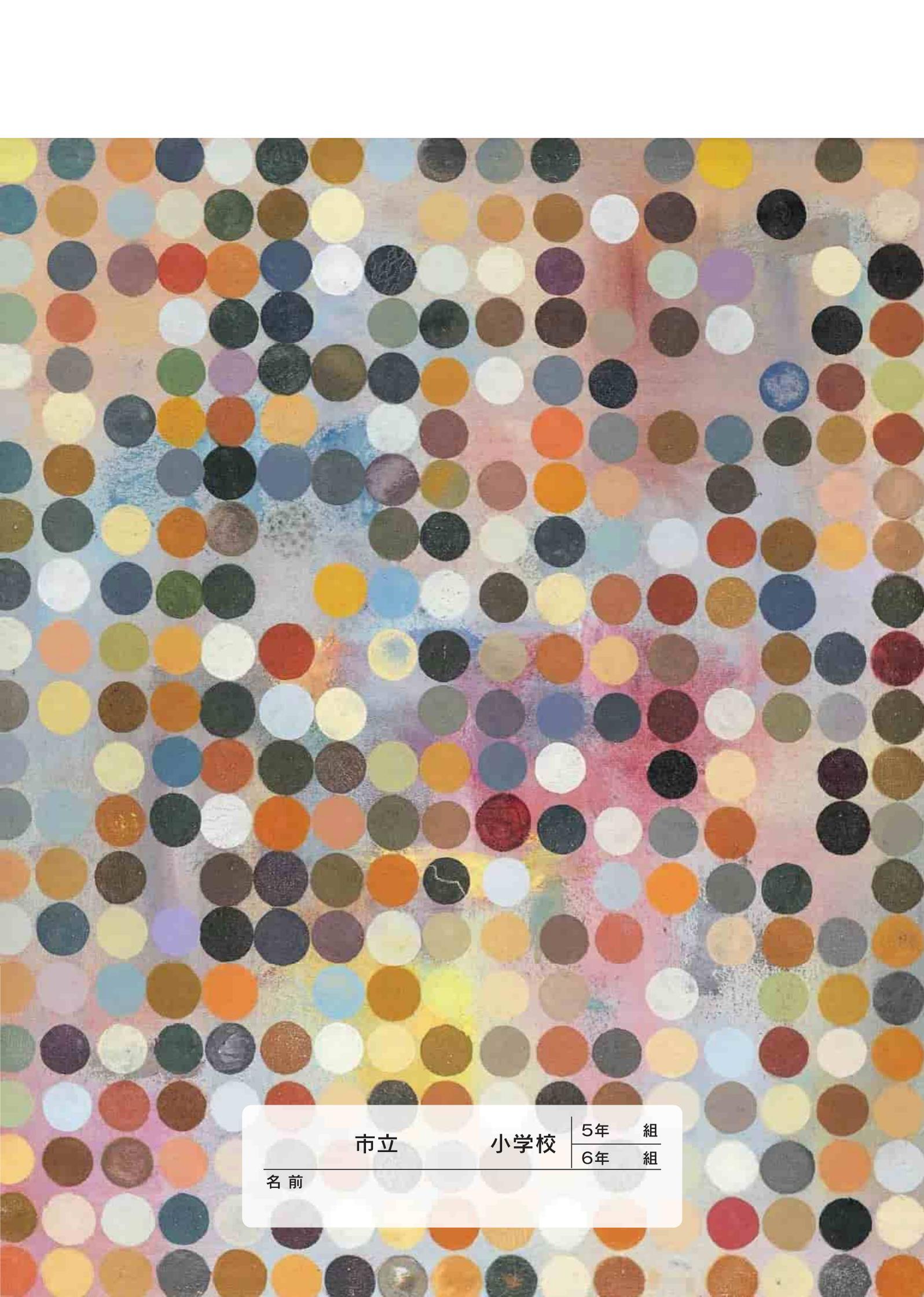
兵庫県教育委員会淡路教育事務所

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5

TEL. 0799-22-3541（県民局）

TEL. 0799-26-3205（教育事務所）

印刷 有限会社浜田デザイン写植



市立	小学校	5年	組
		6年	組
名前			